

協同教育実践資料 25

仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成

—課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して—

設楽町立設楽中学校 著
村松忠男・杉江修治 監修

仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成
—課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して—

設楽町立設楽中学校 著

村松忠男・杉江修治 監修

目 次

緒言	2
I 2020年度公開研究会資料	5
II 2019年－2020年 研修会資料	75
1 2019年度 第1回研修会	77
2 2019年度 第1回研修会講座資料	84
3 2019年度 第2回研修会	91
4 2019年度 第2回研修会講座資料	95
5 2019年度 第3回研修会	99
6 2019年度 第4回研修会	105
7 2019年度 第5回研修会	113
8 2019年度 第6回研修会	119
9 2020年度 第1回研修会	127
10 2020年度 第1回研修会講座資料	134
11 2020年度 第2回研修会	139
12 2020年度 第3回研修会	149
III 設案中学校の取り組みについて	163

緒 言

3年前の教務主任（兼研究主任）は、授業での悩みを次のように語った。「自分の考えをもっているが発言しない生徒が多いんです。」「高校入試のことを考えると、私が教えている時間を削る勇気がありません。」そこから、「なぜ、生徒が発言しない授業になってしまうのか。」「なぜ、教師が話し続けてしまう授業になってしまうのか。」という課題が見えてきた。私たちの授業づくりを見つめ直すとてもよい視点である。授業中の発言が形式的なものになっており、生徒に必要感をもたせていないこと、対話を通した協力的な課題解決の活動が少ないことなど、改善すべき方向性が定まってきた。

そんな折、教務主任が本地区の研修会で講義を受けたのが、杉江修治先生と協同学習の出会いである。研修内容の報告を受け、杉江先生の著書に目を通す。この方にご指導を仰げば、教務主任の前述の悩みを解消し、若手も授業づくりの基本を身につけることができるであろう。きっと、本校に新たな風を呼び込んでくださるであろうと確信した。

さて、本校概略を紹介する。愛知県北設楽郡設楽町の3中学校が統合して、本校が開校して20年目となる。開校当時の生徒数は156名であったが、現在、通常学級3、特別支援学級3の6学級、全校生徒61名のへき地小規模学校である。学区内には4小学校があり、バス通学生徒が3分の2を占める。

平成31年4月からの2年間、北設楽地方教育事務協議会の研究委嘱をいただいた。教職員の職能開発を目指し、研究体制を確立する格好の機会を得た。各教科を担当する一人一人の教職員の授業力向上が、生徒の学力・生きる力を伸ばすことにつながるということと、研究を前向きにとらえ、背伸びせずにできることを確実に進めていくことを確認し合った。研究主題を「仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成 ～課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して～」とし、実践を積み重ねてきた。管理職を除く定数16名の教職員のうち35歳以下が10名を占める本校において、長期的な人材育成を視野に入れて現職研修を充実させる必要がある。教務主任がとらえた本校の生徒の実態、日々の授業の課題について、前述のとおり校長と繰り返し面談をして研究の方向性を提示した。指導助言をいただく講師として、杉江修治先生お一人に絞り、「協同学習」の理念を取り込んだ授業づくりを推進し、各教科に共通する本校の授業スタイルをつくってきた。

この研究推進に当たり、組織の編成を工夫した。指導案検討と授業研究を進める3つの学年部と、研究理論の整理と実践を検証する研究3部会を組織した。研究3部会とは、研究のサブタイトル「課題設定」「個人思考」「話し合い」を示しており、研究の仮説もこの3項目に合わせて設定した。その3部会に3名のミドルリーダーを配置した。そして、研究主任だけでなく各部会のリーダーを協同学習の研究会に派遣し、本校の研究に反映させた。このことにより、研究がやられているものではない



【本校校舎】

く自分たちでつくっていくものという気風がさらに高まった。研究授業の検討会は、グループ協議を基本とした。所属する研究3部会それぞれの立場から意見を出せるので、若手教員も遠慮なく何度も発言できた。その後のグループ協議の報告を1年目から3年目の教員が理路整然と語る姿も見られた。

このように研究を推進してきた結果、生徒は、単元を貫く課題や毎時間の授業の課題を自分事としてとらえ、解決に向けて意欲的に取り組むようになり、何のためにグループや全体で意見を述べ合うのか目的意識をもって

話し合いに参加するようになった。本校の実践が協同学習の理念に合致しているか不安ではあるが、その成果をまとめた研究紀要を協同教育実践資料25に掲載していただけることは、とてもありがたいと光栄なことである。

10月29日の研究発表会では、いわゆる「三密」を避けるために、研究概要の事前配付やリモートでの参観など、これからの研究発表の一つの事例としてできることは試みた。これから求められるであろうICT活用の授業においても、生徒同士による高め合いを重視した授業スタイルを追究していきたい。

本校の研究を始める段階からここに至るまで未熟な私たちを導いてくださった杉江修治先生に改めて感謝を申し上げたい。毎回、私たちの研究に向かうモチベーションを高めてくださった。そのおかげで、経験年数や教科の専門性に関係なく互いに熱心に協議し、私たちも協同学習ができる教師集団となった。これまでの苦労が達成感に変わり、教職員としての自覚を一層高める機会であった。ここで満足せずに、生徒同士の学びを大切にする日々の授業づくりに向けて今後も努力していきたい。



【授業検討会の様子】

設楽町立設楽中学校校長 村松 忠男

I 2020 年度公開研究会資料

令和元・2年度北設楽地方教育事務協議会委嘱

仲間と共に課題に向き合い、 自ら学ぶ生徒の育成

～課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して～



愛知県北設楽郡設楽町立設楽中学校

はじめに

平成31年4月1日、北設楽教育事務協議会から学習指導の領域において2年間の研究委嘱をいただきました。生徒のために私たちがすべき授業とはどのようなものか、経験の少ない教職員の多い本校に求められ、できることは何かと考えました。教科の専門性を前面に出すのではなく、どの教科にも共通する授業づくりの基本を見つめ直していくことにしました。

本校生徒のよいところの一つに「指示されたことには素直に反応し、活動できる。」とありました。素直な人柄はとてもよいことです。しかし、これからの大きく変化する社会を生きていくためには、学ぶ場において言われたことを黙々と行うだけでは足りません。本校生徒のよさでもあり、同時に弱点になるかも知れません。私たちは、生徒の素直な反応に頼ったまま指示を出し、真面目に学習している姿を自主的な学びだと見誤っていないかと問い直しました。

学習指導要領においても、学びに向かう力を伸ばすことの重要性を上げています。新しい観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」を評価するに当たっては、「粘り強さ」と「自己調整」が注目されています。自己調整とは、概ね次のような力とらえています。

- ①学習の計画段階で、めあてを考えたり、学習の見通しを考えたりする。
- ②学習の進行場面で、自らの学習自体を見つめ直し、調整する。
- ③学習の結果から目標の達成状況を自己評価し、次の学びにつなぐ。

これらを日々の授業において大切に扱っていくことにより、生徒の学びに向かう力が伸びると考えました。

そして「協同学習」との出会いにより、私たちの進むべき方向が見えてきました。中京大学名誉教授 杉江修治先生には、研究を始める段階から多くの助言をいただき、導いていただきました。「協同学習」の研修会には多くの教員を派遣しました。また、授業研究会でご助言をいただいた設楽教育指導室前指導主事 村松史子様、並びに指導主事 松本和也様には、格別お世話になりました。関係機関から多くの研究助成もいただきましたことに感謝申し上げます。

令和2年度4月時点では前途多難と思われましたが、6月からの学校再開により何とか1学期の実践を積み重ねることができました。研究発表会についても、新型コロナウイルス感染症の対策のために、異例の形となります。幸いにも本校は少人数の学級であることを生かし、設楽中学校の授業スタイルを究めていくつもりです。持続可能な研究体制を整えて、やりがいのある現職研修を進めてまいりますので、引き続き、ご指導、ご支援をよろしく申し上げます。

令和2年10月

北設楽郡設楽町立設楽中学校長
村松 忠 男

目 次

はじめに

研究の概要

1 研究主題	1
2 主題設定の理由	1
3 研究構想図	3
4 研究の仮説と手だて	4
5 手だてが分かる単元構想・本時の指導	7
6 協同の心を育む活動	9

研究の実際

国語科	10
社会科	12
数学科	14
理科	16
音楽科	18
美術科	20
保健体育科	22
英語科	24
実践につながる協同の姿	26

成果と課題

1 研究の成果	27
2 今後の課題	28

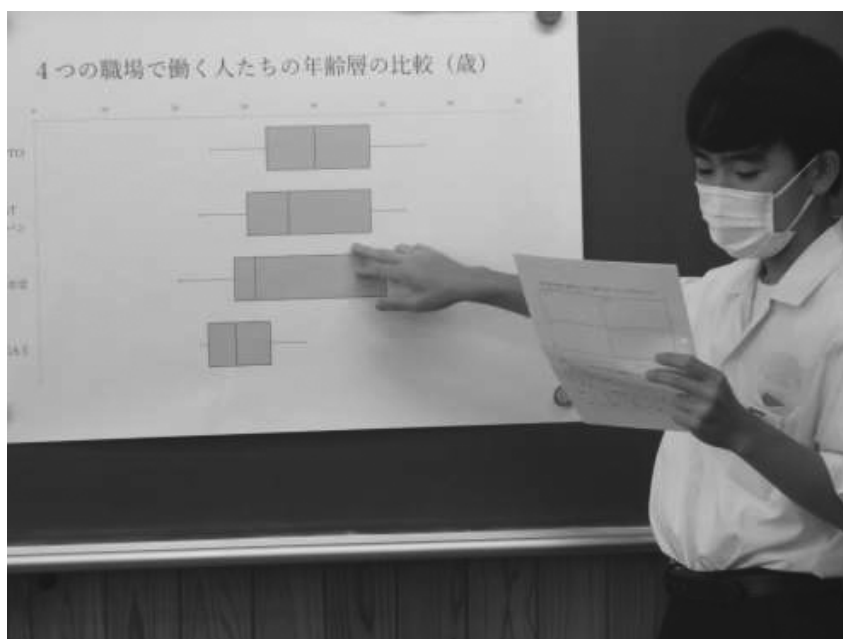
おわりに

ご指導いただいた先生方

研究同人



研究の概要



1 研究主題

仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成

～課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して～

2 主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

本校の生徒は、明るく、素直である。教師の話聞き、何事も真面目に取り組むことができる。また、友達から頼まれると誠実に対応している。それは、本校生徒がそれぞれの地域で大切に育てられ、愛されてきたからだと考える。

一方で、生徒一人一人を見ていると自分で考えることを避けて他から言われて行動したり、何をすればよいのか決められずに困っていたりしている。また、自分の意見をもっていないかなかなか発言しないこともある。その原因を次のように分析した。

- ① 自分の意見に自信がもてない。
- ② 考えが思いつかず、意見自体をもてない。
- ③ 他人の目が気になり、言い出しにくい。
- ④ 相手の気分を害しないかと気にする。

これらのことから、物事に対して自分で考え解決しようとする力、自分の考えを明確にする力、自分の考えを相手に伝えようとする強い意志を育む必要性を感じた。

(2) これまでの課題から

平成30年度まで「できたを実感する生徒の育成」を研究主題として実践してきた。その年度末、3年生を対象に、どのような授業が印象に残り、どのような場で活躍できたかを調査した。その結果、『『できた』と実感できた授業』『課題を解決するためにどのようにすればよいのか考えた授業』『体験や実験を行った授業』と答えた生徒が多かった。

一方で、「仲間と共に協力して学習する授業」「グループやペアで活動する授業」と答えた生徒は少なかった。それは生徒が仲間と関わる場面が少なかったり、仲間と関わっていてもその良さや必要感を感じられない授業展開だったりしたからだと考える。

また、これまでの研究課題として、生徒が本時の学習目標をつかんでいても、学習過程が目標と結び付いた授業の展開になっていないことがあった。そのため、振り返りの段階で改めて生徒が「目標は何だったか」と見直さないと授業を振り返られないという姿が見られた。目標と結び付いた授業の流れになっていないこと、学習課題が生徒の実態に即したものではなかったことが浮き彫りとなった。

これらのことから仲間と共に課題を解決し、学習課題を自分事としてとらえるように授業の展開を組む必要性を感じた。



(3) 本校の伝統から

設楽中学校は開校以来、校則といわれるものを明記していない。その代わりに「生徒憲章」がある。開校当初の生徒たちが掲げたものである。生徒は、毎年生徒憲章をもとに各学年で重点的に取り組みたいことを話し合い、その目標に照らして生活している。生活に関わること、服装などの判断は個人に委ねられているが、中学生らしい身なりや態度で生活している。また、部活動や運動会などを通して下級生は先輩から学び、先輩にあこがれを抱いている。先輩がつくった伝統を守っていき、引き継いでいこうという意識は高く、自律・自主の心構えを身に付けている。

私たちは、このような態度を授業でも引き出したいと考え、本校生徒がもつ本来の自主的な力を引き出すような場の設定、教師支援を行っていけば、生徒の主体性がいっそう伸びるのではないかと考えた。

(4) 協同学習を取り入れて

協同学習とは、「集団の仲間全員の学びが高まること」「学習者一人一人が強い個として成長すること」を目標とする学習である。仲間と共に意見を交わしながら、「学び合う」「励まし合う」「認め合う」活動を引き出し、常に高め合うように学習に参加するという意識改革でもある。仲間にも助けてもらうという依存する関係ではなく、「自分が仲間の成長に貢献できた」「仲間によって自分が成長できた」という成功体験を積み重ねることにより、本校生徒に求める力を伸長できると考えた。自分事としてとらえた学習課題を仲間と共に追究することにより、よりよい解決策へとつなげ、個々の学力を高めるという協同学習の理念を授業づくりの根幹とすることにした。

(5) 課題設定・個人思考・話し合いについて


仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒を育成するために、本校の授業スタイルを再構築した。

- ① 課題設定の在り方と課題意識を持続させる支援の在り方を追究する。
- ② 個人の思考をどのようにもたせ、思考の深まりをどのように実感させるか追究する。
- ③ 深い学びにつながる話し合いとなる支援の在り方を追究する。

これらをそれぞれ「課題設定」「個人思考」「話し合い」と呼び、研究を推進する。

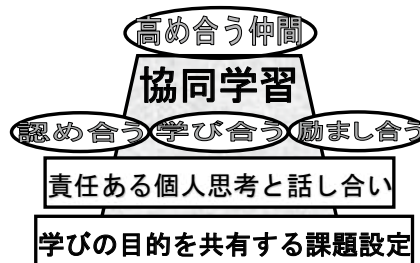
生徒憲章 平成13年7月

真の自由の意味を己の心に問え



- 1 親しさと厳しさが生む信頼
- 2 マイベストで感じる満足感・一体感
- 3 学年としての立場と責任の自覚

1年生 先輩から学び、自分も成長する。
2年生 先輩を支え、後輩に伝える。
3年生 最上級生として、自ら動く。



【本校での協同学習のイメージ】



研究主題

仲間と共に課題に向き合い、 自ら学ぶ生徒の育成

～課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して～

仮説1

課題設定

主体的な学びを
引き出す課題設定

- ① 仲間と共に追究する
単元を貫く課題
- ② 「単元マップ」の
作成・活用

仮説2

個人思想

自らの考えを
構築する個人思考

- ① 課題に迫る資料と
提示方法の工夫
- ② 考えを整理し、深める
「今日の収穫」

仮説3

話し合い

深い学びを得るための
責任ある話し合い

- ① 役割分担、話し合いの
進め方の手順を提示
- ② 話し合いの方向の明確化
- ③ 話し合いを焦点化する
ための着眼点

協同学習を通じた高め合う集団の育成

生徒の実態

- 明るく、素直
- 言われたことをきちんとこなし、真面目に取り組む
- 友達のことを考えた行動ができる
- ★ 他から言われて行動する
- ★ 自分の意見をもっていても友達や先生に伝えられない

過去の研究成果と課題

- 生徒自身が課題を解決する授業の構築
- 生徒が「できた」と実感できた授業
- ★ 課題が生徒のものになっていない
- ★ 仲間と共に協力して学習する良さ、必要性を感じさせられない

本校の伝統

- 生徒が掲げた、「生徒憲章」を拠りどころに自主・自律の精神を育んでいる
- 部活動や学校行事を通して上級生から学ぶ伝統
- ★ 生徒の自主的な活動を教科の学びにも生かしたい

4 研究の仮説と手だて

仮説1 <課題設定>

仲間と共に追究したいと感じられる単元を貫く課題を設定し、解決への道筋を示せば、生徒は学習の見通しをもって主体的に取り組み、自ら課題を解決するだろう。

仮説1に対する手だて

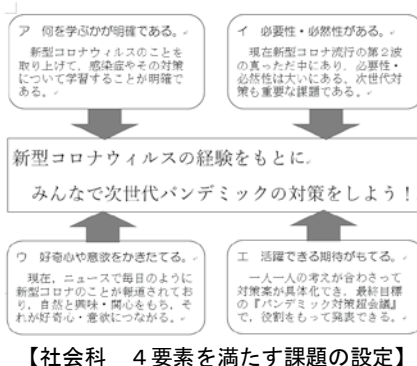
- 1-1 多面的な視点をもてる素材や自分の日常と結び付く素材、生徒が学んだことを生かせる素材等をもとに、生徒と共に単元を貫く課題を設定する。
- 1-2 単元を貫く課題を常に意識し、解決に向けた学習の流れを記載した「単元マップ」を作成・活用する。

○単元を貫く課題の設定に当たって

- ・時間を十分にとり、生徒の疑問や考えを聞く。
- ・4要素を満たすような単元を貫く課題を設定する。

- ア 何を学ぶか明確である。
- イ 必要性・必然性がある。
- ウ 好奇心や意欲をかきたてるものである。
- エ 活躍できそうだと期待感もてる。

- ・生徒の疑問や思いと教師の意図をバランスよく組み合わせ、生徒の表現を使いながら生徒と共に設定する。



○「単元マップ」作成に当たって

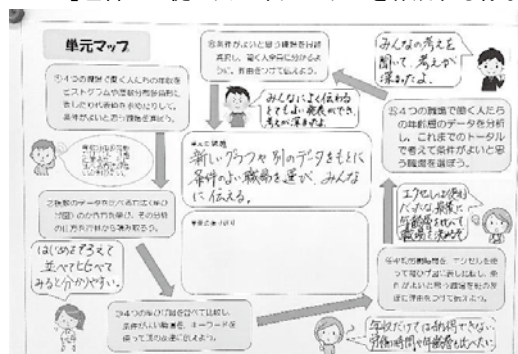
- ・課題解決に向けて、何を学ばば解決できるかを生徒に確認しながら、生徒と共に作成する。
- ・単元を貫く課題を矢印で示すなど、貫く課題が一目で分かるようにする。



【理科 生徒と共に単元マップを作成する様子】

○「単元マップ」活用に当たって

- ・教室に掲示したり、ファイルにとじたりして、単元を常に意識できる状態にする。
- ・生徒のつぶやきや学習過程で生じた新しい課題などを書き込んだり、マップの流れと生徒の思考にずれが生じた場合に、修正したりして柔軟に活用する。



【数学科 生徒の考えが書き込める単元マップを掲示】

仮説2 <個人思考>

個人思考の場と時間を保証し、課題解決に迫る方法や活動の仕方を提示すれば、自分の考えを構築し、深めるだろう。

仮説2に対する手だて

2-1 生徒が授業の見通しをもてるよう、課題解決の糸口となる適切な資料を用意し、課題や活動の提示方法を工夫する。

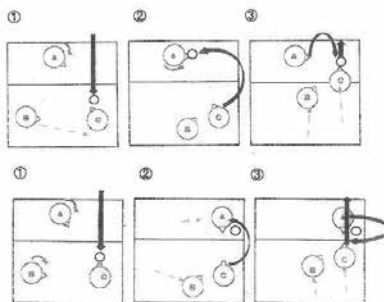
2-2 生徒が自分の考えを整理し、深めるよう、授業の終末に「今日の収穫」の時間を設定する。

○生徒が見通しをもち、個人思考に円滑に入るための具体的な支援

- ・個人思考の時間に誰もが意見を書けたり、話し合いの場面で自分の考えを述べたりできるようにするために2つの支援を行う。

①課題解決の糸口となる適切な資料の工夫

- ・本時の課題に対して、考えるきっかけが誰でももてるような資料を選択する。
- ・それぞれの能力に応じて活用できる資料を用意する。



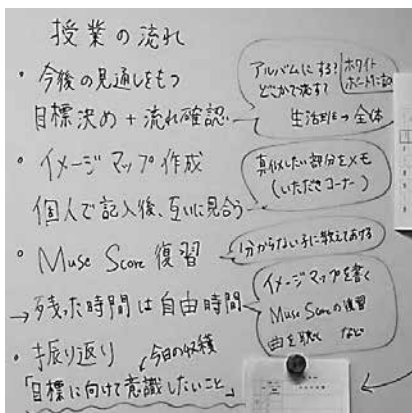
【保健体育科 バレーボールの資料を使って技を磨く】

②課題や活動方法の提示の工夫

- ・1時間の授業の流れを、視覚的にもわかるように生徒に示す。

《例》ホワイトボード、パワーポイント、ワークシート、黒板

- ・今日の授業の終わりには、どういう形で成果として表すかを授業の始めに示す。



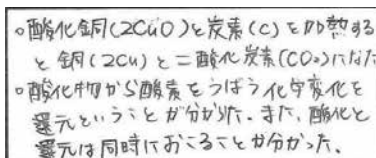
【音楽科 個人思考ができるよう学習の進め方を提示】

○自分の考えを深めるための支援

- ・「今日の収穫」の記述項目を明確に提示する。
- ・自分の言葉で振り返る時間を確保する。

《例》

酸化銅と炭素を加熱するとどうなるのか、元素記号と酸化、還元という言葉を使って、「今日の収穫」をまとめよう。



【理科 自分の言葉で、今日の授業を振り返る「今日の収穫」】

仮説3 <話し合い>

全員が話し合いに参加できる状態をつくり、話し合いの方向性と着眼点を示せば、生徒たちの力で深い学びを得る話し合いが成立するだろう。

仮説3に対する手だて

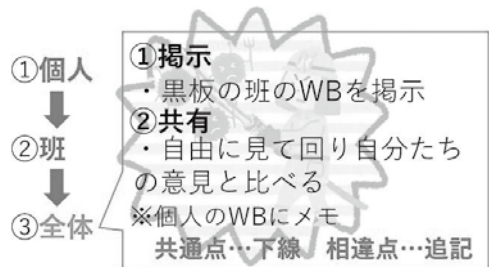
- 3-1 全員が話し合いに参加できるように、個人の役割分担を明確にし、話し合いの手順を詳細に示す。
- 3-2 生徒たちの力で課題解決に向かう話し合いを進めるために、何のために話し合うのかという方向性を明確に示す。
- 3-3 深い学びにつながる意見が生徒から出るよう、話し合いを焦点化するための着眼点を端的に示す。

○個人の役割分担とは

- ・少人数で話し合う際に、司会係、書記係、発表係、準備係、時間係などの役割を全員に与え、学級集団としての学びに向かう姿勢をつくる。また、役割を果たすことによって集団に貢献したと感じられるようにする。
- ・役割の内容は、話し合いの目的や形態によって、授業ごとに変える。

○話し合いの手順の提示とは

- ・話し合いの手順を黒板やモニターに提示することで、話し合いの最中に確認できるようにする。



【社会科 班学習の手順を示したモニター】

○話し合いの方向性とは

- ・解決しようとしている課題から論点が外れないようにするため、何のために話し合うのかを明確に示してから、話し合い活動に入る。

《例》

- ・班の全員が、分子の構造について説明できるようになるために話し合いをする。
- ・教材文を根拠に考えを交流できる課題を見つけるために話し合いをする。

○話し合いを焦点化するための着眼点とは

- ・各教科の特性に合わせて、その話し合いの中で習得させたい知識や技能、気付かせたいことに迫る意見が生徒から出るよう、ポイントとなるフレーズを示す。そのフレーズによって直接課題が解決するというものではなく、生徒の気付きを促すものになるように留意する。

① 構図 ポーズ	② 配色	③ 表情	④ 背景	⑤ 人物以外の 要素

【美術科 着眼点分かるワークシート】

5 手だてが分かる単元構想・本時の指導

(1) 単元構想

- ・単元構想の中に課題設定（仮説1）の手だてを左側、個人思考（仮説2）、話し合い（仮説3）の手だてを右側に記載し、常に仮説、手だてを意識した単元構想を作成する。
- ・単元構想には、予想される生徒の思考に対して、教師がどのように活動を支援するかを示す。それぞれの課題を解決していくにつれて、生徒の思考から次の具体的な課題が生まれるときもある。単元構想は適宜更新される。



単元を終えた後の生徒の思考

- ・課題を達成できたと感じられたか。
- ・仲間と共に学ぶことで、単元を貫く課題を設定した時には気付かなかった知識や技能が向上し、思考が深まったと感じられたか。
- ・自分が仲間の成長に貢献できたと感じたり、仲間によって自分が成長できたと感じられたりしたか。

(2) 本時の指導

5 本時の指導

- (1) 目標 友達からももらった意見と自らの構想を整理し、構想シートを完成する。
- (2) 準備 構想シート、鑑賞シート、シール、単元マップ、話し合いの手順を示す掲示物
- (3) 展開

時刻	本時の課題	教師の発問・発言	生徒の思考	・教師支援
13:15				
13:15			表したい自分が作品に表現できているかを友達と見合い、「自画像制作のポイント」から改善点を見つけて修正し、構想シートを完成させよう。	・単元マップより、友達同士で考えを出し合い表現を深める時間であることを伝える。
13:17			全員のスケッチを順番に鑑賞します。構想シート(別添①)の「こんな自分が描きたい」と「スケッチ」を見比べ、直感的にイメージが伝わっているか、伝わっていないかを該当する欄にシールで貼りましょう。	・生徒から生まれた『自画像制作のポイント』の ①構図 ②配色 ③表情 ④背景 ⑤人物以外の要素を再確認し、スケッチの評価視点をもたせる。
13:30			・「夢見る明るい自分を描きたい」とあるけど、スケッチの背景の色が暗めで伝わりにくい。 ・「好きな物に囲まれて幸せな自分」という作者の意図が周りに描かれた楽器や人形からよく伝わったよ。	・着眼点となるポイントを焦点化するため、それぞれの作品に対してシールを貼り、評価する活動を行う。
13:33			話し合いの着眼点を、鑑賞シートにある五つの「自画像制作のポイント」に貼られたシールの数を参考に決めましょう。	・着眼点となるポイントを焦点化するため、それぞれの作品に対してシールを貼り、評価する活動を行う。
13:33			「こんな自分が描きたい」の言葉に構想時のスケッチが近づくよう手助けとなるアイデアを出し合いました。その際は発表者が決めた「自画像制作のポイント」に沿って考えましょう。みんなのアイデアが出たら、構想シートを修正し、最終的なイメージを固めましょう。	・シールが貼られたシートを資料として用い、それぞれの着眼点を視覚化する。
14:00			・Aさんの作品の、①構図があまり伝わっていないのは、目立ちたがりの自分を表したいのに人物の向きが真正面ではないから伝わりにくかったんじゃないかな。人物を正面から見た構図に変えるとより伝わるよ。	・話し合いでは、進め方の手順を示し、【司会】【タイムキーパー】の役割を設け、責任をもって活動に参加できるようにする。
14:00			友達との関わりを通して学んだこと、今日の時間で自分の作品がどのように変わったかを「今日の収穫」に書きましょう。	・「今日の収穫」に記述する項目を「友達との関わりを経での学び」と「自分の作品の変容」に絞り、次時からの制作の方向性を整理し、まとめられるようにする。
14:00			・自分では思い浮かばなかった発想と出会い、より自分の表現したい自画像に近づけることができたよ。 ・友達から意見をもらうことで悩んでいた点が解決し、完成像がイメージできたよ。	

(4) 評価 (A基準)

- ・友達からももらった意見と自らの構想を整理し、具体的な言葉やスケッチで構想シートを完成する。

仮説1 課題設定の手だて

- ・授業の始めに単元マップを活用し、本時の課題と単元を貫く課題との関連を確認する。

仮説2 個人思考の手だて

- ・課題解決の糸口となる資料の内容や活用方法を明記する。
- ・生徒が授業の見通しをもつために、重要な視点や活動の提示方法を明記する。

仮説3 話し合いの手だて

- ・話し合いの方向性にあたる内容に下線を、着眼点にあたる内容を波線にする。
- ・話し合いの目的を全員が理解できるように、詳しく説明する。

仮説3 話し合いの手だて

- ・役割分担や手順の提示を、単元全体を通して行う場合は単元構想に記す。本時の指導では、前時までと違う場合に「本時の指導」の中で明記する。

仮説2 個人思考の手だて

- ・生徒が話し合いや友達から聞いたことを整理して、自分の考えをまとめられるようにするために教師から伝える「今日の収穫」の記述項目を明記する。

6 協同の心を育む活動

互いに助け合い、力を合わせて目標を達成しようとする活動に向かう生徒の姿を目指すとき、授業中の学びの姿だけでなく、日々の生活の中でその土台となる「協同の心」を育むことが肝要である。

そこで、学校生活の様々な場面で協同学習につながる精神の育成を目指した。

(1) 学級における協同の心の育成

同学年の集団である学級では、活動に取り組む際、集団の目標を設定した後、達成に関わる生徒個々の役割分担を明確にする。そうすることで、一人一人が活動の「主体」としての役割を果たす充実感と集団に寄与する責任感をもって活動に取り組むだろう。このとき、大切なのは「生徒自身で決める」ことである。誰かに決められたのではなく、自分で考え、自分が決断したことが、物事を「自分事」として捉えることにつながる。



【生徒自身で決める】

また、それぞれ果たしている役割が学級という集団に対していずれも貢献している事実を実感する場を設定する。

(2) 全校における協同の心の育成

異学年集団であり、規模も大きくなる「全校」では、互いの立場や考えを理解し、よりよい状況を創り出していこうとする関係づくりを目指していく。

生徒会活動や運動会の応援合戦、部活動といったグループ単位の活動では、集団としての明確な達成目標を掲げることが多い。ここでは、上学年と下学年、レギュラーと控えといったそれぞれの立場による見方・考え方を出し合う話し合いの場や活動への取組を検証する場を設定し、誰もが納得する形で物事を進めていけるようにする。



【互いを理解して協力する】

全校合唱をはじめ、全校で一つのものを創り上げる活動では、取組の初期段階で上学年の活動への思いを語る場を設定する。伝統を守り育て、次代につなげようとする上学年の願いが語れるようにすると共に、下学年は彼らの思いを受け止め、自分なりに活動に向かおうとする心情を醸成する場とする。

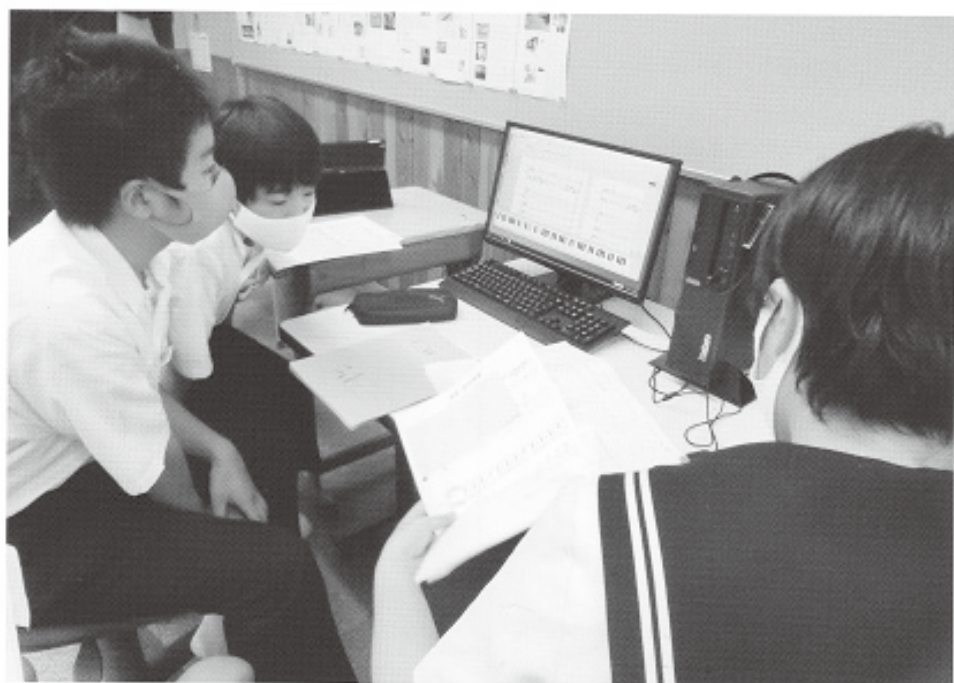
(3) 地域における協同の心の育成

学年行事や総合的な学習のみならず、ボランティア活動の機会を捉え、地域の方々と関わる場の設定を計画的に行う。仲間と共に地域の方々と関わる中で、校内での活動では気付かなかった仲間の良さや頼もしさに目が向き、「認め合う」「励まし合う」「助け合う」関係に成長していくことをねらう。



【仲間と共に地域にかかわる】

研究の実際



○研究の実際の見方

教科 単元名

仮説1 課題設定
手だて1-1
手だて1-2

単元全体を
見通して

単元学習後の
生徒の変容と考察

○○時の授業の実際

仮説2 個人思考
手だて2-1

仮説3 話し合い
手だて3-1
3-2
3-3

仮説2 個人思考
手だて2-2



手だての実際



生徒の反応



考察

国語科

登場人物の心情の変化や表現に込めた作者の工夫に迫ろう

仮説1-1 単元を貫く課題を設定

単元に入る前に教材文を通読させ、初発感想を書かせた。第1時に、生徒全員の初発感想をまとめたプリントを配付した。それぞれの感想や疑問を交流した後、単元マップを示して「みんなの課題を解決しながら、登場人物の心情の変化や表現に込めた作者の工夫に迫ろう。」という、単元を貫く課題を伝えた。



生徒Aの初発感想

読んでいと悲しい気持ちになった。みんなはどんな気持ちになったのが聞いてみたい。



仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

多くの生徒が、作中の「私」の心情について疑問を書いた。その疑問を解決する学習の中で、それぞれが捉えた「私」の心情を、より豊かな言葉で交流することができるよう、「共感」という言葉を示した。第5時の部分は空欄にしておき、第4時に自分たちで決めた課題を書き込めるようにした。



課題達成の見通しをもつ生徒A

「私」の心情に迫るときに、気まずさや緊張などに共感できた。なぜ夏実と話さなくなったのか、疑問に思った。早くこの疑問を解決したい。



第4時に生徒が出した「話し合ってみよう」との中から、話し合いの末、次時に扱うものと決めた。



星の花が降るころに 単元マップ

みんなの課題を解決しながら、登場人物の心情の変化や表現に込めた作者の工夫に迫ろう

① 作品の大まかな内容をつかみ、学習の見通しをもとう

②③ 「共感」という言葉を使って、それぞれの場面での「私」の心情を捉えよう

④ みんなで話し合ってみようことを出し合い、次時の課題を決めよう

⑤ 「私」が「大丈夫、きっとなんとかやっつけていける」と思えたのはなぜか

単元の学習の中で、新しく気づいた登場人物の心情や作者の工夫について感想を書こう

第1時に初発感想を交流することで、級友がどのような考えをもっているのかを知りたいという思いをもって、学習に取り組むことができた。教材文を繰り返し読んだり、級友の意見を聞いたりして、「悲しさ」以外の「私」の心情に気付けた。単元の流れを理解し、それまでの自分の課題を解決するとともに、自分なりの新たな課題を見つけた。



単元学習後の生徒の変容

単元を終えた生徒Aの考え

銀木屋は夏実との思い出の場所だと分かった。昔のことは花と一緒にばらばらと落として、新しいスタートを切ろうとしている。題名を「星の花が降るころに」にしたのは、「私」が花を降らせたのが、楽しく思えるようになったときだったから。僕にも不安はあるけれど、「私」みたいに大丈夫と思えるようにしたい。



第1時は「悲しい気持ち」のみに着目していたが、作品後半の「私」の前向きな気持ちに気付けた。級友が初発感想に書いた、「題名の意味」という疑問にも、自分の考えを書けた。



第4時 みんなで話し合ってみたいことを出し合い、次時の課題を決めよう

仮説2-1 適切な資料と活動の提示

第2時、第3時で、「共感」できる部分に着目して「私」の心情を捉えた。生徒の意見は、拡大掲示物に書き込み、学習内容を視覚的に捉えやすかった。



共感したことを書き込む掲示物

生徒Aの個人思考

親友でいようと約束したのに、なぜ夏実は話さないのかを解決したい。



仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

班学習では、準備、司会、記録、発表の4つの係を分担した。それぞれが考えた課題を出した後、解決できそうなものから話し合った。



仮説3-2 話し合いの方向性

次時に話し合う課題を決めるための話し合いであることを確認してから始めた。教材文を根拠に話し合えること、すぐに解決できないことが、学級で話し合う課題にふさわしいことを伝えた。



仮説3-3 話し合いの着眼点

教材文のどこが根拠となっているのかを示すことを着眼点として伝えた。



班学習で意見を交流する生徒A

授業記録

B: Aはなんて書いた?
 A: 「私」と夏実の間には何が合ったのか。
 C: ああ。この一年に。
 A: 一年の間に。いや、一年たってない。去年のだから、何月何日はわからないけど、一年はたってない。
 B: 「誤解が重なるうちに」ってある。P97に。その誤解を知りたいの?
 A: どこに書いてある?
 C: ここ。
 B: 「すれ違いや誤解」ってある。
 A: ああ。

生徒Aに影響を与えた発言

私は、P104でなぜ前向きになれたのかという課題は、おばさんの、「古い葉っぱを落として、新しい葉っぱを生やすんだよ」というところで、ずっといた人と離れて、新しい人と会うということ考えたからじゃないかなと思います。根拠は、P103に「それとも違う誰かと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもしれない。」とあるからです。



生徒Aの課題を解決しようと、班の全員で話し合った。教材文に書かれた事実を根拠として示して、考えを交流できた。



仮説2-2 自分の考えを整理し、深める今日の収穫

学級で決まった課題について、次時に向けて自分の考えをもたせた。教材文を根拠に考えるよう指示を出した。



生徒Aの今日の収穫

「大丈夫、きっとなんとかやっていける」と思えたのは、「違う誰かと拾うかもしれない」とあるから、自分のそばに夏実以外でも、誰かがいると思うだけで、きっとなんとかやれると思えているから。



班の意見交流で、自分や親友の課題を解決し、登場人物の心情に迫った。学級全体での意見交流で出された意見から、親友であった夏実と離れてもやっていけると思えた「私」の心情の変化を捉えた。



社会科

備えあれば憂いなし!みんなで備えろ!!次世代パンデミック

仮説1-1 単元を貫く課題を設定

第1時では、これまでパンデミックを起こしてきた感染症を取り上げ、その歴史や被害を紹介した。生徒たちはその被害の大きさに驚いたようである。歴史的に見て、今後もパンデミックが起こるであろうことを伝え、次世代のパンデミックへの対策を考えることを単元を貫く課題として設定した。



感染症の歴史について学習する生徒



課題設定後の生徒Aの考え

対策をするために、なぜ世界中に広がったのかなど一つ一つ詳しく調べて学んでいきたいです。将来、パンデミックがきたときに、新型コロナウイルスの経験を生かして対策できるようにしたいです。



仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

単元を貫く課題をもとに、生徒にどのような学習を行っていくとよいのかを問いかけ、生徒と共に単元マップを作成した。毎時間の導入時に、この単元マップを活用して課題や目的を確認したり、次時の学習内容を考えたりした。



課題達成の見通しをもつ生徒A

近年の日本は第三次産業の仕事をしている人が半数以上いることが分かりました。すぐに休業要請を出してしまうと働いている人、利用する人と、多くの人が困ってしまうので、政府がすぐに休業要請を出さないことが分かりました。今日の学習で、すぐに休業要請が出せないと学んだので、生活に必要なものを最小限だけ買うようにすれば、長時間店にいないくてすみ、対策になるのではないかと思います。



単元マップ 『備えあれば憂いなし!みんなで備えろ!!次世代パンデミック!』

時間	学習内容	課題
1	パンデミックの歴史を知ろう	
2	グローバル化が進む世界(世界の交通・通信)	新型コロナウイルスはなぜ世界中に広がったのだろうか?
3	日本各地をむすぶ交通・通信	新型コロナウイルスはなぜ日本中に広がったのだろうか?
4	工業について	新型コロナウイルスによって日本の工業に経済損失が出たの理由を考えよう
5	農林水産業について	これから、さらに広まると思われる水産業にはどのような影響がでるのだろうか?
6	商業・サービス業について	どのようにして休業要請をすぐに出さないのであるか?
7	貿易について	さらに新型コロナウイルスが伝染るとどうなるのだろうか?
8	貿易について②	さらに新型コロナウイルスが伝染るとどうなるのだろうか?
9	パンデミック対策家の立案	次世代パンデミックへの対策をみんなで考えよう①
10	パンデミック対策会議!	次世代パンデミックへの対策をみんなで考えよう②

新型コロナウイルス感染症から日本の理解を深めて、次にやってくる次世代パンデミックの対策を考えることができたね!

単元を貫く課題を設定したことで、導入後の振り返りから、学習の目的をつかみ、前向きに学習に取り組もうとする生徒の意識が読み取れた。また、単元マップを活用したことで、課題に対して学習内容を活用し自主的に考える姿が見られ、課題意識をもち続け学習に取り組むことができていた。さらに、学習のまとめとして「考えたことを発表し合う対策会議をしたい」と生徒からの提案がなされるなど、課題解決のために主体的に学習に取り組む意識をもたせることができた。

単元学習後の生徒の変容

単元を終えた生徒Aの考え

交通・貿易・商業の視点からパンデミックの影響とその対策を考えることができました。今回の学習で、新型コロナウイルスなど感染症は、みんなが対策すれば広まるのを防ぐことができると思いました。学習をするまでは、感染症が広がって大変なのは医療だけだと思っていましたが、貿易や商業などにも大きな損害がでることを新しく知りました。話し合いを通して、自分では気付くことのできないことに気付けたし、考えが正しいかどうかを確かめられました。



感染症の対策を考えることを課題として設定し、単元マップを用いて課題意識を持続させたことで、課題を自分に関わりのあるものとして捉え、学習内容を生かして主体的に考えを深める姿が見られた。また目的や手順を明確にして話し合いを行ったことで新たな考えを獲得させ、思考を深めさせることができた。



第4時 新型コロナによって日本の工業に経済損失が出た理由を考えよう

仮説2-1 適切な資料と活動の提示

本時の導入として、新型コロナウイルスのために、愛知県の自動車工場の操業停止を伝えるニュースや工業分野の経済損失額を示した資料を提示し、課題を設定した。また、思考の材料として、教科書や資料集を用いて、日本の工業について概要を説明した。



思考の材料を提示

生徒Aの個人思考

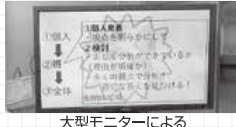
日本は加工貿易を行っているが、コロナのために、海外とやり取りが必要な加工貿易ができなくなったから。

仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

個人の役割を明確にするために、ホワイトボードを活用し、提示するとともに、大型モニターを用いて話し合いの手順を示した。



役割分担をもとに記録をする生徒



大型モニターによる話し合いの手順の提示

授業記録

A: 視点1について、日本は加工貿易を行っているが、コロナのために、海外とやり取りが必要な加工貿易ができなくなったから、経済損失が大きくなったと思う。

B: いいと思うよ。教科書で加工貿易をやってるって学習したもんね。

C: 他にも海外工場の製品を取り寄せられないから損失が多くなった。資料に、マレーシアから輸入しているって書いてあるけど、今は新型コロナウイルスの影響で貿易ができないから。

A: 資料がちゃんとあるから説得力があるよね。工場も海外に移転しているから取り寄せることができないってことだね。

B: 日本の企業は海外の労働力を使っているから、労働力の視点でも痛んだね。

仮説3-2 話し合いの方向性

今回の話し合いでは、単元を貫く課題を意識させ、工業への新型コロナの影響を考えることで、日本の工業について理解を深めることが目的であると伝えた。

仮説3-3 話し合いの着眼点

日本の工業の移り変わりについて、教科書をもとに学習したそれぞれの時代の工業の様子から

- ①日本の貿易スタイル
- ②工業の分布
- ③工業の変化
- ④近年の工業

の4つを視点として定め、板書に明示した。



ホワイトボードを活用し視点を明確にして発表する生徒

視点を定めたことにより、論点が焦点化され、根拠の確認をし、社会的な適切さを確認する姿や工業の経済損失について労働力の視点からも論じる姿を引き出した。

仮説2-2 自分の考えを整理し、深める今日の収穫

「単元を貫く課題に対して」「本時の課題に対して」の2つの視点を与え、記述させた。

生徒Aの今日の収穫

視点の1から加工貿易ができなくなったことが、工業の経済損失に影響すると思いました。話し合ったときに、原料や製品を輸出入できないだけでなく海外工場から製品を輸送することもできないということに気付きました。

話し合うことで輸出入だけでなく、工業の多国籍化という新しい視点で社会的な事象を捉えさせることができた。

数学科

どの職場を選ぶ?データを活用して友達に伝えよう!

仮説1-1 単元を貫く課題を設定

職場体験を間近にひかえ、職業についての興味・関心を高めつつある生徒たちに、4つの職場、「ITOTO」、「藤井堂」、「H&Tジャパン」、「NAGA王」で働く人たちの年収のデータだけを意図的に見せ、「条件のよい職場を選ぼう。」と投げかけた。



課題設定後の生徒Aの考え

4つの職場の年収のヒストグラムや代表値を調べて、条件のよいところを選ぼうとしました。班で話し合いもしましたが、すっきりと解決できませんでした。そこで、次からは新しいグラフなどを使って、どの職場がよいかをはっきりさせていきたいと思います。



既習内容を生かして考えを発表する生徒A

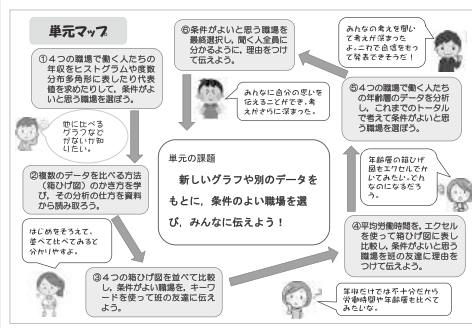
仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

生徒が追究したいことと教師の意図を関連させて、学習の見通しがもてるような単元マップを作成し、学習スペースに掲示した。授業のつなぎ目に生徒のつぶやきを書き込んだり、生徒の思考とのずれができたときにマップの内容を書き換えたりした。



課題達成の見通しをもつ生徒A

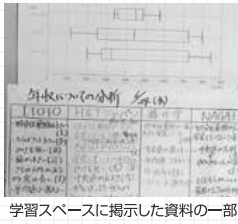
箱ひげ図の学習をしました。私は今のところ「藤井堂」がいいと思っています。単元マップを見ると次は労働時間の箱ひげ図を描いて比べようなので、ちょうど働くのに適した労働時間の職場を考えて選びたいです。



第5時「年齢層」を分析し、トータルで考えて条件がよいと思う職場を選ぼう

仮説2-1 適切な資料と活動の提示

誰もが自力で個人思考をすることができ、自分から話し合いでそれを伝えることができるように、「年収」「平均労働時間」「年齢層」の数値データと箱ひげ図、分析結果を教室に掲示するとともに、印刷して個々に配付した。



生徒Aの個人思考

選んだ会社:H&Tジャパン
理由

- ①年収と労働時間の四分位範囲が小さく、どちらも安定している。
- ②年齢層は、若い人が多く楽しそうで、年齢の幅が広く幅広い世代と触れ合える。



仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

箱ひげ図をかくのに必要な数値(四分位数,中央値など)を誰もが言えるようにするための「練習タイム」、選んだ職場のよさを的確に伝えられるようにするための「作戦タイム」を設定した。



「練習タイム」の様子



「作戦タイム」の様子



授業記録

- T: 作戦タイム,はじめ。
(A,B,C3人で机を寄せ合う。)
- A: これって「藤井堂」でも言えちゃうんだけど、若い人が多くてコミュニケーションがとりやすそうだった。
- B: どれも箱ひげ図の範囲が狭いね。3人で年齢,収入,時間に分けて描こうか。
- A: 私は収入ね。
(ファイルを開き収入のプリントを見たり,掲示物を見たりして,ホワイトボードに書く。)
- B: 最小値が330万円というのを入れた方がいいんじゃない。
- C: 安定という言葉がだぶってるよ。
(2人の意見を聞き,「最小値が330万円であることを書き足し,「安定した」という部分を消して書き直す。)



仮説3-2 話し合いの方向性

説得力のある説明になるように,互いにアドバイスをし合う。



仮説3-3 話し合いの着眼点

教師が提示した数学用語(範囲,最小値など)を使い,数学的な思考や表現で事象を捉え,伝える。



「練習タイム」では共通理解が図れ,誰もが数学用語を使って自信をもって発表することができた。「作戦タイム」でアドバイスをし合うことにより,全員が説得力や深まりのある考えを伝えることができた。



仮説2-2 自分の考えを整理し,深める今日の収穫

次の2点について書くように伝えた。

- ①今日の課題,単元の課題にどう近づいたか。
- ②班での話し合いで考えがどう深まったか。



生徒Aの今日の収穫

年齢層の箱ひげ図を見て,「藤井堂」がとても若い人が多く魅力を感じましたが,私は安定感抜群で,幅広い世代の人と接することができる「H&Tジャパン」を選びました。班の仲間が「収入の最小値が330万円とそれほど悪くないところも魅力だよ」と言ってくれ,ここがいいと確信がもてました。



個人思考では,資料を活用し,簡条書きで要点を押さえたまとめができた。「今日の収穫」では,課題に迫る自分の考えを整理して書いたり,班での話し合いで考えがどう深まったかを具体的に書いたりすることができた。自他共に深めるものになった。



理科

化学変化のきまりはどうなっているのか？

仮説1-1 単元を貫く課題を設定

化学変化に対して興味もてるよう酸化銀の分解、水の分解、硫化鉄の化合の実験を演示した。

その後、実験から疑問に思うこと、気になることを出し合う場を設定した。「分解や化合のしくみが知りたい」や「どうなったのか気になる」という言葉から化学変化のきまりを追究する課題を設定した。



酸化銀の分解の実験を観察する生徒

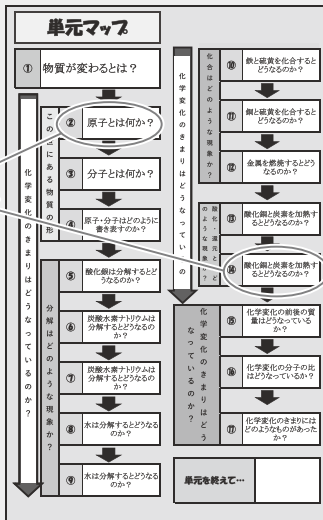
課題設定後の生徒Aの考え

酸化銀の分解の実験では、酸素が出ているように感じた。なぜ酸素が出ているのか疑問に思った。化学変化にはどんなきまりがあるのか知りたい。



仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

化学変化のきまりを追究するために必要な学習を単元マップに示した。「この世にある物質の形」「分解」「化合」「酸化・還元」「化学変化のきまり」という順番を示し、毎時間確認することで学習のつながりを明確にし、生かせるようにした。



課題達成の見通しをもつ生徒A

炭酸水素ナトリウムと塩酸は水と二酸化炭素と塩化ナトリウムになったと分かった。実験の前、後の質量は変わらなかったが、以前学習した、原子はなくなったり、他の種類になったりしないことや決まった質量があるという性質から原子の数は変わらず、質量も変わらなかったということが分かった。



「化学変化のきまりはどうなっているのか？」という単元を貫く課題を設定し、それを明らかにするための学習のつながりを明確にして進めた。生徒Aは原子の性質を生かし、実験の前後の原子の数や質量が変わらないことを理解することができたが、それはつながりを意識し、学びを生かすことができた結果だと言える。



単元学習後の生徒の変容

単元を終えた生徒Aの考え

化学変化のきまりは、1.化学変化の前後の原子の数や種類は変わらない。2.化学変化の前後の質量は変わらない。3.化学変化の物質の質量の比や原子の数の比は一定。という3つのきまりがあることが分かりました。この世にある物質の形のことを知り、どんな化学変化があるのかとどんどん新しいことを学び、化学変化のきまりはどうなっているか学ぶことができたのでよかったです。



生徒Aは他の生徒と学び合いを通して、物質の形や化学変化への理解を深めることができた。また、この世にある物質の形を学び、それを生かしながら学習を進めたことで生徒Aは3つのきまりを理解することができた。



第3時 分子とは何か?友達に伝える説明をしよう

仮説2-1 適切な資料と活動の提示

分子とは何か,学ぶための資料として教科書を提示した。
分子とは何か友達に説明できるようにしよう,という視点を示した。



生徒Aの個人思考

物質の性質を示す粒子を分子という。物質の多くはいくつかの原子が結び付いてできた粒子からなり,その粒子が物質それぞれの性質を示す最小のもの。気体の酸素なども1個の原子だけではなく,2個の原子が結び付いてできた分子。



教科書を資料として提示

仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

役割分担:準備係,司会係,記録係,発表係
①準備係が話し合いに必要な道具を持ってくる。
②司会係が順番を指示し,全員の考えを聞き出す。
③記録係がホワイトボードに班の発表をまとめる。
④発表係が班の考えを他の班に伝える。



仮説3-2 話し合いの方向性

分子とは何か友達に伝える説明かどうか。



仮説3-3 話し合いの着眼点

前時までに学習した「原子」という考え方を
使い,説明すること。資料や図を用いること。



ホワイトボードに図を使ってまとめられるようにする



班で用意した資料を使い説明する生徒B

分子とは何か友達に伝える説明かどうかという方向性を示したことで,図や模型などの資料を使って分子について具体的に説明する姿を見ることができた。「原子」という考え方を
使うという着眼点を与えたことで,原子の数や種類についても言及し,具体的な説明につながった。

授業記録



A: 分子って?
B: 原子が結び付いた原子からなるもの。
例えば,水の分子は酸素原子1つと水素原子2つからできている。
A: なるほどね。
—中略—
B: 何の説明だと伝わるかな?
A: 水は?
B: じゃあ水を。
A: こっちが酸素原子で。
B: この図でいいよね?
A: 下に説明を書いた方がいいら。
B: まじか。
A: ここを書けば。
B: (酸素原子1個と水素原子が2個で水分子ができていると書く。)
A: いいね。



模型を使って説明できるように材料を用意する

仮説2-2 自分の考えを整理し,深める今日の収穫

分子について友達との関わりから分かったことを書くように伝えた。



生徒Aの今日の収穫

物質の性質を示す粒子を分子ということがかかった。水の分子は酸素原子1つと水素原子2つからできていることも分かった。2つ以上の原子からできているものもあると知った。イラストや模型を使うことで分子の説明がとても分かりやすかった。他の子の発表を聞いて,どんな構造になっているのかわかることができた。



個人思考の段階では気が付かなかったことも,話し合いを通して理解することができた。また,それぞれの班で用意した資料がその助けとなっていたことも明らかになった。



音楽科

曲想の変化をつけて創作し、アルバムを完成させて給食時にかけよう!

仮説1-1 単元を貫く課題を設定

昨年度、生徒が創作した曲と、曲想の変化する教師が作成した曲を聴き比べる時間を設けた。生徒は「聴いた曲の工夫点を参考にして創作したい」「曲想をつけたい」と意欲を高めた。その後、単元を貫く課題について話し合いを行い、「曲想の変化をつけて創作し、アルバムを完成させて給食時にかけよう!」を単元を貫く課題に決めた。本単元も昨年に引き続き、記譜したり試聴したりできる「Muse Score」というPCソフトを使用した。



課題設定後の生徒Aの生活記録

単元を貫く課題について話し合い、みんなでアルバムを作り、給食の時間にかけることになりました。僕のテーマは「戦国時代」で、表現するためにどうやって工夫するかを考えました。曲想の変化をつけ、相手にテーマ(イメージ)が伝わるように創作したいです。



仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

生徒は、毎時間、授業の始めに「単元マップ」を使って課題達成までの道のりを確認した。また、各時間の意図や位置付けを確認して活動に取り組んだ。

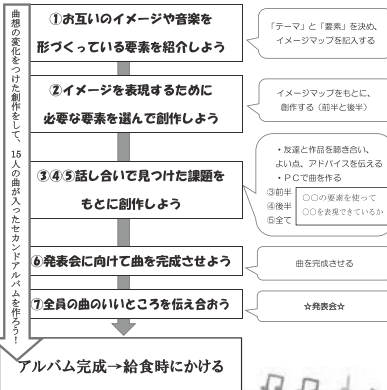


課題達成の見通しをもつ生徒A

次は後半について話し合うので、相手にイメージが伝わるように作りたいです。みんなで1つのアルバムを作るので、他の人の曲もいいものにしていきたいです。

授業外の時間も使って
友達の創作に協力する生徒A

単元の始めに「創作したい」という意欲を高め、生徒とともに課題を設定したことで、授業外の時間も使って友達の創作に協力するなど、自主的に取り組む姿が見られた。単元マップを活用することで、毎時間、学習の見通しをもって計画的に創作に取り組むことができた。

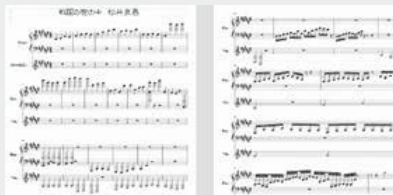


単元学習後の生徒の変容

単元を終えた生徒Aの考え

授業では、常に単元を貫く課題を意識して活動でき、自分の曲をよくすると同時に、みんなの曲もよくしようとした。全員、テーマに合うように、工夫をしながら曲想に変化をつけた創作をして、給食の時間にかけられるくらいよい曲を作れた。みんなの完成した曲を聴いて、自分の曲に取り入れたらもっとよくなると思う部分があったし、みんなの感想をもとに、さらに修正したいと思った。

生徒Aの作品
「戦国時代」
(一部抜粋)



「自分の曲も友達の曲もよくしよう」という思いをもち続けて活動できた。曲想の変化をつけて創作し、給食の時間に流せるくらい曲を完成できたという達成感を抱いた。また、友達の考えや作品から気付きを得て、自分の作品をよりよくしようと努力できた。



第2,3時 話し合いで見つけた課題をもとに創作しよう

仮説2-1 適切な資料と活動の提示

イメージを表現するために何の要素を使うかが分かる「イメージマップ」、何の音色やリズム、速度などをどう使うかが分かる「要素一覧表」、音色を試聴できる「楽器フォルダ」、創作の参考にできる「曲集フォルダ」、自分の作品に使える「伴奏フォルダ」を用意した。



生徒Aの個人思考

前半の戦いが起こる前の平和で楽しそうな感じを明るい楽器の音色で表現できているが聴いてほしい。



「曲集フォルダ」を参考にしながら創作する生徒A

仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

- ①「聴いてほしい部分」を伝える
- ②「聴いてほしい部分」に対する意見を意識して試聴
- ③「聴いてほしい部分」についての意見交換や修正
- ④他の意見をもとに、修正試聴



「聴いてほしい部分」に対する意見を参考にしながら修正試聴する生徒A

仮説3-2 話し合いの方向性

1つのアルバムを作る仲間として、自分の曲だけでなく、友達の曲もよくするためにどうしたらよいか



仮説3-3 話し合いの着眼点

適切な要素を使ってイメージを表現できているか



手順の詳細を示したことで、全員が話し合いに参加することができた。方向性を示したことで、友達の曲をよくしようと意欲をもち、自分たちの力で進めることができた。「聴いてほしい部分」について話し合うことで、その後の創作活動に生かせるような、深い学びにつながる話し合いができた。



授業記録

(Bの曲「好きなこと」を試聴)

A: 自分の好きなことだから、明るい感じがいいよね。

BCD:うん。

A: Bさんのは、Cさんみたいにゆったりしてもいいかもね。

D: ゆったりすると心地いいね。

A: Dが言ったみたいにハーブを入れるといいかも。

C: ハーブ聴いてみよう。

A: 楽器フォルダだね。

(Aの曲を試聴)

A: (他の班の子からももらった意見を見て)

もう少し音符を長くしたら平和な感じを出せるって書いてある。

C: その方が平和な感じになるかも。

A: ジャあ長くしてみる。



仮説2-2 自分の考えを整理し、深める今日の収穫



戦いが始まる前の平和な様子を表現するために、音符の長さを変えた生徒Aの作品

話し合いをしてできたこと、見つけた課題を書くように伝えた。



生徒Aの今日の収穫

平和な感じを出すためには長い音符を使う方がいいというアドバイスのもとに、長い音符を使って作り、平和な感じを出すことができた。「楽器を増やすといい」という意見をもらえたので、次回直したいです。



個人思考の時間を十分に確保したり、「イメージマップ」や「楽器フォルダ」などの資料を使ったりすることで、自分の考えを整理することができた。アドバイスのもとに、生徒Aは、平和な感じを出すために「長い音符」や「他の楽器」を使おうと考え、修正した。



美術科

今の自分らしさを全開な自画像

仮説1-1 単元を貫く課題を設定

導入時、制作年が異なるピカソの自画像作品を5点鑑賞し、作家を取り巻く状況や、個人の状態によって表現が変わっていくことをつかませた。「どんな自画像が描きたいか」を問いかけ、「今の自分の感情が表れる絵」「自分の個性を出す」という思いから、「今の自分らしさを全開な自画像」という課題を設定した。



過去の作家の自画像から、制作のポイントや表現の手掛かりを探る

課題設定後の生徒Aの考え

同じ人物でも描くごとに表現を変えているのは、その人の人生の道筋が見えてくるようでおもしろいと思いました。その人にしかない個性を引き出して描くことが大切だと分かりました。



仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

単元マップの作成に当たっては、生徒の考えや思いをくみ、「自分を知る必要がある」「友達から意見をもらう場が欲しい」という意見から、自己分析の時間や友達と意見を交わす場を組み込んだ。毎時間の導入時に、作成した単元マップを活用し、本時の課題や目的を確認した。



課題達成の見通しをもつ生徒A

自分の性格から、表情で表す方法が自分らしさをより引き出せると思いました。いろいろな思いがよく葛藤するテニスで、私の性格などが分かる作品にしたいと思います。



生徒は作品の鑑賞を通して、制作する時期によって表現が異なることに気付き、今しか表すことができない自分を表現することに関心をもった。生徒の言葉をもとに、単元を貫く課題や単元マップの活動を設定したことで、常に課題を意識して取り組むことができた。自己分析の結果、生徒は作品に表したい自画像のイメージをもった。



自画像 単元マップ

今の自分らしさを全開な自画像

①自画像作品を鑑賞し、「自画像制作のポイント」を見つけよう。

②③④自己分析・スケッチをして、表したい自分を具体化しよう。

⑤表したい自分が作品に表現できているかを友達と見合い、「自画像制作のポイント」から改善点を見つけて修正し、作品の最終的なイメージを固めよう。

⑥本番用紙に下書きを完成させよう。

⑦⑧⑨塗りの練習をしながら、完成に向けて制作を進めよう。

⑩今の自分らしさを作品に表現できたよ。

単元学習後の生徒の変容

単元を終えた生徒Aの考え

スタンピングの工夫をし、テニスで葛藤する自分を表現できた。人は一日の中で、何回も表情を変えるので、その瞬間を絵にすることは工夫が必要だと思った。



◀スタンピングの表現



◀生徒Aの作品

生徒Aは資料を手がかりに、「葛藤する自分」という形で表すことが難しい主題を、スタンピングの発想で表現した。そうすることで、心の中で何度も感情が往復するイメージをもち、ボールの跡をたくさん描くことで表すことができた。5つのポイントから着眼点を焦点化した話し合いを通して、表したい自分の姿に近づけることができた。



第2～5時 作品のイメージを固めよう

仮説2-1 適切な資料と活動の提示

「こんな自分が描きたい」という主題と実際の「スケッチ」を見比べ、直感的にイメージが伝わる項目にシールを貼るよう伝えた。



① 構図・ポーズ	② 配色	③ 表情	④ 背景	⑤ 人物以外の要素
●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●

生徒Aの作品に対するシール結果

生徒Aの個人思考

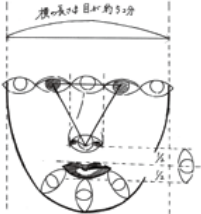
最もシールが少ない「⑤人物以外の要素」が改善点であると分かったよ。このポイントを話し合いでよくしていきたいな。



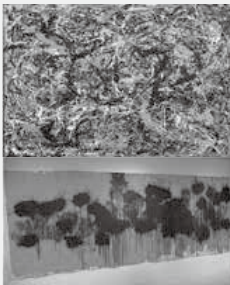
自画像制作のポイント

- ① 構図・ポーズ
- ② 配色
- ③ 表情
- ④ 背景
- ⑤ 人物以外の要素

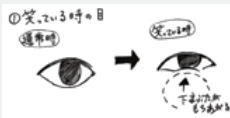
制作上の5つのポイントは教室内に掲示



顔の描き方の資料



抽象表現の資料



表情の描き方の資料

仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

- ・発表は番号順で行う。
- ・一人当たり5分間。
- ・次の発表者がタイムキーパーをする。



仮説3-2 話し合いの方向性

友達の「こんな自分が描きたい」の言葉に、構想時のスケッチが近づくよう、手助けとなるアイデアを出し合う。



仮説3-3 話し合いの着眼点

自画像制作の5つのポイントを示した。その中から個人思考で分析し、絞ったポイントが話し合いの着眼点となる。



授業記録

- A: 話し合いの着眼点は「人物以外の要素」です。
- B: これ(テニスコート、ボール、ラケット)しかないからシールが少ないのでは？
- A: 確かにそうかも。
- C: ボールでもう少し細かい表現を描き加えたら？
- D: ボールが真ん中であって納まりがいいけど。
- B: 「葛藤してる自分」がテーマなのに納まりが良すぎるから、もう少し葛藤している感じを出せるといいんじゃない？
- ボールを増やすとか。
- A: なるほど。



スタンピングを行う生徒A



着眼点を伝える生徒A

生徒Aは「人物以外の要素」を着眼点として、「テニスボールの個数を増やしてはどうか」という意見を得た。最初はコートを中心にボールを1つ描いたが、それをなくし、代わりにスタンピングの技法で背景にテニスボールの跡をたくさん残すという表現につながった。



仮説2-2 自分の考えを整理し、深める今日の収穫

「今日の収穫」では、話し合いを経て自分の作品がどのように変わったかを振り返りの視点としてもつように伝えた。



生徒Aの今日の収穫

話し合いでボールの細かい様子を表すという課題が見つけられました。また、顔の配色を変えるだけでも描きたい自分の表現につなげていけると思いました。



シールで課題を可視化することで、個人思考の際に話し合いの着眼点を絞る獲得につながった。



仮説1-1 単元を貫く課題を設定

簡易化した試合を行った後、「バレーボールを全員で楽しむためにはどうすればよいだろう」と投げかけた。生徒からは「声をかけをする」「全員で教え合う」「みんなでボールをつなぐ」などの意見が出た。そこで、これらの意見を集約して、単元を貫く課題を「みんなで声をかけ合いボールをつなぐ～協力や笑顔を大切に～」と設定した。



課題設定後の生徒Aの考え

今日の試合で協力や楽しむことはできたが、声をかけ合うことができていないのであと11回のうちにあてを達成できるようにしたい。



積極的に挙手する生徒A

仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

「バレーボールを楽しむためには？」という問いに対して、声をかけ合うやみんなで盛り上げるなど学習に対する意欲面の意識が生徒の中に大きくあった。意欲面だけでなく、技能の高まりを通してバレーボールの楽しさを感じてほしいという思いを込めて、単元マップを作成した。単元を貫く課題と本時の位置付けを意識できるよう、毎時間の授業の導入で単元マップを活用した。



課題達成の見通しをもつ生徒A

今日のめあてはなるべくコートの前にボールを送ることだった。試合では2球目以降はコートの前でパスをつなぐように意識した。その結果、前回よりも攻撃がしやすくなった。最後には校内バレーボール大会があるので、いい成績を残せるようこれからバレーボールをがんばりたい。



生徒の考えから単元を貫く課題を設定したり、校内バレーボール大会を企画したりすることで、めあてを達成したいという学習意欲を高めることができた。また、単元マップを活用し、本時の授業が単元を貫く課題とどのように関係しているのかを授業の導入で確認した。そうすることでみんなでボールをつなぐためのパスのつなぎ方を意識して授業に取り組むことができた。そして、最後に校内バレーボール大会があるため、ゴールを見据えて授業に取り組むことができた。



①バレーボールを全員で楽しむためには？
②ボールをつなぐために個人技術を高めよう
③ボールをつなぐためにチーム技術を高めよう
④自陣内でボールをつなぐための位置取りを決めよう
⑤どこかのボールを上げればいいのかに着目してボールをつなげよう
⑥ボールを持っていない人の動きに着目してボールをつなげよう
⑦パスのつなぎに気をつけてキャッチなしでボールをつなげよう
⑧これまでの技能を使ってフルコートでパスをつなげよう
⑨これまでの技能を使って試合をしてみよう
⑩前期回の試合の課題をふまえて練習に取り組み、課題を克服しよう
⑪前期回の試合の課題をふまえて練習に取り組み、課題を克服しよう
⑫前期回の試合の課題をふまえて練習に取り組み、課題を克服しよう

校内バレーボール大会では全員でパスつなげ、バレーボールを楽しめた

単元学習後の生徒の変容

単元を終えた生徒Aの考え

気をつけるポイントを出し合って戦うことができた。3年生はボールがとてもつながっていた。なぜなら、ボールを持っていない人が考えて動くこと、レシーブする人は打ちやすいボールを上げることができていたからだと思った。



単元の始めでは「バレーボールを楽しむためには？」という問いに対して意欲面の意識が強くあった。だが、学習を進める中で技能が向上し、ボールがつながるようになって、楽しさや達成感を感じる生徒が多く見られるようになった。また、校内バレーボール大会で上級生の動きを見てこれまで学習してきたことを視点で分析することができた。



バレーボール大会の様子

第7時 ボールを持っていない人はどのように動けばいいだろう

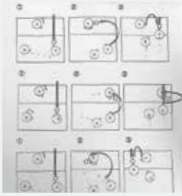
仮説2-1 適切な資料と活動の提示

ボールを持っていない人がどのように動けばいいのか、考えがもてるよう動き方の例を示した書き込み型の資料を提示した。また、話し合いの際に試合の中で気付いたことを仲間に伝えられるように本時の流れをホワイトボードにまとめ、提示した。



生徒Aの個人思考

ボールを持っていないBとCもボールの方に向かっていくと、ボールをつなぐことができるだろう。



動き方の例を示した資料

仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

- ①司会:話し合いを進める。
- ②発表:話し合った内容をほかの班に伝える。
- ③発表補佐:発表が相手の分かりやすくなるようサポートする。
- ④記録:班で話し合った内容をまとめる。
- ⑤タイムキーパー:時間どおりに話し合いが終わるよう調整する。



授業記録

B: では、ボールを持っていない人はどのように動けばいいと思いますか？

A: Cの1打目のボールがいったとして次にAのところへ2打目を上げる。Cはその前に行って3打目をコートの前から返せるようにした方がいい。その時、Bも一緒に前に来ることでCがもしミスしてもカバーすることができる。

C: 私も実際やってみてそう思った。

D: これホワイトボードに書くとき番号ふった方が分かりやすいよ。

<全体共有での他の班の意見>

2班:2打目をAに出したとき一人は前に移動し、もう一人は後ろで構え、いつでもカバーに入れるよう準備しておく。



仮説3-2 話し合いの方向性

全員でボールをつなぐことができるようになるための動き方



仮説3-3 話し合いの着眼点

- ・ボールを持っていない人がどのように動けばパスがつながりやすくなるか。
- ・資料で見つけたポイントを試合で実践したとき、やってみてどうだったか。



班で話し合う様子



試合に取り組む様子

資料で読み取ったことを試合で実践したことで自分の意見に確信をもつことができ、班の中でも自分の意見を伝えることができた。また、始めの資料の読み取りの際は、ボールを持っていない人がただ近づくだけだったが、実際に試合をしてみると、仲間をカバーするという意識で行動することの大切さに気付くことができた。



仮説2-2 自分の考えを整理し、深める今日の収穫

授業で分かったことや友達の見解から新しく分かったことを書くよう伝えた。



生徒Aの今日の収穫

ボールを持っていない人がレシーブする人に近づいたり、声をかけ合ったりすることでボールがつながりやすくなるのが分かった。



個人思考の際には、ボールに対して自分自身がどのように動けばよいのかという考えがあった。しかし、試合で実践し、その後の話し合いを通して、仲間をどのようにカバーすればよいのかについて考えを深めることができた。



英語科

「趣味や経験を伝えたいな」～現在完了形～

仮説1-1 単元を貫く課題を設定

ALTに現在完了形を使った質問をしてもらい、答えられない英文があることに気付かせた。「everやneverの意味が分からない。have+過去分詞の使い方や意味を理解し、きちんと使えるようになりたい。」という生徒の思いから「趣味や継続して行っていることを話したり、質問したりしよう。」という課題を設定した。



課題設定後の生徒Aの考え

have+過去分詞やsinceを使った文が理解できなかった。have+過去分詞を使って、先輩のように自己紹介したり、友達にも質問できるようになりたい。



分からない箇所を確認中

仮説1-2 生徒用単元マップの作成・活用

貫く課題を達成できるかを問うと「have+過去分詞」「for ~years」が分かるとよいと意見が出た。そこで、現在完了形の三つの用法を示し、どう学びを身につけていくのかを見通すための単元マップを作成した。

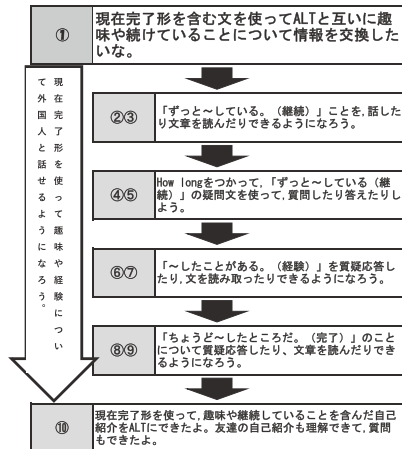


課題達成の見通しをもつ生徒A

for, neverを使うとどのように意味が変わるのだろう。現在完了形の使い方や意味を理解して使いたい。



卒業生の自己紹介文を読み、個別学習及び、友達との相談を経て、新出文法に関心をもたせたことで、「現在完了形の使い方や意味を理解したい」という課題への意欲につながった。単元マップを使用することで、疑問に思っている用法の違いを、前時とのつながりを確認しながら学習を進められた。学習内容が視覚的にも確認できるので最終目標を意識しながらの学習となった。



単元学習後の生徒の変容



ALTに自己紹介をする生徒

単元を終えた生徒Aの考え

先輩の自己紹介文を初めて読んだ時、sinceやbeenなどが分からなかったけれど、学習をして先輩の経験したことが分かるようになった。だから、「質問する時は、neverを使わない文を使う。」と、用法の違いを考えて友達に質問できた。



最終授業でALTに自己紹介をする活動を通して、「Have you～?」の質問に現在完了形を使った解答ができたことから、知識の積み重ねが実感でき、達成感を味わえた。また、三つの用法の違いが理解できたので、どの用法を使って友達に質問しようか考えられるようになった。



第7時「～したことがありますか。」を使って話そう

仮説2-1 適切な資料と活動の提示

- ① 経験用法の肯定文と疑問文の例文を提示し、違いを問う。
- ② 経験した文を作成するために、話題や動詞の参考になる「Hint Sheet」を配付。



生徒Aの個人思考

「Hint Sheet」を使用して英作した。
肯定文にはnever, 疑問文にはeverを使うのだな。
I have never visited Hokkaido.
Have you ever visited Hokkaido? 試そう。



Hint Sheetを参考に会話する生徒A

仮説3-1 話し合いの役割分担と手順

- ① 聞き手は話し手の文法をチェックする。
- ② 聞いた内容に合う返答をする。
- ③ どう表現したらよいか分からない時は相談したり、教え合ったりする。
- ④ 自分のことを伝える相手を替える。



仮説3-2 話し合いの方向性

「～したことがありますか。」を使った英文を用いて、互いに経験したことを伝え合う。



仮説3-3 話し合いの着眼点

- ・経験したことを伝える時に気を付けること(文法、内容、伝えようとする気持ち、声の大きさ、目線)が押さえられているか。
- ・Have+過去分詞, ever, neverを正しく使っているか。
- ・2点を確認し、分からないことは相談し合う。



考え交流による高め合い

相手を替えたことで、1人目で学んだことの再確認をしたり、同じミスをしないように気を付けたりして、自分の表現力の向上に生かすことができ、達成感を味わった。また、異なった表現に触れ、友達と考えることもできた。



授業記録

<1人目の生徒に経験を質問する>

A: Have you ever visited Hokkaido?
B: No, I haven't.
B: Have you ever seen Otani Shohei?
A: seen?
B: see,「会う」の過去分詞。
A: (メモを取る。)
A: No, I haven't.

<2人目の生徒>

A: Have you ever visited America?
C: No, I haven't. I have not never visited America.
A: なんか変。あれ? I have not never? never not?
(2人で考えてもわからず、机間指導中の教師に質問)
neverの使い方が分からないので、教えてください。
(教師の説明を聞いた後)
A: 昨日使ったnotとneverはいっしょに使えないもんで、notはつけないで言えればいい。
C: I have never visited America.

Hint Sheet

Name

- ・住んでいる場所
- ・使っているもの
- ・知っているもの、人

変化	原形
規則	play
規則	study
規則	use
規則	like・love

Hint Sheetの一部

仮説2-2 自分の考えを整理し、深める今日の収穫

「今日のポイント」
「学習して注意すべきだと思ったこと」
を書くように伝えた。



生徒Aの今日の収穫

neverで、すでに否定の意味になるので、not neverや never notなどにしないよう気をつける。



個人思考の段階で、neverを何となく使っていた生徒が、前時に使ったnotをneverと同時に使った友だちの文に出会い、notとneverの使い方に疑問を抱いたことによって、確実な学びにつながった。互いに聞き合ったり、相談し合ったりする活動を通して、現在完了形の用法を確認できた。



実践につながる協同の姿

(1) 学級における協同の姿

学級の目標である級づくりとその実行が、生徒にとって仲間との連帯を深め、自分自身の果たす役割を意識する機会となった。1年生の生徒Aは、級づくりに際し、みんなが笑い合える学級にするためには「互いに助け合えることができれば」と考えた。互いに関わり合い、向上を目指す心情が表れている。その考えに対して具体的な行動が見られてきた。生徒Bは級長として話し合いでは友達の意見を引き出すような働きかけをするとともに、普段の学校生活の中でも自分から積極的に友達に話しかけ、相手のことをよく知ろうとしている姿が見られた。生徒Cは、バレーボール大会の折、大きな声でチームの仲間を励ました。プレイで貢献できなくとも、自分にできることを行った結果、チームの雰囲気はよくなり、よいプレイにつながったことを実感することができた。

(2) 全校における協同の姿

運動会の応援合戦は、3年生が考案した演技を下学年に伝えている。工夫を凝らした演技を作り上げるだけでなく、下学年にコンセプトを説明し、納得した上で参加してもらうようにしている。

普段リーダー的な立場に立つことのなかった生徒Dは、下学年への関わり方に自信をもてずにいたが、自分のやるべきことをはっきりと自覚して取り組んだ。そんな彼女の思いを、同級生は支え、下学年は受け止めて全力で応えた。当日の演技を通して、生徒Dは自分の役割を果たした充実感や、自分の力が応援合戦の演技に貢献できた満足感を感じることができた。

(3) 地域に向かう協同の姿

過疎化に悩むふるさと設楽町のために自分たちができることはないか、という考えのもと、3年生は「設楽町活性化計画」と題し、アイデアを出し合った。町議会議員や町産業課、企画ダム対策課の方々、更には地域の方々の声を聞き、本当に必要とされているもので実現かつ持続可能な案を探った。計画は学校祭で地域の方々や保護者に発表した。この活動を通して、外部との交渉や資料収集、プレゼン資料の作成や発表原稿作りなど、普段の学校生活の中では気付かなかった仲間のよさに気付くことができた。

＜生徒Aの生活記録より＞

—略— 互いに助け合えることができれば、みんな笑い合える学級になると思います。



【自分にできることを自分から】

＜生徒Dの振り返りより＞

—略— 教えるときは、自分がしっかりと覚えていないといけません。困ったときは3年生の仲間が助けてくれました。1、2年生も全体練習の中で意見を出してくれたので、よりよくまとまりました。—略— やり切ったという達成感が得られました。



【運動会での応援合戦】



【地域のために仲間と共に課題に向き合う】

成果と課題



1 研究の成果

仮説1

(1) 手だて1-1に関して

- ①単元の最初に、単元を貫く課題（最終目標）を生徒と共に設定したことにより、単元を通して生徒の関心・意欲が持続し、主体的な取組につながった。
 - ・社会科：感染症の大流行への対策を考えたいという生徒の願いから単元を貫く課題を設定したことにより、学習の目的をつかみ、前向きに学習に取り組めた。
 - ・美術科：作品の鑑賞を通して、制作する時期によって表現が異なることに気付き、今しか表すことができない自分を表現することに関心をもった。
- ②4要素を満たし、生徒の実態に即した単元を貫く課題を設定したことにより、生徒は仲間と共に自ら課題を解決し、達成感を味わうことができた。
 - ・国語科：第1時には「悲しい気持ち」のみに着目していたが、単元を貫く課題を追究しながら、作品後半の「私」の前向きな気持ちに気付けた。
 - ・保健体育科：課題を意識しながら学習を進める中で、技能が向上し、仲間とボールをつなぐことに楽しさや達成感を感じられた。

(2) 手だて1-2に関して

- ①単元マップを授業の最初と最後に確認したことにより、生徒は次に行うべき学習やそれが単元を貫く課題とどうつながっているかを把握することができ、見通しをもって学習に取り組めた。
 - ・音楽科：創作活動スケジュールの見通しがもてたことにより、完成日からさかのぼり、さらに曲をよくしようと、休み時間にも創作活動に取り組めた。
 - ・理科：単元を貫く課題を明らかにするための道順を示したことにより、「化学変化のきまり」に着目して、学習を進めることができた。
- ②単元マップを学習スペースの目立つ場所に掲示したり、ファイルに挟んでいつでも見られるようにしたりしたことにより、生徒は常に単元を貫く課題（最終目標）を意識しながら学習に取り組めた。
 - ・英語科：学習内容が視覚的に確認できるように提示したことで、最終目標を意識しながら学習に取り組めた。
 - ・数学科：単元マップを学習スペースの目立つ所に掲示したことにより、休み時間に授業について話題にする生徒も見られ、課題に対する意識が常に高く維持できた。

仮説2

(1) 手だて2-1に関して

- ①誰でも考えるきっかけがもてる資料やそれぞれの思考に応じて活用できる資料を用意したことにより、自分の考えを構築することができた。
 - ・保健体育科：ボールをつなぐ動きを考えるために、ボールを持っていない人の動きが例示された資料を提示したことで、イメージができボールをつなぐ動きにつながった。
 - ・社会科：新型コロナウイルス感染症の流行によって日本の工業に経済損失が出た理由を考える材料として、教科書や資料集を用いたことで、海外とのやり取りができなくなり、経済が低迷したと考えることができた。
- ②本時の課題解決に向けた活動内容を工夫して提示したことにより、見通しをもって円滑に個人思考に移ることができた。
 - ・理科：本時に学習する内容をワークシートに示し、それを見ながら授業の冒頭で説明をしたことで、学習課題が明確になり、個人思考の時間に確実に自分の考えをまとめることができた。

- ・美術科：話し合いの着眼点を絞るために学級で設定したポイントが達成できているか評価する方法をワークシートと黒板に示し説明したことで、評価活動から着眼点の設定まで個人で取り組めた。

(2) 手だて 2-2 に関して

- ① 振り返りの項目を設定し、話し合ったことや友達から教えてもらったことを自分の言葉で整理することにより、自分の考えを深めることができた。
- ・保健体育科：ボールをつなぐためにどう動いたらよいか友達の意見から新しく分かったことを記述するように指示したことで、ボールをつなぐための動き方を整理し、考えを深めることができた。
 - ・音楽科：「話し合いをできてきたこと・見つけた課題」という記述項目を設定したことで、友達からアドバイスを受けたことを整理し、次時の課題にしようと思いを高めることができた。

仮説 3

(1) 手だて 3-1 に関して

- ① 役割分担を明確にしたり、話し合いの手順を詳細に示したりしたことにより、生徒は次への活動の見通しをもって話し合いに参加することができた。
- ・保健体育科：班学習で、司会者が方向性と合った指示を出して役割を果たしたことにより、何のために話し合うかが班員に周知でき、話し合いが円滑に進むことにつながった。
 - ・数学科：必要な数値を言えるようにするための「練習タイム」、職場のよさを的確に伝えられるようにするための「作戦タイム」を設定し、考えをまとめる手順を踏んだことにより、自信をもってそれぞれの考えを伝え合う姿が見られた。

(2) 手だて 3-2 に関して

- ① 何のために話し合うのかという方向性を明確に示したことにより、話し合いの目的を理解して意見交流ができた。
- ・英語科：友達との話し合いの中で、学習のポイントに沿った課題が生まれ、自発的に教師に質問をすることができるようになった。
 - ・音楽科：自分の曲だけでなく、友達の曲もよくするために話し合うことが明確となり、全員が意欲的に取り組み、互いに意見交流が生まれた。

(3) 手だて 3-3 に関して

- ① 話し合いを焦点化するための着眼点を示したことにより、限られた時間の中でより具体的なアドバイスをしたり、問題解決に向けた考えを交流したりできた。
- ・社会科：「日本の貿易スタイル」を着眼点の一つとして示したことで、加工貿易が多いという特徴について考えたり、着眼点に関わる言葉を自然に用いた話し合いになったりした。
 - ・国語科：「教材文を根拠に示す」ことを着眼点としたことで、班員は教材文の中から根拠とする部分を見つけ出し、意見を述べた。それにより、生徒は納得して課題を解決するに至った。

2 今後の課題

- ・教師の意図と、生徒の興味・関心のバランスをとり、学習意欲や課題追究意欲を持続させる研究を今後も継続していく。
- ・課題解決に向けての話し合いに入る発問が、仲間と共に悩んだり、他者と考えをすり合わせたりして、深い学びにつながるよう、今後も吟味し精選する。

お わ り に

学びには、目標や意欲・関心が欠かせません。生徒と教師が共に課題を設定し、単元マップを作って学びを進めていく本校のスタイルが、2年間の研究推進を通してようやく軌道に乗ってきました。そして、生徒の学び続ける姿勢は、特別な環境や活動を設定するのではなく、支援の工夫によって生み出すことができることが分かりました。

本日の研究発表をもってこの研究が終了するわけではありません。本校の研究実践のあゆみは、子どもたちの成長を支えるために、今後も続いていきます。

おわりに、本校の研究推進を温かく見守り、ご理解とご協力をいただいた保護者や地域の方々へ、改めて感謝申し上げます。

教 頭 伊 藤 昭 康

ご指導いただいた先生方

中京大学名誉教授		杉江 修治 様
東三河教育事務所新城設楽支所設楽教育指導室	指導主事	松本 和也 様
同	前指導主事	村松 史子 様

研 究 同 人

校 長	村松 忠男	教 頭	伊藤 昭康	研究主任	山本亜矢子
校務主任	佐々木英幸	教 諭	大久保日出世	教 諭	原田 義久
教 諭	伊藤 勲	教 諭	小川恵理子	養護教諭	石田千佳子
教 諭	藤原 崇弘	教 諭	鈴木 貴大	教 諭	村松 健太
主 事	山本 成美	教 諭	佐々木崇光	教 諭	原田 慶佑
教 諭	池畠 凜悟	教 諭	藤井 優香	教 諭	長尾 俊也
栄養教諭	中村 美琴	講 師	山口 智子	教 諭	佐々木裕直
支 援 員	九澤 信子	支 援 員	氏原 厚子	支 援 員	西尾 美幸
S C	大谷 旭人	A L T	ジョン・コリガン	教諭(育休)	堂地 志帆
(前職員)					
教 諭	林 博	養護教諭	西谷 円	教 諭	川村 紘也
栄養教諭	山本 早紀	講 師	井上 翔太	拠点校指導員	村井 壽一

研究発表会学習指導案

第1学年 保健体育科学習指導案

指導者 長尾俊也

1 単元 ゴールの決め手はフリーマン！

2 単元の目標

- ・技能を高めるために繰り返し練習に取り組んだり、試合中の周りの動きや試合の映像から課題を見つけて話し合いに積極的に参加したりする。(関心・意欲・態度)
- ・試合の中で自分の動きや仲間の動きを見て、ボール操作やボールを持たない時の動き方の課題を見つけることができる。(思考・判断)
- ・ボール操作や空間に走り込む動きなどによって、ゴール前での攻防を展開できる。(技能)
- ・バスケットボールの技能の名称や行い方を理解し、知識を身に付けることができる。(知識・理解)

3 単元について

(1) 生徒の実態 (男子14名、女子8名、計22名)

単元に入る前、バスケットボールに慣れるため、ボール操作の練習と試しの試合を行った。これまでバスケットボールの経験がある生徒は、ボール操作の練習でも器用にドリブルをすることができる。また、試合の際も積極的にボールを取りに行ったり、パスをもらってボールをキープし、シュートを狙ったりすることができる。一方、これまでバスケットボールを経験したことのない生徒や球技に苦手意識をもっている生徒は、思った方向にパスを出すことができず戸惑っていた。また、試しの試合では、どこにパスを出すのか、コートはどこに移動すればいいのか分からずにゴール前でパスを待ち、密集する生徒が多数いた。

前単元のバレーボールでは試合の映像や静止画像などの資料をもとに班の課題を見つけ、改善方法を考えることができた。しかし、試合になると積極的に動く生徒と動かない生徒がおり、話し合ったことをうまく生かしていない場面が見られた。

(2) 保健体育科における協同学習

保健体育科における協同学習を「生徒全体が学習の目的を理解し、学習で得た知識をもとに話し合いや教え合いを通して自他の運動課題を解決する学習」と定義する。この考え方をもとに、仲間とともに解決することができる課題を設定し、解決に向けた話し合いや教え合いの活動を通して一人一人が自他のために学習に取り組むようにする。そのために、誰もが意見をもてるように手本となる画像や動画などの視覚的資料を提示する。また、話し合いの時には話し合いの方向性を、アドバイスを送る時には見る視点を示すことで、どの生徒も話し合いに参加し、課題解決に貢献しようという姿勢をつくる。

(3) 教材について

バスケットボールは仲間と連携してゴール前の空いた空間に走り込み、パスをもらいシュートを目指すゴール型ゲームである。どうすればゴール前にノーマークの味方をつくることができるかを考え、実践することが大切である。そこで本単元では簡単な作戦(攻めパターン)を決めて試合に取り組むように授業を展開する。作戦を決めてどこにパスを出すのか、どのように動くのかを明確にすることで、ゴール前に意図的にノーマークの味方をつくることができる。

その際、班の課題を見つけられるように試合の映像や静止画像などの資料を活用したり、他の班からアドバイスをもらう時間を設定したりして課題を明確化する。また、ゴール前の空間を巡る攻防についての学習課題を追究しやすいように、1年生の段階ではフルコートではなくハーフコートでの3 on 3のリーグ戦を単元のゴールとする。このような学習を通して、試しの試合のようにゴール前に密集するのではなく、ゴール前にノーマークの味方を意図的につくるために思考し、動くことができるようになることを考えた。

4 単元構想（次々ページに掲載）

5 本時の指導

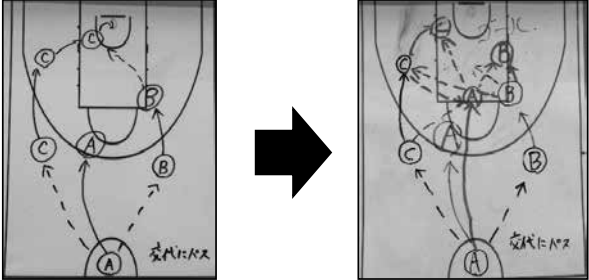
(1) 目標

前時考えた修正案を試合で実践し、試合の経験から改善点を見つけることができる。

(2) 準備

(教師) 単元マップ、作戦ボード（生徒）バインダー、振り返りシート

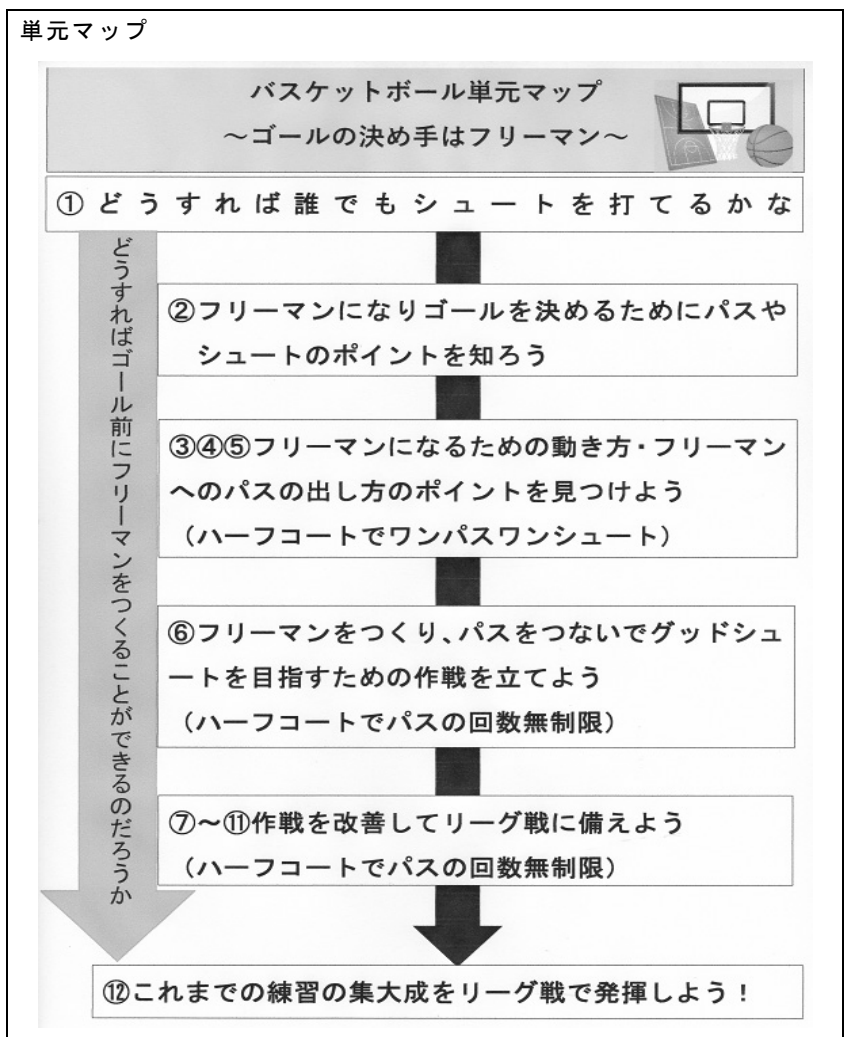
(3) 展開

時刻	本時の課題	教師の発問・発言	生徒の思考	・教師支援
13:20	前時考えた作戦の修正案を試合で実践し、作戦の精度を高めよう。			<ul style="list-style-type: none"> ・単元マップより、前時に出た課題をもとに修正案を考えて作戦の精度を高める時間であることを伝える。 ・ホワイトボードを活用し、授業の流れを確認する。
13:25	班別練習の後、試合を行います。試合後の班ミーティングでは、作戦通りフリーマンをつくることができたかについて話し合いを進めます。			<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの話し合いの流れが分かるよう、各班の前時までの記録を写真に撮りホワイトボードに掲示する。 ・客観的な視点から班の課題が見つけれられるように班の中で観察係をつくる。
13:48	話し合いに入る前に自分の意見をまとめてください。			<ul style="list-style-type: none"> ・(試合後の)話し合いの方向性を「<u>作戦通りフリーマンをつくることができたか</u>」とする。
13:50	試合をもとに班ミーティングを始めてください。			<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの着眼点を「<u>これまでの学習を生かして動いたりパスを出したりできたか</u>」とする。
13:57			<ul style="list-style-type: none"> ・パス①をもらうためにCとBが前後に素早く動いたことでフリーマンになりパスがもらえたね。 ・まだCからAへのパスが通らないことがあるね。 ・Aの動き出しとCがもらったらすぐ中にパスを出せばAがフリーマンでパスがもらえそうだよ。 ・Aを上がらせてパスの起点にしたことでゴール前のパス回しがやりやすくなったね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで、【司会】【記録】【発表】の役割を設け、学びに向かう姿勢をつくる。

14:00	今日の振り返り1プレイを○班お願いします。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学びを全体に共有できるよう代表の班に動きながら工夫した点を伝える「振り返り1プレイ」の時間を設ける。 ・仲間との関わりからできたと感じられるように、今日の収穫で仲間の意見や話し合いの中で分かったことを記入させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの班は前回の試合でゴール前のパスが通らないことが多かったのでAのポジションを変えてゴール前で三角形をつくることでパスが通りやすくなりました。そこを見てください。 	

(4) 評価< A基準 >

- ・味方が取りやすいパスやフリーになるために動きを工夫しながら試合に取り組む。
- ・試合の中で自分の動きだけでなく周りの動きにも着目して、根拠をもとに意見を言う。



4 単元構想 (12時間完了本時10/12)

課題

予想される生徒の思考

単元を終えた生徒の思考

【仮説1の手だて】

①フリーの方がシュートを狙いやすいことが実感できるように、自分たちの試合と中学女子全国大会の試合を比較し、単元を貫く課題を設定する。

(1-1)

②単元のスタートとゴールを示し、その間の活動について生徒の意見を取り入れながら単元マップを作成する。

(1-2)

①～⑫単元を貫く課題を意識し、本時の位置付けが分かるよう、毎時間授業の始めに単元マップを使用する。

(1-2)

①～⑫これまでの学習内容が分かるよう壁やホワイトボードに掲示する。

⑧～⑪班の課題を見つけるためにコートの外から見る人を作る。

⑫これまでの学習の成果を発揮できるようにリーグ戦を設定する。

①なぜ簡単にシュートが決められるのだろう

・フリーでシュートを打っているからゴールが狙いやすくなっているんだね。

どうすればゴール前にフリーマンをつくることができるのだろうか

②フリーマンになってゴールを決めるためにパスやシュートのポイントを知ろう

・状況に応じてパスの種類を変えることでパスが通りやすくなるね。
・リング下シュートなら私もゴールを決められそうだな。

③④⑤フリーマンになり、パスをもらってグッドシュートを目指そう
(ハーフコートでワンパスワンシュート)

・ただ立っているだけじゃパスが通らないな。
・パスのスピードや受け手の動きに変化を付けたら、フリーマンでパスがもらえるようになったよ。

⑥⑦⑧⑨⑩(本時) ⑪フリーマンをつくり、パスをつないでグッドシュートを目指そう
(ハーフコートでパス回数無制限)

・パスを出した後、すぐに動かないとフリーマンになれないぞ。
・ゴール前にフリーマンを作るためには、ゴール前に密集してはいけないね。
・パス&ランでゴール前に走り込んだら、フリーマンでシュートが打てたよ。
・横のパスを意識してコートを広く使ったら、ゴール前にフリーマンがくれたよ。
・外に広がる動きでゴール前からディフェンスを少なくし、ゴールまでの道を作ろう。

⑫これまでの練習の集大成をリーグ戦で発揮しよう

自分がフリーマンになってパスをもらうために、スピードやパスをもらう場所を意識してプレイすることができた。また、フリーマンをつくるために横のパスを意識したりゴール前に密集しないようにコートを広く使ったりできた。

【仮説2・仮説3の手だて】

①～⑫授業の見通しがもてるよう、ホワイトボードに本時の流れを提示し、本時の活動内容を確認する。

②基礎技能のポイントが見つかるよう手本の連続写真資料として提示する。(2-1)

③④⑤話し合う方向性を「パスを通すために工夫する事は何か」とする。(3-3)

⑥⑦⑧客観的な視点から課題が見つかるよう他の班からアドバイスをもらう時間を設ける。

⑨⑩作戦の課題が見つかるよう動画を撮影し分析する。(2-1)

⑨⑩本時の学びがクラス全体に共有できるよう代表班に「振り返り1プレイ」を発表する時間を設定する。

⑥～⑪話し合う際の方向性を作戦通りにフリーマンをつくることができたかとする。(3-2)

⑥～⑪話し合いの際の着眼点をこれまでの学習を生かしてパスを出したり動けたりしていたかとする。(3-2)

④～⑫班の課題が見つかるよう試合を撮影したり、連続写真を提示したりする。(2-1)

④～⑫全員が話し合いに参加できるように役割を与え、学びに向かう姿勢をつくる。(3-1)

司会: 全員が自分の意見を仲間に伝えられるよう話し合いを進める。

記録: 班で話し合った内容をまとめる。

発表: 全体共有の際に班の意見をみんなに伝える。

第2学年 社会科学習指導案

指導者 村 松 健 太

1 単元

「そこがわたしの生きる場所」(地理「日本の諸地域—中部地方—」)

2 単元の日標

- ・将来の居住地を考える課題を通して、東海、中央高地、北陸、設楽の各地域の気候や人口、産業に関心をもち、課題達成のために地域的特色を意欲的に追究する。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・学習活動を通して明らかになった中部地方の地域的特色をもとに、その地域での生活の様子を多面的・多角的に考察し、適切に表現する。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・中部地方の地域的特色について、有用な情報を適切に選択し、図表などにまとめる。
(資料活用の技能)
- ・中部地方について、自然環境や人口、産業などの特色を大まかにとらえる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 生徒の実態 (男子10名、女子5名、計15名)

さまざまな活動に対して積極的で、社会科の授業においても、教師の問いかけに対してすぐに反応し発言したり、自分が疑問に思ったことを質問したりと、意欲的に取り組んでいる。しかし、話し合いになると、学習内容を活用させて考えを発表することができるものの、意見の交流による考えの深まりという点に関しては物足りなさを感じる。本単元では、目的や視点を定め、一人一人の役割を明確にして話し合い活動を行う。何を目的とした話し合いなのかを意識し、視点や個人の役割に応じて意見の内容を焦点化することで、積極的に発言し学習内容を活用できる生徒たちのよさを生かし、意見の交流による社会的な見方の広がりや考え方の深まりに期待したい。

(2) 社会科における協同学習

社会科における協同学習を「生徒全員が学習の目的を共有し、学習によって得られた知識をもとにした話し合いを通して社会的事象を考察する学習、また、それらを他者に伝えることを意識して、分かりやすくまとめて発表する学習」と定義する。本単元では、学級全体で達成する課題を設定し、グループでの話し合いを通して、出来事の背景を考えたり、自分たちの考察をもとに具体的な課題の解決方法を考えたりする活動を取り入れる。これらの活動を通して、協同的な学習を行うことで、学級全体の社会的な思考力や判断力、表現力を育成していきたい。

(3) 教材について

2年生は来年度に義務教育が終了し、自らの進路を考える時期に来ている。本校のキャリア教育では進路学習会で職業に関する話を聴く機会を設けたり、職場体験学習などが設定されておりしている。社会科の学習でも、生徒たちの進路選択の一助となるよう、キャリア教育と関連させた単元を構想した。日本人の職業選択の理由を見ると、その上位に「働く場所」があげら

れており、この時期の生徒にとって地理の視点から将来について考えることは有意義であり、生徒たち自身もその学習に対して必要性を見出しやすいものであると考えられる。また、本単元では生徒たちの住む中部地方を取り上げ、自分が住む設楽町を含む中部地方の各地域を学習していくことになる。自分の将来や地域などの自らと関係のあるものを教材として取り上げることで、学習の課題を自分に関わりのあることとして捉えさせる。そして共通の目的意識をもって話し合うことで、目的に合わせて多様な意見を比較・統合させ、新たな考えを見出すとともに、課題に対して主体的に取り組む姿を引き出したい。

4 単元構想 (11 時間完了本時 7/11)

【仮説 1 の手だて】

- ① 職業選択の理由に住む場所があることに目が向くよう、職業選択の理由の資料を提示する。
- ① 本単元では社会的な視点に限定して将来について考えることを確認する。
- ③～⑩ 本時の目的を明確にするために、授業の導入時に単元マップを活用して本時の学習を確認する。
- ③ 人口による生活の違いに目が向くよう、さまざまな都市の様子が分かる写真を提示する。
- ④ 工業の種類に目が向くように、例として愛知県工業一覧を提示する。
- ⑥ 他地域に目が向くよう、地域による作物の違いと雨温図を資料として提示する。
- ⑧ 第三次産業に目が向くように、既習内容の産業種を想起する場を設定する。
- ⑩ 総合的に生活を考えられるようにこれまでの学習のまとめを活用する。
- ⑪ 自分のことに置き換えて考えられるように、前時のまとめを活用する。

課題

予想される生徒の思考

単元を終えた生徒の思考

① 将来わたしたちはどこに住んでいるのかな？

・中部地方でのライフスタイルを考えて、自分はどこで生きていきたいかを考えよう。

② 気候や人口と交通網は生活にはどのような関わりがあるのかな？

・地域によって気候や交通網に違いがあるね。

③ 「東海」「中央高地」「北陸」「設楽」の4つの地域の生活を前時の視点で比べよう

・地域の違いによって生活も変わってくるね。

④ 工業にはどのような特徴があるのだろうか？

・同じ工業という視点でも、地域によって特徴があるんだね。

⑤ 工業の仕事をやる際には、4つの地域のどこで生きていくのがいいだろうか？

・どのような工業に従事するかで生活する場所が変わるね

⑥ 各地域ではどんな農業が行われているの？

・各地域で生産物に違いがあるんだね。

⑦ 農業に従事する場合のメリットを考えよう (本時)

・栽培する作物だけでなく、「年収」などの視点からも生活する場所を考えられるね。

⑧ どのような第三次産業が盛んなんだろうか？

・都市部で多くの第三次産業が行われているね。

⑨ 各地域でどんな第三次産業の仕事ができるの？

・多くの場所で第三次産業が行われているけど、東海などの大都市は業種が多いんだね。

⑩ それぞれの地域でのライフスタイルをトータルプランニングしよう。

・それぞれの地域の特徴をまとめて、各地域でのライフスタイルを考えられたね。

⑪ 考えよう！私たちの生きる場所

・サービス業に従事したいから大都市のある東海地方で働くことになるんじゃないかな。

【仮説 2・仮説 3 の手だて】

- ① 本単元の学習の目的を明確に意識できるように、「今日の収穫」で、単元を貫く課題に対する自分の意識を記述させる。(2-1)
- ②～⑨ 学習の見通しがもてるようにするため、本時の課題の設定、課題達成のための学習、課題達成のための話し合いの流れで学習を繰り返す。(3-1)
- ②～⑨ 役割を明確にするために、「司会」「記録」「発表」を毎回の話し合いで割当てる。(3-1)
- ②～⑩ 話し合いの手順を明確にするために、プレゼンテーションソフトを活用し生徒に提示する。(3-1)
- ②～⑩ 着眼点を明確にするために、その時間の学習内容を着眼点とし、板書に明示する。(3-3)
- ⑩ これまでの学習内容のまとめを話し合いの資料として提示し、活用できるようにする。(3-3)
- ⑪ 本単元の学習を振り返り、これまでの学習を整理するために、本単元に対する考えを「今日の収穫」に記述させる。(2-2)

未来の自分に中部地方でのライフスタイルを提案！地理の視点から自分が生きていく場所を考えよう

下にページの数字が入らないようでしたら、この図を上下につぶしてかまいません

地理的な視点から、自分の人生について考えられたよ。将来本当に仕事を決めるときに役に立てたいな。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・中部地方の各地の農業の様子をもとに、各地域の特徴を生活面と関わらせて説明する。
- ・各地域の特徴を比較し、それぞれの地域で農業を行うことの利点を根拠をもって考える。

(2) 準備 ワークシート 資料提示用パソコン 生徒用ホワイトボード (以下 WB と示す)

(3) 展開

時刻	教師の発言・発問	生徒の思考	本時の課題	教師支援
13:15	<p>単元マップを見て今日の学習を確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東海」「北陸」「中央高地」「設楽」の農業の特徴について一人一人調べたんだね。 ・今日は前回学習して考えた内容をもとに、農業の視点から将来を考えるんだね。 		<p>本時の課題を設定しましょう。</p> <p>それぞれの地域で農業に従事することのメリットを、他地域と比べることで見つけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の軌跡とこれからの予定を記載した単元マップを活用する。 ・前時からの課題を確認し、本時の話し合いの方向性を明確にする。
13:20		<p>課題について話し合いを行います。まずは、班の中で担当する視点を決め、個人の WB にまとめます。その後、視点ごとに集まる視点班となり、各班の考えを共有します。その後、元の班に戻り、視点班で手に入れた情報を共有してください。最後に各地域で農業に従事することのメリットを手に入れた情報を比べて話し合いを行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸地方では耕地の90%以上が田んぼで、北陸地方で農業を行う場合は稲作農家になるんだろうね。 ・東海地方では平均年収が約520万円って分かったよ。 ・中央高地では、観光農園として観光業を営みながら生活する方法もあるよ。 ・戦略中央高地では他の地域と違い観光農園として生計を立てている方法があるね。 ・生産物それぞれの地域で気候や地形に合った作物で農業を行っているね。 ・農業規模年収としては、東海地方での収入が一番多いから、収入を重視すれば東海地方で農業を行うのがいいね。 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の見通しがもてるように、活動の流れを視覚的に提示する。 ・前時の学習内容が分かるように前時の板書を活用できるようにする。 ・前時で生徒から出た「生産物」「農業規模」「戦略」の3つの視点を意識できるように、視点に関連する内容にイラストを用いて明示する。 ・役割を掲示し、個人が責任をもって話し合いに参加できるようにする。 ・一人一人が責任をもって話し合いに参加できるように、ジグソー学習の形態をとる。
13:57		<p>それぞれの班の考えを見てみましょう。自分だったらどの地域で生きていきたいのかを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央高地では、他の地域と違って観光と農業を合わせるという戦略で農業を行っているのだから、中央高地で農業に従事したいな。 ・東海地方が他の地域と比べると最も年収が多いので、農業をするなら東海地方がいいな。 ・設楽でも、独自の作物を作っているのだから、設楽町で農業をするのも面白そうだな。 		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな資料を活用できるように資料集も活用するように促す。 ・班のWBを黒板に掲示し発表とする
14:02		<p>今日の授業で学んだことを振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は「年収」の視点を最も重視したけど、人によってはどのような農業を行うかを大切にしている人もいるんだな。 		<ul style="list-style-type: none"> ・単元マップに触れ、次時の内容を確認することで、単元の見通しをもたせる。

(4) 評価<A基準>

- ・中部地方の各地の農業の様子をもとに、各地域の特徴を視点ごとに、生活面と関わらせて具体的に説明することができる。
- ・さまざまな視点で各地域の特徴を比較し、それぞれの地域で農業を行うことの利点を適切な根拠をもって考える。

単元マップ		
単元マップ 『My future life in 中部 未来の自分に提案しよう！そこが私の生きる場所』		
時間	学習内容	課題
1		単元を貫く課題を設定しよう
2	中部地方の生活の舞台と発展①	地域の特徴とライフプランとの関係を地域差に目を向けて考えよう。
3	中部地方の生活の舞台と発展②	
4	中部地方の工業と伝統産業①	それぞれの地域での工業に従事することによるライフスタイルの違いを地域を比べることで見つけよう
5	中部地方の工業と伝統産業①	
6	中部地方の農業①	それぞれの地域で農業に従事することによるメリットを他地域と比べることで見つけよう
7	中部地方の農業②	
8	中部地方の第三次産業①	
9	中部地方の第三次産業②	
10	これまでの学習のまとめ	
11		考えよう！私たちの生きる場所
12		

中部ライフプランナーとなって将来の自分に地理の視点から生きていく場所を提案！
 地理の視点から生きていく場所を考えよう！

第3学年 美術科学習指導案

指導者 池島 凜悟

1 単元

まさに設楽町の宝石箱や～ パッケージデザイン～

2 単元の目標

- ・多くの人に商品の内容を魅力的に伝えるため、使う目的や条件、材料の特性を考慮し、作品に表そうとする。(関心・意欲・態度)
- ・機能面と造形的な美しさの調和を総合的に考えるに当たって独自の感性や美意識を生かし、材料の性質を考慮して構造的に安定するパッケージデザインの構想を練る。(発想や構想の能力)
- ・中身を魅力的に伝えるように、視覚的な要素や形を工夫している。(創造的な技能)
- ・パッケージデザインの鑑賞から、目的や機能、調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図と工夫について考える。(鑑賞の能力)

3 単元について

(1) 生徒の実態 (男子 13名 女子 10名 計 23名)

これまでの作品制作では、完成までの手順を示せば、完成時のイメージをもち意欲的に取り組む姿が見られた。また、制作途中の互いに作品を見合う場面で活発に意見を伝え合う姿が見られた。前単元である自画像制作の中で、生徒は自分を他者にどのように伝えるか、自己分析に基づいて作品に表現した。鑑賞会の際に生徒は、作者の意図と受け手の感じ方に微妙なずれが生じたり、全く違っていたりすることに気づき、自分の意図していない部分が他者に伝わることもある点に興味を示した。同時に、意図したことを他者に伝えることの難しさも実感した。

(2) 美術科における協同学習

美術科においては、鑑賞活動を通して作品のよさや美しさを生徒同士で共有し合い、多様な感じ方・考え方を獲得することで自己の表現の幅を広げることが、学びの深まりであると考えられる。そして、生徒は創造者であると同時に、各々が鑑賞者でもある。本単元では、個人思考の時間を確保しつつ、他者との関わりの時間も大切にしたい。自身や他者、作品との対話を通して目的意識を共有した仲間と共に互いの作品をよりよくしようとする姿を期待したい。

(3) 教材について

「パッケージデザイン」は、他者に情報を伝えることを目的として発想・構想する題材である。多くの人に商品の内容を魅力的に伝える役割があり、造形的な美しさと機能性の調和が求められる。個人で作品を作りながら、使う人の立場に立ち、客観的な視点も大切にしたい。また、本単元では、設楽町にある道の駅で販売されている設楽町の特産品から作品の主題を考える。地域に目を向け、生徒と身近なものを関連させることで課題に必要感をもたせ、気持ちや情報を伝えるよさや面白さを味わえるようにしたい。そして、パッケージデザインの制作を通して、自分の感性や美意識だけで作品を表現するのではなく、使いやすさや、どうすれば多くの人の目に留まるのかなど、受け手側の立場に立って考えることで、前単元で生徒が感じた「伝える難しさ」の問題を解決する手掛かりにしたい。

4 単元構想 (12 時間完了 10/12)

課題

予想される生徒の思考

単元後の生徒の思考

【仮説1の手だて】

①題材に親近感をもち、主体的に活動に参加できるようにパッケージデザインの主題を地元の道の駅の商品とする。(1-1)

④鑑賞からパッケージデザインに重要な要素について考えた後、「どんな作品にしたいか」を問い、出てきた言葉から貫く課題を生徒と共に設定する。(1-1)

④単元のスタートからプレゼンするというゴールまでを示し、その間の活動について生徒の意見を取り入れながら単元マップを作成する。(1-2)

⑤～⑫単元を貫く課題を常に意識できるように、毎時間、授業の始めに「単元マップ」を活用し、本時の位置付けを確認する。(1-2)

⑩⑫地域に情報や気持ちを伝える素晴らしさ、面白さを感じられるよう、単元末にプレゼンテーションの課題を設定する。

①世の中にあるパッケージデザインを鑑賞し、「優れたパッケージデザインに必要な要素」を見つけよう

・ターゲットを絞ったり、持ちやすくしたり、パッケージデザインで大切な要素が分かったよ。

②③道の駅「アグリステーションなぐら」を訪問し、現地からデザインの発想を得て、作品を構想しよう

・五平餅を現行の透明パックから、機能的で魅力を引き出すパッケージにできないかな。

④地元の商品を題材としたとき、どんなパッケージをデザインしたいかを考え、制作の見通しをもとう

・多くの人に商品の魅力が伝わるパッケージデザインを考えていきたいな。

⑤⑥商品分析し、構想スケッチを描こう

・パッケージのイメージが固まってきたけど、他の人からの意見も聞いてみたいな。

⑦構想スケッチを見せ合い、友達の商品がよりよくなるようにアイデアを出し合おう

⑧⑨パッケージのサンプルを作ろう

・友達からもらったアイデアをサンプルに反映させたよ。立体に上手く表現できているかな。

⑩「パッケージデザインとして優れているか」を視点とし、友達の商品がよりよくなるようにアイデアを出し合おう(本時)

・もっと曲線的で、ふんわり包むような形にすると衝撃からトマトを守れないかな。
・アイデアから、パッケージデザインが固まってきたよ。完成した作品を実際に道の駅で働いている人に見てもらいたいな。

⑩⑫作品を完成させ、プレゼンの準備をしよう

(総合①)「アグリステーションなぐら」の生産者やスタッフに、作品をプレゼンテーションしよう

設楽町のよさが詰まった、目を引き、見て楽しいパッケージを、客観的な視点を大切にして、デザインしよう

【仮説2・3の手だて】

①～⑫生徒がデザインを発想・構想しやすい環境づくりのため、教室内に様々な種類のパッケージデザインを展示する(2-1)

①「優れたパッケージデザインに必要な要素」は、制作時に意識するだけでなく、⑦・⑩の話し合いを焦点化するための着眼点につながるものを設定する。(3-3)

②③作品構想の個人思考を円滑にするために、直接現地を訪問し、状況を生徒自身の目で確認する場を設ける。(2-1)

⑤～⑨自分の力で制作できるように、構想の手助けとなるワークシートや手順を示した資料を用意する。(2-1)

⑦⑩全員が話し合いに参加できるように、話し合いの進め方や役割を提示する。(3-1)

⑦⑩話し合いの方向性として「より優れたパッケージデザインにするにはどうすればよいか、アイデアを出し合おう」と示す。(3-2)

⑩友達からアイデアを受けた後に自分の作品を改善できるように、話し合い後に個人思考の時間を設定する。(2-2)

商品の分析をもとにデザインを考え、作品をプレゼンする活動を通して、相手に伝えるための工夫、パッケージデザインの意義やその役割について考えを深めることができたよ。

5 本時の指導

(1) 目標 試作品から、友達の意図や工夫したことを考え、着眼点に基づいたアイデアを伝える。

(2) 準備 構想シート、鑑賞シート、試作品、単元マップ、話し合いの手順を示す掲示物。

(3) 展開

時刻	本時の課題	教師の発問・発言	生徒の思考	・教師支援
13:15	前回、貼られたシールの結果から、話し合いの着眼点を決めました。着眼点を班員と共有し、試作品がパッケージデザインとしてより優れたデザインにするにはどのような点を改善していけばよいか、みんなでアイデアを出しましょう。話し合いの際は『優れたパッケージデザインの要素』に基づいて考えましょう。		<ul style="list-style-type: none"> ・トマトのパッケージデザインで「⑥機能性」の項目でシールが少なかったよ。トマトを保護するために、6つの着眼点から特にトマトがつぶれないようにするにはどのような形にすればよいかに焦点を当てて、友達と話し合いたいな。 ・「①配色」について、大福の緑色を生かすため、箱上面に透明のシートを貼っているのに、箱がカラフル過ぎて、目立たせたいはずの大福が目立たなくなっているよ。補色の色を使ったり、色の数を減らしたりしたらどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元マップを用い、本時の位置づけ、本時の流れ・目標を示す。 ・個人の意見がもてるよう、各作品の話し合いが始まる前に、一分程度、着眼点を共有する時間を設ける。 ・『パッケージデザイン制作のポイント』として、単元導入で生徒の言葉から生まれた6つのポイントを話し合いの着眼点とする。 ①配色 ②文字の書体 ③レイアウト ④形 ⑤オリジナリティ ⑥機能性
13:40	みんなでアイデアを出し終えたら、もらったアイデアをもとに試作品を見直し、作品完成に向けて個人で制作を進めましょう。		<ul style="list-style-type: none"> ・③レイアウトを着眼点としたとき、文字が多すぎて分かりづらいから、一番伝えたい事を明確にしてその文字を目立たせた方がよいという意見をもらったよ。だから、情報を整理して、文字の大きさや配色でパッケージの構成を考え直してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、進め方の手順を示し、【司会】【タイムキーパー】の役割を設け、責任をもって活動に参加できるようにする。 ・話し合いを経て作品がどう変わったか、個人で一時間の変容を感じられるように前時の試作品の写真を生徒に渡し、振り返りの際に見比べることができるようにする。変容が著しく良い作品を全体で共有する。
13:57	今回の授業で自分の作品がどう変わったか、前時の構想スケッチと見比べましょう。その後、班員と見比べた結果を共有し合ひましょう。		<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのアイデアから色を増やしてみたよ。 ・持ちやすさを意識して形を変えてみたよ。 	
14:00	友達との関わりを通して学んだこと、今日の時間で自分の作品がどのように変わったか振り返りましょう。		<ul style="list-style-type: none"> ・自分では思い浮かばなかった発想と出会い、より自分の表したい作品に近づけることができたよ。 ・悩んでいた点が解決し、完成像がイメージできた。 ・違う視点から意見をもらうことって大事だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの話し合い活動で得た収穫を振り返り、本時における個々の表現の変容や次時に意識をつなげることができたかを書くように伝える。

(4) 評価 (A基準)

・他者の試作品に対して表現の意図や工夫を読み取り、着眼点に基づいた具体的なアイデアを伝える。他者からももらったアイデアを適切に取り入れ、完成形のイメージをもって制作に取り組む。

パッケージデザイン 単元マップ

客観的な視点を大切にして、デザインしよう

設楽町のよさが詰まった、目を引き、見て楽しいパッケージを、

①

世の中にあるパッケージデザインを鑑賞し、「優れたパッケージデザインに必要な要素」を見つけよう

②③

道の駅「アグリステーションなぐら」を訪問し、現地からデザインの発想を得て、作品を構想しよう

④

地元の商品を題材としたとき、どんなパッケージをデザインしたいかを考え、制作の見通しをもとう

⑤⑥

商品を分析し、構想スケッチを描こう

⑦

構想スケッチを見せ合い、友達の作品がよりよくなるようにアイデアを出し合おう

⑧⑨

パッケージのサンプルを作ろう

⑩

「パッケージデザインとして優れているか」を視点とし、友達の作品がよりよくなるようにアイデアを出し合おう

⑪⑫

作品を完成させ、プレゼンの準備をしよう

「あぐりステーションなぐら」の生産者やスタッフの前で、作品をプレゼンテーションしよう

1 単元

私が気になる「僕」の心情に迫る ―『少年の日の思い出』(光村1年)―

2 単元の目標

- ・教材文の言葉から「僕」の心情に迫ろうと、何度も読んで自分の考えをもととしたり、気付いたことを級友と交流したりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ・教材文の言葉から、「僕」の心情の変化を捉える。(読むこと)
- ・教材文で用いられている語句や用法を理解し、内容を正しく理解する。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒の実態 (男子12名、女子8名、計20名)

7月に行った、物語『星の花が降るころに』の学習から、登場人物の心情について自分が考えたことを、教材文の言葉を根拠として意見を述べるのが習慣付いている。しかし、語彙が少なく、書かれたことを誤解して読んでしまうという点に課題が見られる。感覚的に捉えた人物の心情を、豊富な言葉を根拠として全員で理解できるよう、それぞれが捉えた人物の心情について、声に出して交流する機会を多く設けたい。級友との音声言語での関わりの中で、教材文に使われている言葉を習得させていく。「共感」という言葉を使って、自身の生活経験と関連付けながら、登場人物の心情について説明することができている。前単元では、生徒が初発感想で出した、「みんなで解決していきたい課題」をもとに教師が各時間の主発問を設定したが、より生徒の意識に結び付いた学習課題を設定するために、生徒たちが自分たちで、「次時に何について話し合うのか」を検討し、決定する力を付けていく。

(2) 国語科における協同学習

国語科の文学的文章を扱う単元における協同学習を、「生徒全員が学習の目的を共有し、教材文を根拠として考えた登場人物の心情や表現に込めた作者の意図について、級友と意見を交流するなかで新たな考えに気付いたり、納得できる考えを見つけたりする学習」と定義する。この考えをもとに、本単元では、生徒が考えた「教材文の気になる部分」を共有し、そこから授業で扱うものを決定する活動を取り入れ、課題を自分事として捉えて学習に向かう態度を育成する。あらすじや簡単な疑問の確認は、声に出す回数を確保できるようにペアで、課題をみつける活動は、自分とは異なる気付きと出会えるように小グループで、人物の心情に迫る話し合いでは、気づきをつなげていくために全体で行う。この活動を通して、級友との意見交流の中で新たな学びを得る力を育成する。

(3) 教材について

本単元では、小説『少年の日の思い出』について学習する。この小説には、自分の熱情に突き動かされて行動してしまう未熟な少年の姿や、過ちを自覚してちよう集めと決別する少年の姿が書かれている。今までに扱った物語と比較すると、人間の弱さが表現されており、登場人

物の心情について、「共感」という言葉では説明しづらいと感じる生徒もいることが予想される。本単元での学習を通して、自分の心の中にある他者への劣等感や、嫉妬の感情に目を向けさせたい。前向きではない人物の心情に迫る活動によって、生徒は小説の新たな見方や、魅力に気付くことができる教材であるといえる。そこで、本単元では生徒が「気になる」と感じた部分を共有し、その中から授業で話し合いたいことを決める活動を行う。最も多くの生徒が話し合いたいと感じた課題を単元の最後に扱うことで、その課題を解決するために何度も教材文を読んだり、考えを交流したりしたいという思いを強くさせる。一人ではたどりつけなかった「僕」の心情に迫ることができるよう、級友との異なる気づきをつなげられるように、授業を進めていく。

4 単元構想（次々ページに掲載）

5 本時の指導

(1) 目標

- ・教材文の記述から、ちょうをつぶしたときの「僕」の心情に迫る。（読むこと）

(2) 準備

- （教師）教科書の拡大掲示物に前時までの学びを書き入れたもの 単元マップの拡大図
 （生徒）教科書 授業用ノート 新国語便覧 単元マップ

(3) 展開

時刻	本時の課題	教師の発問・発言	生徒の思考	教師支援
14：15	単元マップを見て、前時に迫った「僕」の心情と、今日考える「気になった部分」を確認します。			<ul style="list-style-type: none"> ・各授業のつながりを意識できるよう、第4時から第7時までに考えた「気になった部分」についての授業の記録を掲示しておく。 ・5つの着眼点については、新国語便覧P242の「小説読解のポイント」を資料として示すことで、どのような記述に着目するかを分かりやすくする。
14：20	<p>多くの人が気になった、p.214 L2「ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった」の部分について考え、「僕」の心情に迫ります。</p> <p>p.214 L2の「僕」の心情について各自で考え、ノートにまとめましょう。「情景描写」「場面の設定」「修飾表現」「視点」「人物の立場」の5つの着眼点から、考えましょう。時間は10分間です。</p>			
			<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうをつぶした行為をエメールは許してくれなかったから、償いの思いがあった。 ・前の場面で、軽蔑されたことに怒っていたから、エメールへの怒りをちょうにぶつけた。 ・「しまった」とあるから、本意ではなく、つぶしたことへの後悔が、後になって出てきた。 ・このつらい思い出と決別しようとしたのでは。 	

14:30	<p>「僕」の心情にみんなで迫るために、各自で考えた意見を出し合ってみましょう。</p> <p>・償いの気持ちなら、謝る言葉をかけるはずなのに、「悪漢だと決まってしまった」と思っている。</p> <p>・償いと怒りが同時にあるのは変だと思う。「一つ一つ」とあるから時間をかけてつぶしている。</p> <p>・「しまった」は、何かを終えるときに使う言葉。</p> <p>・「闇の中」とあるから、見たくないのだろう。</p> <p>→この辛い思い出を思い出さないようにつぶした。</p>	<p>表現から読み取れることのみのでの発言には、そこでの「僕」の心情を問い返す。</p> <p>・級友の考えとつなげて考えられるよう、「反省」や「償い」という意見と、「怒り」や「決別」という意見を対立させてゆさぶる補助発問をする。</p>
14:55	<p>今日の授業で新たに気付いた「僕」の心情について5分間で振り返りを書きます。授業の最後に、初発感想の時点でこの部分が気になっていた8人の中から、振り返りの発表を聞きます。</p>	<p>・級友の学びに貢献したと感じられるよう、初発感想で「気になる」と考えた生徒に振り返りを発表させる。</p>

(4) 評価＜A基準＞

ちょう集めと決別する「僕」の心情を、本文中の言葉を根拠に考えることができる。

【仮説1の手だて】

①～③多面的な視点から作中の登場人物の心情に迫るため教材文を繰り返し読み、ペアで大体的内容を確認してから、初発の感想を書く。（1-1）

④仲間とともに追究したいと感じられる課題を設定するために、気になる部分を共有し、最も話し合ってみようことを決め、それを第8時に扱う。（1-1）

⑤～⑥授業の最後には、次時に取り扱いたい「気になった部分」について投票する。（1-1）

④～⑧単元を貫く課題を常に意識できるよう、各授業の導入で単元マップを見て前時までの学習と本時の位置付けを確認する。（1-2）

⑨単元を通して自分の成長を感じられるよう、単元マップに書き込んだことを見て振り返りを書く。（1-2）

①教材文を読んで、語句の意味を調べる。

②ペアであらすじを確認し、疑問を解決する。

③初発感想を書き、本文の気になる部分を探す。

④気になった部分を共有し、単元マップを作成する。

- ・「指で粉々に押しつぶしてしまった」という行動をしたのはなぜか気になるから、話し合ってみよう。
- ・「そんなやつ」と言われてどう思ったか話し合ってみよう。

⑤エーメールの「僕」への言葉が気になる

- ・「君の集めたやつはもう知っている」とあるから、「僕」の収集を見下されていると分かる。
- ・「君はそんなやつなんだな」とあるから、幼稚な行動をとる人だと決めつけられている。
- だから「僕」は、嫌な感情をもっている。

⑥「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」が気になる。

- ・「喉笛に飛びかかるところ」とあるから、怒っている。でも、飛びかかっているわけではない。
- ・軽蔑されて、悔しい気持ちになっている。
- 怒りも、悔しさも、反省もある。

⑦「母に打ち明ける勇気を起こした。」が気になる。

- ・打ち明けるのは、辛いことだったと思う。
- ・申し訳ないと思ったから、打ち明けたのでは。
- ・申し訳ないなら、直接謝りに行くのでは。
- ちょうを盗んだ、つぶした事実一人では耐えられなくなったから、打ち明けたのだろう。

⑧「指で粉々に押しつぶしてしまった。」が気になる。

- ・ちょうの収集に熱情的だったはず。
- ・エーメールへの申し訳なさがあったのでは。
- ・軽蔑されたことへの腹いせではないかな。
- 熱情的だったちょうの収集が嫌な思い出となったので、二度と集めないという思いがあった。

⑨初発感想と比較して、学習する中で新しく気付いた作中の「僕」の気持ちを終末感想に書く。自分の気づきを生んだ瞬間を思い返して、学習の価値に気付く。

【仮説2・3の手だて】

①「僕」の蝶を集める熱情に共感しやすくするため、作中に登場するちょうの画像を提示する。

（2-1）

②「僕」の心情に迫る気づきが生まれるよう、「人物の設定」「人物の行動」「場面の転換」「意味の分からない語句」の4つの着眼点で疑問を解決し、作品の大体的内容をつかませる。

（3-3）

⑤～⑧生徒たちの力で人物の心情を読み取る話し合いになるよう、着眼点として、「A 情景描写」「B 場面の設定」「C 修飾表現」「D 視点」「E 人物の立場」という5つを示す。

（3-3）

⑤～⑧授業で学習したことを整理し、深めるよう、「授業で新たに気付いた『僕』の心情」について振り返りを書く。

（2-2）

⑨単元を通して学習したことを整理し、深めるよう、自身の初発感想と比較しながら、「新たに気付いた『僕』の心情は、どうやって気付けたか」について振り返りを書く。（2-2）

⑤～⑧ 友達が気になった部分について考え、「僕」の心情に迫る

少年の日の思い出（ヘルマン・ヘッセ作） 単元マップ

一年（ ）番 名前（ ）

① 範読・語句調べ	② ペアであらすじ確認	③ 初発感想と気になる部分
④ 気になった部分を共有し、単元マップを作成する		

友達が気になった部分について考え、「僕」の心情に迫る

⑤ 「君の集めたやつはもう知っている。」
 (振り返り)

⑥ 「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」
 (振り返り)

⑦ 「母に打ち明ける勇気を起こした。」
 (振り返り)

⑧ 「ちようを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。」
 (振り返り)

⑨ 授業を通して、新たに気づいた「僕」の心情について、感想を書く。

第2学年 音楽科学習指導案

指導者 藤井 優香

1 単元

要素（ピース）を揃え 誰もが認める合唱を （題材『君とみた海』）

2 単元の目標

- ・歌唱に関心をもち、表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・表したいイメージが表現できるよう、自分たちに必要な要素に目を向けながら工夫する。
(音楽表現の創意工夫)
- ・イメージを表現するために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付ける。
(表現の技能)

3 単元について

(1) 生徒の実態（男子10名、女子5名、計15名）

自分たちも聴く人も満足できる合唱にしたいという思いから、クラス合唱の目標を『15人の心と声の一つに 誰もが認める合唱を』に決めた。この目標に向かって練習に取り組む中で、「みんなが満足できる合唱にしたい」「伝えたいことが伝わる合唱にしたい」という思いを高めている。昨年度行ったクラス合唱では、簡単な旋律を正しい音程やリズムで歌うことや表現を工夫しようと強弱や発音を意識して歌うことができた。しかし、昨年度は混声合唱に慣れていなかったため、喉を開いた発声ができず、地声に近い声や響きの弱い声が出てしまうことが多かった。また、安定した声で音程をとる力や、拍を感じてリズムよく歌う力なども十分ではない。生徒は、自分たちの合唱と過去の先輩の合唱を聴き比べて課題を見つけようとし、「一人一人が声を出す」「音程を完璧にする」などを課題として挙げた。本学級は他学年に比べて人数が少ないため、一人一人の責任が大きくなる。生徒は「人数が少ない分、一人一人が声を出さなければならない」「各パートの人数が少ないからみんなが頑張らなければならない」と感じている。一人一人が自信をもって合唱できるように技能向上していくことで、彼らの目標とする合唱を創り上げていきたい。

(2) 音楽科における協同学習

音楽科では、「ここからは訴えかけている感じがするから、発音をはっきりさせて一つ一つの言葉を強調したい。」や「だんだん大きくして行って、訴える思いが強くなっている様子を表現したい。」などのように、思いや意図を共有することで歌唱の力をつけていくことが求められている。本単元では、パート練習の途中で行うパート間交流をはじめ、意図的な話し合いの場を設定することで、他の生徒のよさを取り入れたり、他の生徒の意見から新しい発見をしたりしながら練習を進める。これらの活動を通して仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒を育成したい。

(3) 教材について

『君とみた海』は、流れるような美しい旋律や強く訴えるような旋律などが現れる落ち着いた雰囲気の曲である。音の動きが細かく、他パートと違う動きをすることが多い。また、

変化が多く、終盤で転調して盛り上がるなど、表現を工夫できる要素が多い。技能面や表現面において昨年度の合唱曲「My Own Road」より、難易度が上がっている。そのため、毎時間、一つの要素に焦点を絞り、「音程」「リズム」「発声」「発音」などの技能を習得していく。そうすることにより、確実に技能の向上が期待できる。生徒が上手いかない部分をそのままにしたり、どうすればよいのか分からなくなったりする可能性がある。練習したい部分を繰り返し再生しやすいタブレット端末の音源を用いたり、課題に合わせてポイントや練習方法を示した資料を活用したりする。この教材の学習を通して、要素ごとに技能を高め、生徒自身が「昨年度より難しい曲を誰もが認める合唱にして歌うことができた。」と達成感を得られるようにしたい。

4 単元構想（次々ページに掲載）

5 本時の指導

(1) 目標

「果てなく続く、きれいで澄んだ海」や「君や海への思い」というイメージを表現するために、発音を工夫して歌えるようにする。

(2) 準備

単元マップ、楽譜、タブレット端末、CD、スピーカー、譜面台、資料、ワークシート。

(3) 展開

時刻	本時の課	教師の発問・発	生徒の思	・教師支援
14:15	イメージを表現するために、発音を工夫して歌おう。			・授業の見通しがもてるようにするため、授業の始めに「単元マップ」と本時の流れを提示し、確認する。
14:20	イメージを表現するために発音することは、みなさんが目指す『誰もが認める合唱』に繋がります。パートで分かれ、イメージを表現するために必要な「母音」「子音」「鼻濁音」に注目して練習を進めてください。目標達成に向けて練習し、最後に録音しましょう。録音はこの後のパート間交流で、工夫点を伝えるために、他のグループに聴いてもらい		・「うみよ」の「u」をもっときれいな響く声にするために、「o」に近い口の空間を作って歌いたい。 ・「かがやいてる」の「ga」とか鼻濁音がきついため、美しい響きが伝わるように練習したい。	・自分の力で練習できるよう、発音のポイントや練習方法の資料を用意する。
14:30	アルトから順番に練習した箇所の録音を他パートに聴いてもらいましょう。歌い手は発音の工夫した点を伝え、聴き手は自分たちが取り入れたい点を楽譜に書き込みましょう。自分たちの録音を聴くときは反省をメモしましょう。各パート、工夫した点を共有して互いのよい点を取り入れたり、新たな課題を見つけたりするのに役立てて残り			【パート練習】 ①各担当の意見を伝える ②発音練習（資料を参考に） ③②の発音を生かした曲練習 ※不十分だと感じたら繰り返し練習する ④録音

<p>15:00</p>	<p>・「夏の日」の「の」から「お」になるとき、はっきり聴こえるように、少し間をつくりたい。</p> <p>・「海よ」は思いが強まっていることが伝わるよう、「う」「み」「よ」の全てを強調するように歌いたい。</p> <p>振り返りをします。今日の収穫には、「練習をできたこと・学んだこと」を書きましょう。</p> <p>・ソプラノの工夫を参考にして、さびだけでなく、さび前の「うみよ」の「u」の発音練習をして、はっきりと歌えるようになり、「海への思い」を表現できた。母音を気をつけて歌わないとイメージが伝わらなくなってしまう部分は他にもあるから、チェックしておきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加する責任感をもてるよう、「母音・子音・鼻濁音」の係を分担する。 ・本時の話し合い内容を今後の練習にも生かせるよう、工夫した点をメモできる拡大楽譜を用意する。 ・達成感を得ながら次時への意欲を高めるため、課題の達成度合いが分かる振り返りを活用する。 ・考えが深まったことに気づきやすい、振り返りの視点を示す。
--------------	--	--

単元構想 (9 時間完了 本時 5/9)

課題

予想される生徒の思考

単元を終えた生徒の思考

【仮説1の手だて】

①一人一人の意欲を高めるため、学級訓『ピース～みんなで作る1年間のパズル』と関わりをもたせた単元を貫く課題を設定する。
(1-1)

①クラス合唱目標の『15人の心を一つに誰もが認める合唱を』を実現するために自分たちに必要な力について問い、出てきた言葉から単元を貫く課題を生徒と共に作成する。

①単元を貫く課題の意識をつなげるため、振り返りの際に、「目標達成に向けて意識したいこと」という視点を与える。

①～⑦単元を貫く課題を常に意識できるよう、毎時間、授業の始めに「単元マップ」を使用し、本時の位置付けを確認する。
(1-2)

・音楽の授業外の時間にも単元を貫く課題に対する意識を高められるよう、生徒が自主的に練習を進められる合唱練習計画ボードを用意する。

六つのピースで一つのメロディー
15人の心と声を一つに誰もが認める合唱を

①自分たちの合唱に必要な要素を見つけよう

・話し合ってみつけた要素を意識して練習し、本番で誰もが認める合唱をしたい！

②工夫しながら音程の的を狙って歌おう

・流れる音を表現するために、細かな音程まで意識して歌うことができた。

③流れにのり、縦を意識して歌おう

・波のイメージを表現するために拍の流れを感じたり、十分に伸ばしたりできた。

④発声を意識し、イメージに合う、遠くまで響く声で歌おう

・発声を変えたらイメージどおりの声が出せるようになってきた。

⑤イメージを表現するために、発音を工夫して歌おう (本時)

・発音を工夫することでイメージに近づけた。次はバランスを整えていきたい。

⑥最後まで流れが途切れないようにするために、パートバランスを整えよう

・どのパートも役割を理解してバランスを考えて歌えていた。この調子でよくしたい。

⑦強弱を意識し、抑揚のある合唱にしよう

・強弱をつけて、私たちの思いを表現できた。次から完成を意識して微調整したい。

⑧⑨本番に向けて誰もが認める合唱しよう

・本番に向けて、自信をもって歌える合唱にすることができた。

【仮説2・仮説3の手だて】

①～⑧授業の見通しがもてるように、授業の始めに本時の流れを提示し、確認する。(2-2)

①～⑧自分の力で考えられるよう、「合唱10か条」「音程」「リズム」「発声(裏声・オモテ声・地声)」「息遣い」「発音(母音・子音・鼻濁音)」「強弱」などのポイントや練習方法を示した資料を用意する。(2-1)

①～⑧自分の力で課題を見つけられるよう、模範やパート別の音源、過去の合唱の音源などを用意する。(2-1)

①～⑥全員が話し合いに参加できるようにするため、例のとおり手順の詳細を提示する。(3-1)

(例)

- 1 パート練習(部分練習)
(6フレーズ×2分半)
- 2 録音(パート音源)
- 3 試聴(楽譜にメモ)
- 4 全体共有(楽譜にメモ)
- 5 パート練習(課題練習)

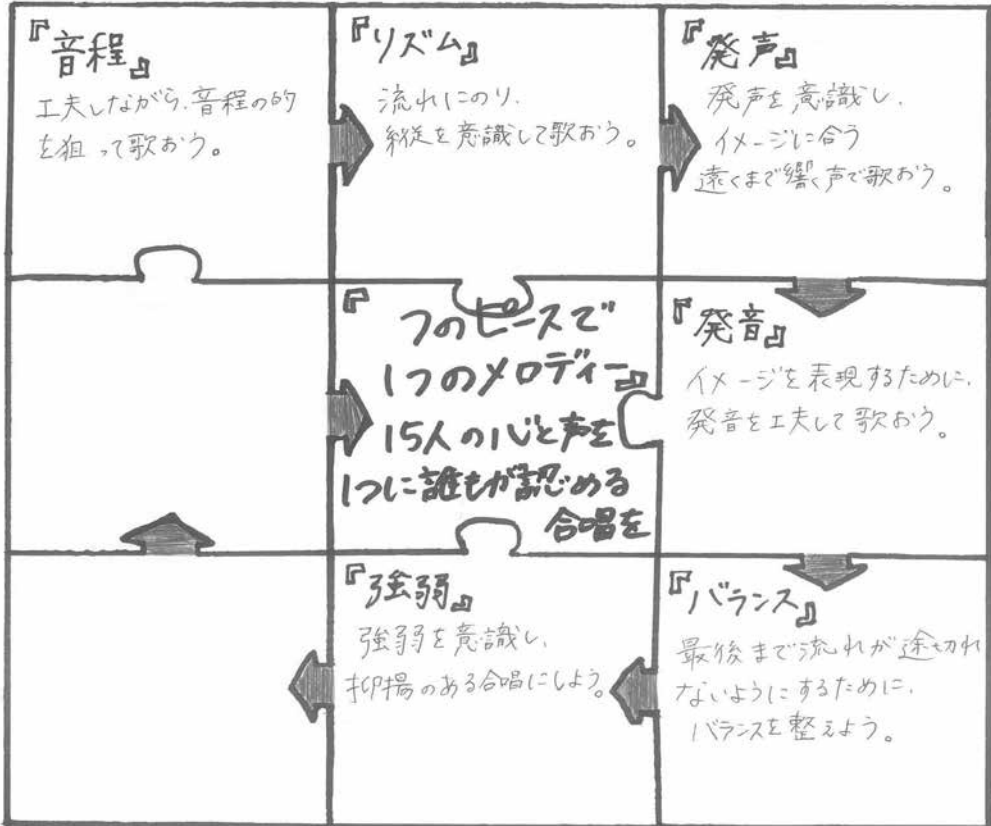
①～⑥「誰もが認める合唱にするため」という方向性を示してから話し合いを行う。(3-2)

①～⑥「強弱のポイント」など、着眼点を伝えてから話し合いを行う。(3-3)

・自主的な練習機会につながるよう、学級で自由に使えるCDやデッキ、メトロノームや拡大楽譜を用意する。また、自宅で使用できるCDを全員に配付する。

これまでの練習で、自分たちの合唱をよりよくするために必要な、正しい発声や発音などのピースを揃えることができた。一人一人が技能と表現力を高めて、誰もが認める合唱にできた！

単元マップ



イメージ

- 。果てしなく続く、きれいで澄んだ海
- 。君や海への思い

合唱発表会は
12月19日

1 単元

イオンから見る酸・アルカリの世界—化学変化とイオン—

2 単元の目標

- ・酸性とアルカリ性の水溶液に関する事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究しようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・酸とアルカリの性質や中和して水と塩ができる現象について、イオンの考え方をもとにして、自らの考えを導いたり、まとめたりする。
(思考・表現)
- ・酸とアルカリの性質を調べる実験や中和反応に関する実験の基本操作を習得し、結果の記録や整理の仕方を身に付ける。
(観察・実験の技能)
- ・酸性とアルカリ性の水溶液のそれぞれの特性や中和反応について理解し、知識を身に付ける。
(知識・理解)

3 単元について

(1) 生徒の実態 (男子 11 名、女子 10 名、計 21 名)

実験・観察の結果や提示された資料を生かし、意欲的に課題を解決しようとする姿が見られる。また、グループ学習の際には、互いの意見をよく聞き、分からないところは素直に質問しながら、班全員が理解できるように努めている。前単元「水溶液とイオン」や「化学変化と電池」では、どうして水溶液に電流が流れるのかという疑問をきっかけに水溶液中にイオンが存在していることやイオンが要因となり電流が流れていることを学習した。イオンや電子の様子を図に書き、それを指さしながら具体的に説明することができた。また、これまでの学習を通して水溶液の性質にも興味をもち、さまざま電解質水溶液は何性なのかや電流の大きさの違いについて疑問をもった。そこで、中和や塩の生成といった化学変化の現象についてイオンを用いて説明する単元を構想すれば、生徒は疑問の解決を図る中で、酸・アルカリの性質やイオンについての理解を深めると考える。

(2) 理科における協同学習

理科における協同学習を、課題を解決するために必要な知識を利用し、仲間と関わりながら、個人の思考の深まりを目指す学習と定義する。この考えをもとに、各々が課題に対して個人思考をした上で、班で実験・観察を行う。協力して実験・観察を行って得た結果をもとに、再び個人思考を行う。それぞれの見解を持ち寄り、班で考えを出し合って共有し、ホワイトボードにまとめていく。その際、班での話し合いが充実するために係分担をする。各班の考えを全体の場を出し合い、他の班の考えに触れた後、再び各班に戻って話し合い、各々の考えをまとめる。このように、個人思考と話し合いを交互に取り入れることで、仲間と共に課題と向き合いながら、個人の思考の深まりを図る。

(3) 教材について

本単元は、小学校の段階から学習している酸性・アルカリ性の性質の正体をイオンから考え

る。前単元で学習してきたイオンの電気的な性質を活用し、酸性を表すものは何か、アルカリ性を表すものは何かを追究する。また、中性の物質についても水溶液中でのイオンの状態を考えることで理解につなげていける。毎時間、授業で使う水溶液のイオン式を確認し、それを資料として用い、学習を進める形式にする。そうすることで、生徒がどのようなイオンが原因で科学的現象が起きているのか考えられる。また、水溶液に流れる電流の大きさの違いや試薬の色の変化についても水溶液中にイオンの量や種類によって説明することができる。酸・アルカリの性質を表すものの正体を明らかにし、生徒の疑問を一つ一つ追究していきたい。

4 単元構想（次々ページに掲載）

5 本時の指導

(1) 目標

・酸とアルカリを中和させた際に水と塩ができるという考え方を生かして、白い物質が出てきた理由について説明できる。

(2) 準備

(教師) 単元マップ、ワークシート、電源装置、ビーカー、保護メガネ、導線、うすい硫酸、水酸化バリウム水溶液

(生徒) 教科書、ノート、筆記用具、イオン式の資料

(3) 展開

時刻	本時の課題	教師の発問・発言	生徒の思考	教師支援
14:15	硫酸と水酸化バリウム水溶液を混ぜると白い物質が出るのはなぜか？			<ul style="list-style-type: none"> 単元マップを用い、本時の位置付けを確認し、本時の流れ・目標を示す。 なぜ白い物質が出るのか考える資料にするために、今回使う水溶液のイオン式を確認する。 硫酸と水酸化バリウムが中和し、白い物質が出る様子を観察できるよう、実験の仕方を説明する。 着眼点：イオン式や中和の考え方を使う。 方向性：全員が白い物質が出てきた理由が分かるようにする。
	今回は皆さんの疑問に挙がっていた硫酸と水酸化バリウム水溶液を混ぜると白い物質が出るのはなぜか？を明らかにしていきます。まず、硫酸と水酸化バリウムは電離して、どのようなイオンになるかそれぞれイオン式をまとめましょう。			
14:20		・硫酸は水素イオンと硫酸イオン、水酸化バリウムはバリウムイオンと水酸化物イオンになるんだ。		
14:25			硫酸と水酸化バリウムの中和を行い、 <u>イオン式や教科書 P.185・186 に書かれている中和の考え方を生かして、なぜ白い物質が出てきたのか考えましょう。個人で学習した後、班で内容を共有し、班のみんなが分かるように結論をホワイトボードにまとめてください。この後、<u>班の考えを全体で伝え合い、クラスみんなが白い物質が出てきた理由を分かるようにしたい</u>と思います。</u>	

14 : 45	<ul style="list-style-type: none"> ・中和すると水ができるから残ったイオンを合わせると硫酸バリウムができる。白い物質は硫酸バリウムだと考えることができる。 ・中和でできるのは水と塩だから白い物質は塩だと思う。硫酸イオンとバリウムイオンが結びついたんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が責任をもって参加できるよう準備係、司会係、記録係、発表係の4つを設定する。
	<p>それでは、班の考えを伝え合います。全体の発表後、自分の班の考えはどうであったか、班ごとで再度話し合う時間を設けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が白い物質が出た理由について理解できるよう、班の考えを全体に伝えたあと、再度班で話し合う時間を設ける。
15 : 00	<ul style="list-style-type: none"> ・中和で水と塩ができ、今回のイオンだと硫酸イオンとバリウムイオンが結び付いて硫酸バリウムという塩ができますが、硫酸バリウムは水に溶けにくいので白い物質となって出てきたと考えることができます。 <p>今日の収穫には、白い物質が出てきた理由について学んだことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水ができる他に、硫酸イオンとバリウムイオンで硫酸バリウムという物質ができることが分かり、それが白い物質の正体であると分かったのがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを確かなものにするため、新たに理解したことや班内で出た疑問を共有する。 ・白い物質が出るのはなぜかという本時の課題に対して考えをまとめられるよう、学んだことを書くよう伝える。

(4) 評価<A 基準>

- ・酸とアルカリを中和させた際に、水と塩ができるという考え方を生かし、水溶液中に存在するイオンを組み合わせると白い物質が出てきた理由を説明できた。

単元構想 (9 時間完了本時 7/9)

課題 予想される生徒の思考

単元を終えた生徒の思考

【仮説 1 の手だて】

①酸・アルカリとイオンの関係性を意識できるよう、電解質水溶液の性質を確かめる実験をする。(1-1)

①単元を貫く課題への意識が持続するよう、振り返りの際にイオンや酸・アルカリに関連する内容を記述するよう促す。(1-1)

②～⑨単元を貫く課題を常に意識できるよう、毎時間、授業の始めに「単元マップ」を使用し、本時の位置付けを確認する。(1-2)

②～⑨話し合いを行う際には、「イオンをもとに考える」という視点を確認し、意識付けをする。(1-2)

⑨全員が単元を貫く課題を達成し、満足感や充実感が味わるように、単元マップに単元全体の振り返りを書く欄を用意する。(1-2)

①②電解質水溶液にはどのような性質があるか？

- ・酸とアルカリを混ぜると量によって BTB 液の色が変わった。なぜ変化するのだろうか？
- ・電解質はイオンになるけど、酸やアルカリと何か関係がありそうだな。

③酸性を表しているものは何か？

- ・電流を流すとリトマス紙の赤色が陰極側に移動したから H^+ が酸の性質を表しているんだ。

④アルカリ性を表しているものは何か？

- ・電流を流すとリトマス紙の色が陽極側に移動したから OH^- がアルカリの性質を表しているんだ。

⑤⑥酸とアルカリを混ぜると、水溶液の性質が変化するのはなぜか？

- ・酸の性質を表している H^+ イオンとアルカリの性質を表している OH^- イオンが水分子になり、中性になるんだ。

⑦硫酸と水酸化バリウム水溶液を混ぜると白い物質が出るのはなぜか？(本時)

- ・この 2 つの溶液も H^+ イオンと OH^- イオンで水ができることが分かったし、残ったものが塩として出ることも分かった。

⑧中和すると電流が流れなくなるのはなぜ？

- ・電子を受け渡すイオンが中和してなくなるからだと分かった。

⑨試薬の色が変わるのはなぜ？

- ・水溶液中のイオンに反応して、変わっていることが分かった。

酸性・アルカリ性・中性、3つの性質と試薬の性質を知ろう！
イオンの考え方を使って！

【仮説 2・仮説 3 の手だて】

③～⑨授業の見通しがもてるよう、ワークシートに課題と本時の流れを提示し、本時の活動内容を確認する。(2-1)

③～⑨教科書・資料集を考える手立てとして毎回提示し、生徒が活用して問題解決できるようにする。(2-1)

③・④どのイオンが原因で性質が現れているか考えられるように塩酸・水酸化ナトリウムのイオン式を教科書で示す。(2-1)

⑤～⑦中和でどのイオンがくっつくのか考えられるように前単元で学習した電解質のイオン式を資料として提示する。(2-1)

②～⑨役割分担や手順の詳細を提示し、全員が話し合いに参加できるようにする。(3-1)
役割分担
準備・司会・記録・発表

1. 準備係が班で使う道具を用意する。
2. 司会係を中心に個人学習したことを説明する。
3. 班で考えたことを記録係が記入する。
4. 発表係が他の班へ説明できるように説明の方法をみんなで確認する。

②～⑨話し合いの着眼点・方向性が見えるよう話し合いの前に必ず説明を行う。(3-2, 3-3)

酸・アルカリは水溶液に溶けているイオンによって変わるということを実験から明らかにすることができた。酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜた際に中性になるのは、酸の性質を表している H^+ イオンとアルカリの性質を表している OH^- イオンが反応して水分子になり、酸・アルカリの性質を失うからだと分かった。だから BTB 液を加えた水溶液の色が変わることも明らかになった。

単元マップ		今日の収穫	コメント
①	酸性を表すものは何か？		
3つの性質と試薬の性質を知ろう！ イオンの考え方を使得って	②	アルカリ性を表すものは何か？	
	③	酸とアルカリを混ぜると、水溶液の性質が変化するのなぜか？	
	④	酸とアルカリを混ぜると、水溶液の性質が変化するのなぜか？	
	⑤	硫酸と水酸化バリウム水溶液を混ぜると白い物質が出るのなぜか？	
	⑥	電解質水溶液に電流を流すと、電流の大きさが変化するのなぜか？	
	⑦	試薬の色が変わるのはなぜか？	

課題：

課題①今回実験に使う硫酸と水酸化バリウム水溶液のイオン式を書き、水溶液に存在するイオンを確認しましょう。

硫酸	
水酸化バリウム 水溶液	

課題②電流を流しながら、水酸化バリウム水溶液に硫酸を1滴ずつ垂らし、中和を行います。硫酸の滴数と電流の大きさの変化をグラフに記入しましょう。今回は電流が流れなくなったところで中和が終了し、中性となります。電流が0になる瞬間を見逃さないよう気を付けましょう。

オススメの係分担	電極をもつ係・かき混ぜる係・硫酸を垂らす係・電流の大きさを記録する係
----------	------------------------------------

課題③硫酸と水酸化バリウム水溶液を混ぜると白い物質が出る理由を個人で考えましょう。その後、班で共有し、その理由を班のみんなが分かるようにしましょう。着眼点：水溶液中に存在するイオン、中和の考え方 資料：教科書P185,186 イオン式

個人の考え	友達の考え・新たに得たこと（メモ）
-------	-------------------

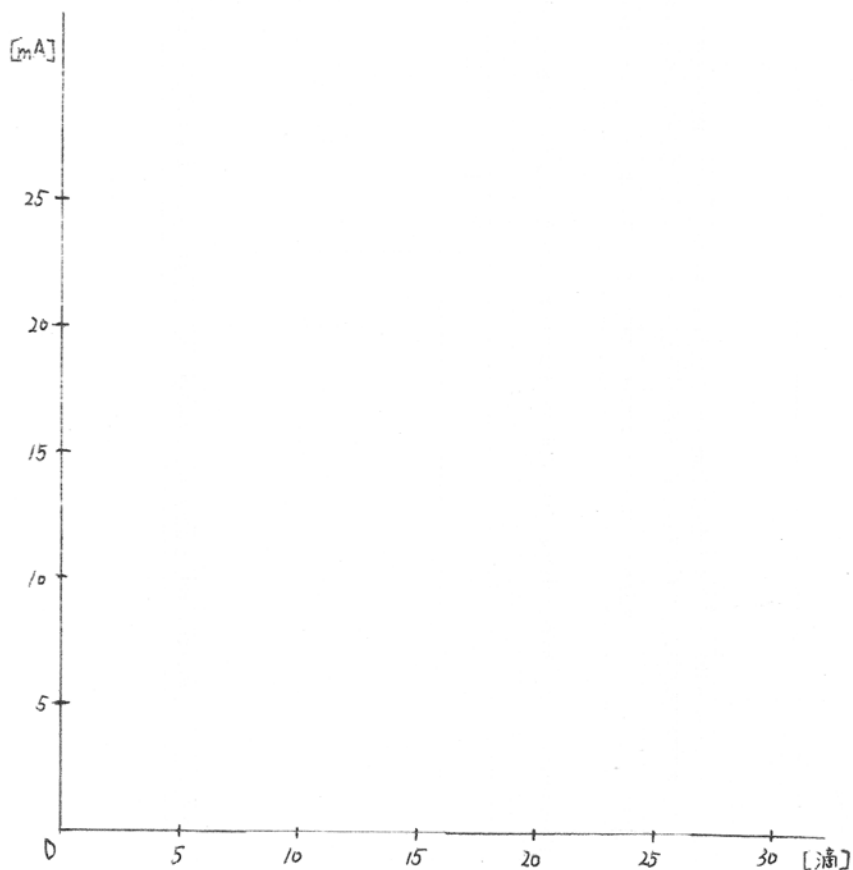
課題④それぞれの班のまとめを聞き、新たに獲得したことや疑問に思うことがあったら書きましょう。その後、司会係を中心に班で共有しましょう。

メモ	
----	--

硫酸と水酸化バリウム水溶液の中和

電流の大きさの変化のグラフ

班



II 2019年—2020年 研修会資料

2019 年度 第 1 回研修会

- 1 日程
- 2 2019 年度研究推進の計画
- 3 講義レジメ

1 日程

2019年5月7日

講義 13:20~14:50

講師 杉江修治

演題 「自ら学ぶ生徒の育成」

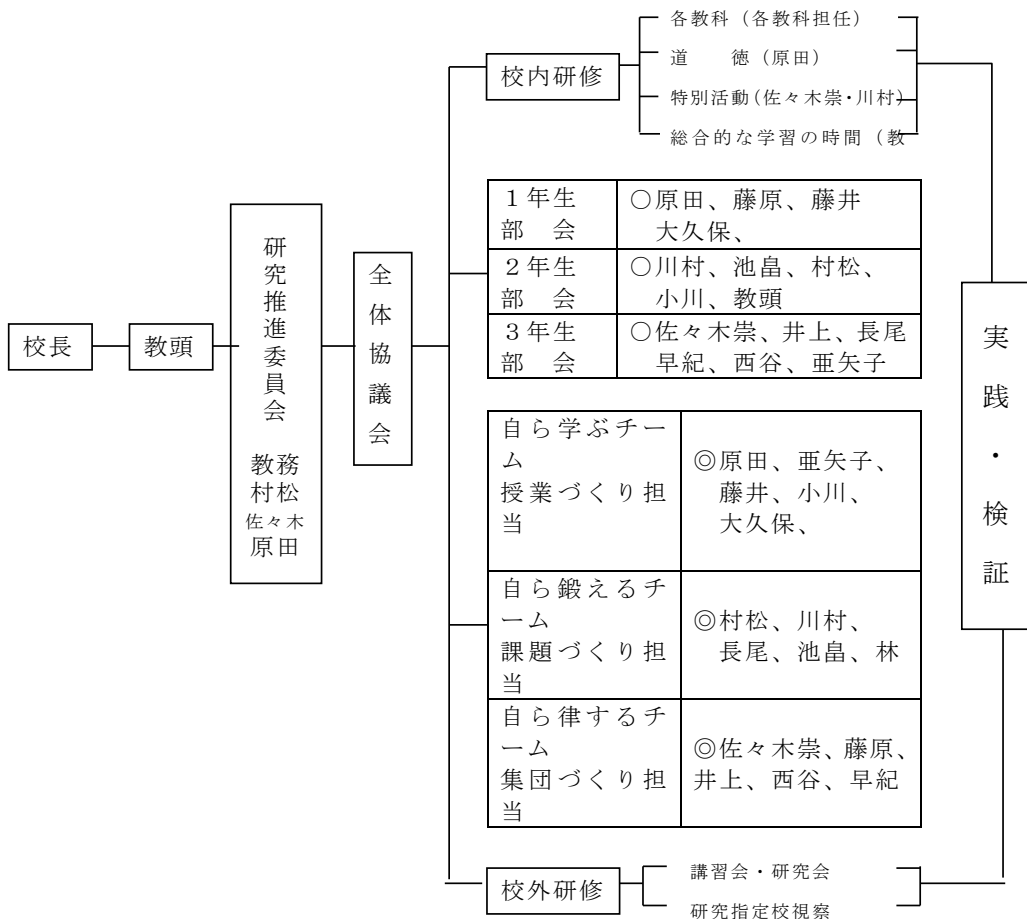
2 2019年度研究推進の計画

本年度の方針

①「課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成」を研究主題とし、生徒が学習活動を通して自己肯定感を高め、目標や方法を明確に意識しながら学習に取り組めるような支援のあり方を明らかにする。

②研究主題をよりどころにし、各教科等の実践を検証的に進める。抽出生徒を学年部会で協議して選出し、指導案の検討、授業記録の分析を通して指導方法や指導体制の改善に努める。

研究組織



本年度の研究について

(1) 研究主題

「課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成

～集団づくり、課題づくり、授業づくりを柱にした協同学習を通して～

※協同学習（生徒全員が、目的を理解し学びを共有する、メンバー全体が高まる学習）

(2) 主題設定の理由

①生徒の実態から

本校の生徒は、明るく、素直である。言われたことをきちんとこなし、真面目に取り組むことができる。また、友達のことを考えて行動している優しさがみられる。それは、本校生徒が小学校の時に学区の児童としてそれぞれの地域の方に大切に育てられ、愛されてきたからと考える。

一方で生徒一人一人を見ていると、自分で考えることなく、他から言われて行動したり、何をすればよいのか決められずに困っていたりする姿を見かける。また、自分の意見をもつていてもなかなか意見を述べないこともある。その理由として、自分の意見に自信がもてなかったり、他人の目が気になり、言い出しにくい集団の雰囲気があると感じたりすることが考えられる。しかし、そもそも考えが思いつかず意見をもてない場合もある。物事に対して自分で考え解決しようとする力、自ら考えを相手に伝える力を育む必要性を感じる。

②昨年度の課題から

平成 30 年度までの研究主題を「できたを実感する生徒の育成」として実践してきた。この年度末に 3 年生を対象に、どのような授業が印象に残ったり、活躍できたりしたか調査をしたところ、「できた」と実感できた授業、課題を解決するためにどのようにすればよいのか考えた授業、体験や実験を行った授業が印象に残っていると答えた。一方で、仲間と共に協力して学習したり、グループやペアで活動する良さをあげたりする生徒は少なかった。これは、生徒が仲間と関わる場面が少ない授業を行ったり、仲間と関わっていてもその良さを感じられない授業展開をしたりしたからだと考えられる。また、目標を明確につかんでも、学習過程で目標を意識するような活動とつながっていないため、振り返りの段階で改めて生徒が目標を見直すことがあった。このことから、学習過程における 1 時間の流れが曖昧であること、課題設定が真の意味で生徒の実態に即したものではなかったと考えられる。平成 30 年度までの研究の成果を踏まえ、仲間と共に課題を解決する授業を再構築する必要性を感じた。

③本校の伝統から

設楽中学校は開校以来、校則といわれるものを明記していない。その代わりに「生徒憲章」がある。開校当初の生徒たちが掲げたものである。生徒は、毎年生徒憲章をもとに各学年の目標に照らして生活している。判断は個人に委ねられているが、中学生らしい身なりや態度で生活している。また、部活動や運動会などを通して下級生は先輩から学び、先輩にあこがれを抱いている。先輩が作った伝統を守っていこう、引き継いでいこうという意識は高い。このような伝統を踏まえ、設楽中生がもつ本来の自主的な力を引き出すような場の設定:教師支援を行っていけば、生徒は自主的に学ぼうとするのではないかと考えた。

④協同学習を取り入れて

協同学習とは、「生徒全員が、目的を理解して学びを共有し、全体が高まることを目標とする

学習」である。一人で学習するより、教え合い、学び合うことで 相互に深まるものにとらえる。仲間と共に意見を交わすことで多様な情報を得ることができ、考えを深め、よりよい解決に至る可能性が増すと期待されている。協同学習では、仲間に依存するのではなく、一人一人が仲間の役に立つ、そして仲間の学びが自分の役に立つという考えのもとに学習に参加をすることを前提としている。そのため、協同学習は、「学習者一人一人を強くすること」が目標と言われている。協同学習を取り入れることで、自ら学ぶ生徒を育成できるのではないかと考えた。

(3) 研究の仮説

仮説 1 <課題設定>

生徒が仲間と共に追究 したいと感じられる課題(単元や授業を貫く課題)を設定し、意識をつなげるための支援をすれば、学習に対して主体的に取り組むようになり、生徒は自ら課題を解決していこうとするだろう。

仮説 1 に対する手立て

①多面的な視点もてる素材や自分の日常と結び付く素材、生徒が学んだことを生かせる素材等を教材として取り入れて、単元を貫く課題を設定する。

②単元を貫く課題を常に意識できるよう、教師は意識をつなげるための教師支援がかかれた単元構想図を作成し、単元導入時に生徒と共に「単元マップ」を作成する。

③生徒が「仲間と共にできた、分かった」と所属感・達成感を感じながら学習に取り組めるよう、課題の達成度合いが分かる振り返りを設定する。

仮説 2 <個人思考>

教師が事前に資料を用意し、生徒に自分の考えをもつ時間を保証した上で、課題に迫る方法や、活動の仕方を提示し、生徒に授業の見通しをもたせれば、自らの考えを構築するようになるだろう。

仮説 2 に対する手立て

①課題に迫れたり、問題提起につながったりするような適切な資料を用意する。

②生徒が授業の見通しをもてるよう、課題や活動の方法を表示したり、図で説明したりする。

③生徒が自分の考えを構築するよう、状況に応じた個人思考の時間を設定する。

仮説 3 <話し合い>

生徒が仲間と共に多様な考えを引き出せるような話し合いの手法や進め方の手順を示せば、全員が責任をもつて話し合いに参加することができ、思考を深められるようになるだろう。

仮説 3 に対する手立て

①全員が話し合いに参加できるようになるために個人の役割分担を明確にしたり、話し合いの進め方の手順を示したりする。

②話し合いで生徒の思考を深めるために、話し合いの着眼点や方向性を示す。

(4) 研究の検証

- ・主題に迫るため、各学年部会で抽出生徒を協議して設定し、抽出生徒の変容を通して検証する。
- ・事前にアンケートを用意し、アンケート結果から変容をとらえる。

実践計画

- ・週案を活用し、普段からお互いの授業を参観し合い、日々実践的に活動する。
- ・学年会やプロジェクトチームを活用し、授業案の検討を行う。
- ・研究主題を踏まえ、各教員が研究プロットを作成し、各教科、道徳の時間、特別活動、総合的な学習の時間等において検証的に実践を進める。授業研究を行い、検証のための資料取りをする。

月	研修の内容	授業研究	総合・行事との関連等
4	<ul style="list-style-type: none"> * 現職研修の方針・組織 本年度の計画の検討 * 指導案の形式を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 全体授業研究の授業提案(教務) ※ 授業提案講師・教諭も同形式で提案(部会) 	本年度の実施計画の立案
5	<ul style="list-style-type: none"> * 個人研究プロット作成 (教科指導を中心に) * 授業記録の分析と整理 * 学校訪問公開授業の指導計画と指導案の検討 	<ul style="list-style-type: none"> * 提案授業(5/14 亜矢子) * 校内授業研究 本時案 (~6月) 学校訪問に向けての授業研究。学校訪問時と同じ単元で行う。* 初任研授業研(池島・長尾) 	1年生オリエンテーション学習 2年生国内研修 3年生海外派遣事業 個人研修テーマの設定
6	<ul style="list-style-type: none"> * 授業記録の分析と整理 * 学校訪問公開授業の指導案完成(6/1) * AED心肺蘇生法講習 	<ul style="list-style-type: none"> * 講師招聘授業 (プロジェクトごとに) 授業づくり担当 藤井優香 課題づくり担当 川村紘也 	学校訪問(6/10(月))
7	<ul style="list-style-type: none"> * プロジェクトの反省と2学期の方針の話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> 集団づくり担当 佐々木崇光 	夏休み中の活動準備、渉外活動
8	<ul style="list-style-type: none"> * 発達障害についての講義と学年部ミーティング(講師:SC) * 現職教育の研究の検証 研究の内容に対して2学期の指導案づくり(担当ごと) 		1年生: サマーセミナー : 名人に学ぶ 2年生: 職場体験 3年生: 高校体験入学 活動の記録、お礼状の作成指導
9	<ul style="list-style-type: none"> * 授業研究と記録の分析 	<ul style="list-style-type: none"> * 初任研授業(池島) 	総合: 報告書の作成及び発表会の準備

10	* 授業研究と記録の分析		
11	* 教育研究論文執筆 (11月初旬提出) * 感染症対策	* 設楽町現職研修授業研究 (村松)	総合の発表会(学校祭 11/23)
12	* 研究実践のまとめ * プロジェクトの反省と2 学期の方針の話し合い	* 初任研授業(長尾)	卒業関係行事の運営計画
1	* 研究実践のまとめ製本 * 本年度の研究の成果と課 題の洗い出し	* 初任研授業研(池島)	卒業関係行事の諸活動
2	* 学力検査の結果分析 * 次年度の計画立案	* 初任研授業研(長尾)	生徒憲章の振り返りと引 継ぎ
3	* 次年度の計画立案		総合、行事等の見直し

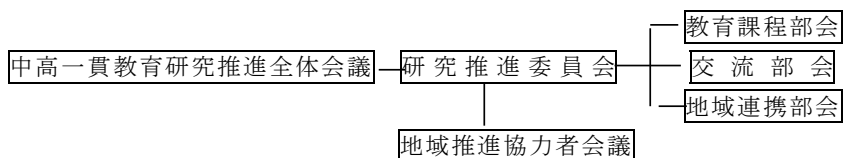
その他(参考事項)

(1)本校の研究歴

年度	研究委嘱等	研究主題	研究資料・受賞等
22		明日を拓く確かな学び －思考力、判断力、表現力を伸ばす支援(学 習面) －生命の尊さを実感し、よりよく生きようと する生徒の育成(心の教育の面)	実践のまとめ発刊
23		確かな学力を高める授業づくり －学び合い、関わり合う言語活動を通して－	実践のまとめ発刊
24		確かな学力を高める授業づくり －学び合う活動の場を大切に－	実践のまとめ発刊
25		確かな学力を高める授業づくり －学び合う活動を支える教師支援のあり方－	実践のまとめ発刊
26	人権教育 (県26・27)	互いの思いや考えを大切にする学び合いを通 して、生きる力を高め合う生徒の育成	実践のまとめ・研究のま とめ(1年次)発刊
27	人権教育 (県26・27)	互いを尊重し、学び合いを通して高め合う生 徒の育成	実践のまとめ・研究のま とめ(2年次)発刊
28～ 30		「できた」を実感する生徒の育成	実践のまとめ発刊
31	事務協研究委 嘱 1年時	課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成 ～集団づくり、課題づくり、 授業づくりを柱にした協同学習を通して～	実践のまとめ発刊

(2) 中高一貫教育推進校としての実践研究計画

○研究組織



○実践研究推進の概要

- ・ 英語、数学における中高教員による連携指導
- ・ 連携校合同（津具中、東栄中、豊根中）のサマーセミナーによる社会性の醸成
- ・ 総合的な学習の時間「ふるさと学習」を中心にした地域教材の開発
- ・ 部活動や生徒会活動、文化的作品における交流の促進
- ・ 「進路カルテ」「学力調査」を活用し、中高連携を見通した進路指導
- ・ 地域への情報の発信による地域の理解と協力の促進

自ら学ぶ生徒の育成

設楽町立設楽中学校校内研修会
2019年5月7日
杉江修治

内容

- 1 学びのマップづくり
自主・自律の学びのために
- 2 協同の仕掛けづくり
豊かな同時学習の達成のために
- 3 DVD視聴と交流
意欲的な活動を生む授業設計に向けて

0 授業改善に向かう課題意識

出発点としての「めざす生徒像」

自主・自律の力

共生社会を創る民主的態度

確かで幅広い知的習得

- この目標達成が可能な授業であるか、という実践評価の基点の共有
- 授業におけるセレモニー一点検の必要性

セレモニーの事例

漫然と教科書を読ませる

前時の簡単な振り返りの発問

一部の生徒と教師の間答(つぶやきを拾う?)

只乗りを許しているグループ活動

一人の考えをグループの意見として出させる

板書をきれいに写す

教師が最後にまとめをして終わる授業 ……

主体的・対話的で深い学びの実現
 (「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善) について (イメージ)

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、興味・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること

主体的な学び

【例】
 ・学ぶことに興味や関心をもち、期待感、精通しきを得るために深く取り組みたり、自ら学ぶ意をもち、「キャリア」・「アドバンスト」などを活用し、自らの学習成果を振り返り評価したりする。

対話的な学び

【例】
 ・自ら学ぶ意をもち、他者・仲間と対話しながら学び、自らの考えを伝え、相手の考えを聞き取り、対話を通して学びの深まりや理解の促進を図る。

**主体的な学び
対話的な学び**

深い学び

【例】
 ・学ぶことに興味や関心をもち、期待感、精通しきを得るために深く取り組みたり、自ら学ぶ意をもち、「キャリア」・「アドバンスト」などを活用し、自らの学習成果を振り返り評価したりする。

対話的な学び

【例】
 ・自ら学ぶ意をもち、他者・仲間と対話しながら学び、自らの考えを伝え、相手の考えを聞き取り、対話を通して学びの深まりや理解の促進を図る。

【主体的な学び】
 学ぶことに興味や関心をもち、期待感、精通しきを得るために深く取り組みたり、自ら学ぶ意をもち、「キャリア」・「アドバンスト」などを活用し、自らの学習成果を振り返り評価したりする。

【対話的な学び】
 自ら学ぶ意をもち、他者・仲間と対話しながら学び、自らの考えを伝え、相手の考えを聞き取り、対話を通して学びの深まりや理解の促進を図る。

【深い学び】
 学ぶことに興味や関心をもち、期待感、精通しきを得るために深く取り組みたり、自ら学ぶ意をもち、「キャリア」・「アドバンスト」などを活用し、自らの学習成果を振り返り評価したりする。

【対話的な学び】
 自ら学ぶ意をもち、他者・仲間と対話しながら学び、自らの考えを伝え、相手の考えを聞き取り、対話を通して学びの深まりや理解の促進を図る。

主体的な学びを作る条件

生徒に学び取ろうとする構えがあるかどうかが鍵である。
 アクティブな学びは生徒を動かすことではない。
 「学びは我が事」として「学び取ろうとする構え」を持たせているかどうかだ。
 「学び取ろう」という構えの背景には学習における成功体験がある。
 成功体験を重ねることによって生まれる自己肯定感がある。

生徒理解

- ・生徒は誰でも自分自身の成長を願っている。
- ・生徒は誰でも他者と良い関係を築きたいと思っている。
- ・生徒は挑戦が好きだ。

こういった生徒の本性が発揮できる学習環境を用意することが大事である。
 同じ結果でも成功体験となる生徒自身の自己評価の物差しを考えたい。
 「勝った一負け」「できた一できなかった」→「進歩した」「わかった」
 (相対評価) (個人内評価)

1 学びのマップづくり

…自主・自律の学びを促す工夫

生徒一人ひとりに学びのマップを持たせて学習に
 入る。

マップの中身3点

- ① 学習内容(学習課題)
- ② 学習の筋道
- ③ 学習の値打ち

(1) 学習課題とは

指導目標から学習目標へ、さらに学習課題へ

- ・指導目標: 寛政の改革の意義を理解させる
- ・学習目標: 寛政の改革の意義を理解する
- ・学習課題: 寛政の改革の改革の自身とその意義を自分の言葉で説明できる

課題のないところに学習は存在しない

(2) よい学習課題の条件

明確であること

- ×…を学ぼう、考えよう
- △…をしよう(活動の明確化)
- …ができるようになろう(ゴールの明確化)

教師のねらいがそのまま生徒に届く表現
授業の最後の確認で用いる表現としても使える表現かどうか

(3) 「本時」の導入

マップは導入で与える

- ① 課題の明示
- ② 学習の筋道の提示
- ③ 課題の値打ちの説明

端折らない(時間を惜しまない)ことが必要

(4) 「単元」の導入

単元第1時は、「単元のマップ」を示すとき
(単元見通し方式)

- ① 単元課題と毎時間の課題を明示する
- ② 単元の学びの値打ちを解説する
- ③ 単元の学習の手順を解説する

端折らない(時間を惜しまない)ことが必要

(5) 振り返りの実施

本時、単元の学習の確かな「振り返り」

(形成的評価)

- ・生徒自身が自己評価する機会の設定
 - …学習の区切りごとに行う
 - …相互評価による自己評価力の育成
 - …教師が与える振り返りの視点が、学習観を変えらる
- ・仲間の貢献、仲間の良さへの振り返りは学級づくりに有意義である

2 協同の仕掛けづくり

○グループ学習が協同学習ではない

一斉形態の協同学習、個別の協同学習もある

○協同 (Cooperation) の意味とは

○協同学習の意義

- ①効果の面から
- ②集団観について：課題解決志向集団

(1) 信頼に支えられた学級集団づくり

学級経営の核に協同の学びを置く

- ・クラス課題の設定と一貫した取り組み
 - …共に育つ、共に伸びる
- ・協同的な課題の設定
 - …学び合いの機会づくり
- ・集団活動の振り返り
 - …仲間のよさの確認
- ・座席配置への配慮
 - …一体感のある配置

(2)-1 集団課題の明示 ーグループへの課題

グループへの課題の明示の条件

グループが示すべき「成果」の形が生徒にわかる表現をする

×グループで話し合いなさい

×グループで取り組もう

○グループの答を一つ作り出さない。後で発表してもらいます。

○グループの誰が指名されても説明できるようにしなさい

(2)-2 集団課題の明示 ークラスの課題

クラス課題の提示

…クラス全体として何をめざすかの明示

例) この問題の内、第1問と2問は少なくとも誰でも説明できるようになること。

例) この課題について、クラスの全員が自分なりの意見をワークシートにしっかりと書けること。

例) この単元の最後のテストで、昨年の同じ学年の平均点よりいい点を取ろう。

(3)-1 話し合いを促す工夫

- ・課題(話題)の明確化
- ・個人思考との組み合わせ(思考を可能にする仕込みを行うこと)
- ・話し合いの手順を指示する
 - ・交互に発言する
 - ・司会者から右回りに一通り意見を言ってから自由に話し合う等々
- ・話し合う場面づくり(対面で座らせる)
- ・教師の立ち位置、関わり方
- ・全体交流の工夫(参加度を高める)

(3)-2 話し合いを促す工夫 …集団編成

- ・適正な人数
- ・成員の特性の組み合わせ
- ・役割の持たせ方

小規模校の課題

教師の手と目が行き届きすぎる⇒受け身学習を助長

9年間を見通した子どもの育ち、とくに小中連携が必要。5、6年生で「自立」を目標に入れ込むこと

- いかに教師との問答を減らすか
- 子どもの学習活動を保障するか
- 授業中に教師を呼ばせない授業
- もっと教科書を活用する

授業における教師の役割

- 教師は学びのコーディネーター、仕掛けづくりが仕事
- 生徒への高い期待の必要性
- 生徒に届く指示、発問が必要

生徒の学びが中心の授業、生徒は誰もが伸びがっている、生徒は素晴らしい力を備えている、生徒には話し合う力がすでにある…これらをしっかりと捉え返した実践が必要

文献

- ・ 杉江修治 (編著) 2003 子どもの学びを育てる少人数授業 明治図書.
- ・ 杉江修治 2011 協同学習入門 ナカニシヤ出版.
- ・ 杉江修治 2016 協同学習が創るアクティブラーニング 明治図書
- ・ 杉江修治・水谷茂 (編著) 2017 教師の協同を創る校内研修 ナカニシヤ出版
- ・ 杉江修治・石田裕久 (編著) 2018 教師の協同を創るスクールリーダーシップ ナカニシヤ出版
- ・ 日本協同教育学会 (編) 2019 日本の協同学習 ナカニシヤ出版 (印刷中)
- ・ ジョンソン・ジョンソン・ホルベック 2010 学習の輪 二瓶社.
- ・ ジェイコブス・バワー・イン 2005 先生のためのアイデアブック ナカニシヤ出版

協同学習の実践資料

協同教育実践資料1～23

日本協同教育学会HPの「出版物案内」から引き出し可能

<http://jasce.jp/105/shuppan.html>

DVD視聴 学級の協同実践

一斉形態の協同学習：中学校社会科公民分野の実践

視聴の視点

- ① 学級の雰囲気
- ② 生徒の学習参加
- ③ 学び合いの姿
- ④ 教師の指導行動
- ⑤ その他

2019 年度 第 2 回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業
- 3 講義レジメ

1 日程

2019年6月11日

11:35～12:25 研究授業

13:20～14:00 研究協議

14:05～15:00 講義・講評

2 研究授業 第2学年 数学

単元名 生活の中の連立方程式～連立方程式を活用した課題解決～

単元の目標

- ・連立二元一次方程式の必要性を感じ、活用しようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・具体的な場面で、連立二元一次方程式を活用し、問題を解くことができる。
(数学的な見方・考え方)
- ・加減法や代入法で連立二元一次方程式を解くことができる。 (表現・処理)
- ・二元一次方程式とその解の意味を理解する。 (知識・理解)

単元について

(1) 生徒の実態 (男子10名 女子11名 計21名)

本学級の生徒は授業に集中して取り組んでおり、話をしっかりと聞くことができる。生徒同士の仲はよく、生徒同士で積極的に関わり合うことができる。その一方で、関わり合いの際は答えの確認で終わってしまったり、計算式のどこが違うのかを伝えるだけになってしまったりして、正しい考え方に基づいて説明している様子はあまり見られない。また、数学と日常生活を結び付けて考えられず、数学を学ぶよさについて実感ができていない。

この単元を通して、話し合うことのよさや価値を実感させ、話し合おうとする意欲をもたせたい。また、お互いの考えを比較し、よりよい解き方を考えさせることで、数学的なよさに気づかせ、日常生活で数学を活用しようとする意欲をもたせたい。

(2) 教材について

本単元では、二元一次連立方程式を解くことができるよう、加減法と代入法の解き方を学習する。どちらの解き方も、文字を消去して、既習事項の一次方程式の考え方に帰着させることが重要である。次の単元の一次関数でも、二直線の交点座標を求める際に連立方程式を解く力が求められるため、正確に解ける力を身に付けさせたい。また、二つの解き方を使い分ける際、それぞれのよさやどちらを使うかの判断方法を話し合うことで、見通しをもって解き方を選択できる深い学びを促したい。

解く力を身に付けた後に、学習したことを実生活に活用し、主体的に学ぼうとする意欲をもたせるため、連立方程式の活用場面を考えさせ、実際に問題を作らせる。そして、お互いに作った問題を解き合うことで、様々な活用場面があることに気づかせ、連立方程式を学習することの価値に目を向けさせたい。

単元をつらぬく課題 「連立方程式を解く力を身に付け、実生活で活用しよう」

単元構想図(次ページに掲載)

本時の指導 (6/14時)

(1)目標 「加減法と代入法の使い分け方とその理由について説明することができる」

(数学的な見方・考え方)

(2)展開

時間	○学習活動	目標・発問	補助発	教師支援
		予想される生徒の反		
10	<p>次の連立方程式を解いてみよう。</p> $\textcircled{1} \begin{cases} 3x - y = -5 \\ x + y = 7 \end{cases} \quad \textcircled{2} \begin{cases} 15x + 8y = 61 \\ y = x - 1 \end{cases} \quad \textcircled{3} \begin{cases} 3y = 2x \\ x + 3y = 12 \end{cases}$			<ul style="list-style-type: none"> ・1問につき、加減法と代入法の2通りで解かせ、各問題で解きやすい方を実感させる。 ・悩んでいる生徒には、まず自分が解きやすいと感じる方法から解くように促す。後に、もう一つの方法も確認する。
15	<p>加減法と代入法をどんな時に使うのか、班で考えをまとめよう。</p> <p>○班で、どんな時に加減法と代入法を使うのか話し合い、考えをまとめる。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・困っている生徒には、3つの方程式の特徴を確認させ、「～が～だから」と話型を使って考えるように促す。 ・話し合いの目標を、「理由をつけて、説明する」と明確にすることで、生徒に目的意識をもたせる。 ・班の全員が共通理解するよう、発表者はランダムにあてることを伝える。 ・班で1問につき1枚ずつ、ホワイトボードに意見をまとめさせる。 ・共通点を意識させながら、班から出された意見の共有化を図る。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① は係数がそろっているし、左辺に文字が集まっているから加減法を使う方が楽だよ。</p> <p>② は下の式が、「y=」の形になっているから、代入法の方が手間がかからない。</p> <p>③ は両辺に文字があって、yの係数が同じだから、代入法を使えばすぐに文字を消去できる。</p> <p>・全部、加減法で解けるけど、代入法を使う方が楽になる場合もあるみたいだ。</p> </div> <p>○班でまとめた意見を全体で共有する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・班の全員が同じ解になることを確認させ、全員が解くことができるように促す。
10	○練習問題に取り組む。			<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを元にどちらの方法を使うとよいか考え、効率よく解くよう声をかける。
10				
5	○わかったことや気づいた、感じたことを振り返りに書く。			

(4)評価 (A基準)

加減法と代入法の使い分け方を説明し、見通しをもって二つの解き方を使い分けながら連立方程式を解くことができる。

連立方程式とその解の意味を理解しよう。①

・一次方程式よりも文字の種類が多いね
 ・日常生活で使える場面があるんだね
 ・まずは連立方程式を解けるようになりたいな
 ・日常生活に役立つのかな？

加減法や代入法で連立方程式を解こう。
 ② ③ ④ ⑤ 「教え合い」

・算数の方法で解ける問題もあるけど、それだけだと解けない問題もあるんだな
 ・文字を消去すれば、去年学んだ一次方程式と同じように解けるね
 ・加減法と代入法、なぜ2つの解き方を学ぶのだろう？

複雑な方程式を解こう⑦⑧⑨「教え合

・分数や小数がある問題も考えられるよ
 ・複雑な問題も、今まで解いてきた問題と同じような式に変形すれば解けるよ
 ・分数や小数があっても解けるようになったよ
 ・いろんな問題を解いてみたいな

加減法と代入法をどんな場合に使い分け
 るか、判断の仕方をまとめよう⑥ 「話し合い」

・2つの解き方を上手に使い分けられれば、問題が解きやすくなるね
 ・どちらの解き方も使える方が、活用する
 きも役立ちそうだ

個数の問題を解こう。⑩

代金の問題を解こう。⑪

割合の問題を解こう。⑫

速さの問題を解こう。⑬

・代金や個数の問題は、日常生活でも使えそうだぞ
 ・去年よりも複雑な速さの問題もとけるようになったね
 ・日常生活にも連立方程式を活用できる場面がありそうだ
 ・実際の生活なら、どんな場面で連立方程式が活用できるのだろう？

実生活で、連立方程式を活用する場面を考え、問題を作ろう ⑭

・学校に来る時の歩く時間とバスに乗ってる時間について、問題にしてみたよ
 ・設楽中の各部活の生徒数について問題を作ってみたよ
 ・連立方程式が解けると、日常生活で役に立つんだな

連立方程式が解けるようになったよ
 日常生活の問題を、連立方程式を活用して解決できるようになったよ

連立方程式を解く力を身に付け、実生活で活用しよう

・一次方程式と比較させることで、違いや共通点に注目させる。
 ・連立方程式の具体的な活用例を示し、日常生活で使えそうという意識をもたせる。

・文字を消去すれば、加減法でも代入法でも、既習事項の一次方程式の考え方が使えることを確認する。
 ・解き方を習得できるよう、途中の考えを丁寧に書くよう、指導する。
 ・加減法と代入法の使い分けの判断の仕方を話し合わせ、見通しをもって解けるようにする。
 ・日常生活では整数だけでなく、分数や小数などがあることを確認し、複雑な問題も取り組む必要性があることを意識させる。

・一次方程式で学んだ利用の仕方の手順を思い出させ、連立方程式も同様の手順で解けることをつかませる。
 ・解の吟味を行わせ、答えが適切かどうかの判断を常にするよう指導する。

・グループで作った問題をお互いに出し合わせ、様々な問題に触れる機会を設定する。

授業評価の視点

私の見方

視点

- 1 確かな学びをさせているか
- 2 豊かな同時学習を促しているか

授業設計

- ・学習ステップを大きくしているか
- ・情報を与える折には生徒による読み取りを多くさせているか
(教科書、資料を生徒自身が読む)
- ・単元単位での計画を児童生徒と共有しているか

導入

- 学びの構えを全員に持たせたか
(明確な課題・学びの流れ・学びの値打ち)
- ・児童生徒全員に届く表現か
 - ・授業全体にわたる情報を提供しているか
 - ・論理的か(首尾一貫しているか)
 - ・生徒にざわつきはないか(不安はないか)

学習指導過程（教師の行動）

- ・机間観察をしっかりとっているか
- ・机間指導は明確な意図をもってなされているのか
- ・自分自身の意味のない発言を抑えているか
- ・問答を多用していないか
- ・教科書を活用しているか

学習指導過程（児童生徒の行動）

- ・確かに授業に参加しているか
- ・グループやクラスに対する個人の責任意識を持っているか
- ・学習の遅速が目立たない活動になっているか
- ・必要に応じて自分の判断で教科書や資料を検討しているか
- ・教師に安易な質問をしていないか
- ・仲間に向かう発言を大事にしているか

グループ活用

- ・グループに明確な課題を示しているか
- ・机はきちんと整っているか
 - グループも一斉も、一体感のある配置か
- ・話し合いがうまく進められる仕掛けをしているか
 - 役割分担、話し合いの進め方の指示
- ・グループ間協同は可能か
- ・教師のグループへの介入は最小限に抑えられているか

学級づくりの同時達成

- ・学級全体の交流の工夫をしているか
 - お出かけバズ、ジグソー、スクランブル、など
- ・全体発表の形に工夫があるか
 - 聞く側にも課題意識を
- ・常に本時の課題は「クラスのだけれども・・・できる」というクラス課題に

振り返り

必要な振り返りを実施する

- ・ 学びの区切りでの振り返りは必須
生徒にも意義を知らせること
- ・ 自由記述の振り返りでは、何を振り返るのか
の指示をしているか
- ・ 時に応じて仲間の良さを振り返らせているか

2019 年度 第 3 回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業資料

1 日程

2019年7月9日

11:35～12:25 公開授業 音楽科

13:20～14:00 研究協議

14:25～15:00 講評

2 研究授業資料 第1学年音楽

題材 14人の曲が入ったオリジナルのアルバムを作ろう！～PCソフトを使った創作

目標

- ・創作に関心をもち、イメージを音楽で表現する学習に主体的に取り組もうとする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・音色やリズムなどの音楽を形づくっている要素について知覚し、イメージを創作表現する。
(音楽表現の創意工夫)
- ・音楽表現をするために必要な音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける(表現の技能)

題材について

(1) 生徒の実態 (男子9名 女子5名 計14名)

本学級の生徒は、音楽の授業に意欲的に取り組む。鑑賞活動では、音楽を形づくっている要素に注目して複数の映画音楽を聴き、それぞれの特徴を理解して全員が何度も発言した。歌唱活動では、声を出すことに抵抗感をもたず練習に取り組む姿がみられた。また、学級活動においては、一人一人が責任をもって役割を果たそうとする姿や、周りに協力しようとする姿が見られ、学級全体の雰囲気はよい。

事前に行ったアンケートでは、「旋律を作ることが好きですか」という問いに対し、9名の生徒が「嫌い」「少し嫌い」「分からない」と答えた。その理由は、「下手だから」「音楽に詳しくないから」「やったことがないから」である。また、「旋律を作るとは得意ですか」という問いに対し、11名の生徒が「あまり得意ではない」「不得意」「分からない」と答えた。このアンケートから創作活動の経験が少なく、抵抗感を抱く生徒が多いことが分かった。よって本題材を通して、生徒に創作の楽しさを実感させ、音楽に親しむ生徒を育成したい。

(2) 教材について

学習指導要領に教科の目標として、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情をはぐくみとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんで行く態度を養い、豊かな情操を養う」と記されている

本単元は、創作活動を題材として授業を展開する。本題材では、誰でも創作ができるよう、黒鍵の5つの音で構成されたメジャーペンタトニックスケールを活用する。このスケールの利点は「恋」や「つけまつける」、「シェイクイットオフ」といった身近な音楽に使われている音階であることと、どのような音の動きにしてもまとまりのある曲になることである。

また、本題材は「MuseScore」という楽譜作成ソフトを活用し、パソコンで創作を行う。このソフトは、入力が簡単でありながら、音色やアーティキュレーションの強弱など細かな設定を

することができ、実際に演奏できないような表現も可能である。以上のことから、今回の題材は、生徒にとって親しみやすく扱いやすいものになっているといえる。そして、この活動を通じて学習指導要領に示されるような音楽に親しみ、音楽活動を楽しむ生徒を育成していきたい

単元を貫く課題

14人の曲が入ったオリジナルのアルバムを作ろう！～PCソフトを使った創作～

単元構想図（次々ページに掲載）

本時の指導

(1) 目標 友達のよい点を真似したり、アドバイスしてもらった点を修正したりして、よりよい音楽を創作しようと活動に取り組むことができる。

(2) 準備

(教師)単元マップ、ホワイトボード、ペン、音楽を形づくっている要素一覧表

(生徒)筆記用具、バインダー、音楽ファイル

(3) 展開

時刻	○学習活動	目標・主発問	補助発問	生徒の反応	教師支援
11:35	○本時の目標を確認する。 話し合いで見つけた課題をもとに創作しよう。				<ul style="list-style-type: none"> ・本時の見通しをもつため、単元の流れが分かる「単元マップ」と本時の流れを示したホワイトボードを用意する。 ・授業の見通しをもてるよう、具体的な補助発問をする。 ・アドバイスされたことや真似したいと思ったことを確認するため、前時のプリントに目を通すように伝える。
	<p>前回の話し合いで見つけた課題をプリントに書きましょう。20分後の話し合いで、どういう課題に取り組んだか説明できるようにしておきましょう。課題がかけた人から創作を始めてください。</p> <p>○前時の話し合いから見つけた課題を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の終わり方がかっこよくするために、音を増やそう。 ・波っぽさを出すために、波の音に近い音色の楽器を使おう。 <p>○ 創作する。</p>				
11:40					<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を選びながら創作できるよう、要素の種類を具体的に示した一覧表を用意する。 ・3種類のフォルダーに参考資料となる曲をいくつか用意し、リズムや音の動きなどを考えやすくする。
					<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで「テーマ」や「要素」を視覚的に理解しやすくするため、一人一人のホワイトボードを提示する。 ・話し合いが円滑に進むようにするため、流れをパターン化する。
					<p>話し合いを始めます。ホワイトボード、筆記用具、バインダーを持ってグループで集まってください。今日の課題を伝えてから曲を流してください。聴く人は、友達の曲がよりよくなるようにアドバイスをするつもりで聴きましょう。時間は一人5分です。</p>

12:00	<p>○グループで話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・この音をもっと延ばした方がいいかな。(視聴する)もう少し延ばした方がいいかも。 ・もう少しテンポを速くした方が、楽しい感じになるかもしれない。 ・前よりも旋律が増えて、激しさが伝わってくるようになったね。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①テーマ・場面の説明 ②視聴 (1回試す) ③書く (何回も繰り返し流す) (付箋…ピンク・よい点、水色・改善点)</p> </div>
12:20	<p>○振り返りを記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>振り返りをするので、曲を保存してください。今日の収穫には、話し合ったことをもとに、次の授業でやりたいことを書きましょう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「応援歌」というテーマを表すために、打楽器を入れて曲を作りたいです。 </div>	<p>グループで話しやすくするため、各グループ横並びで集まる配置にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴く視点として「友達の曲がよりよくなるようにアドバイスをするつもりで聴こう」と伝える。 ・振り返り内容を明確にするため、「話し合ったことをもとに次の授業でやりたいこと」を書くように伝える。

(4) 評価(A 基準)

友達のよい点を真似したり、アドバイスしてもらった点を修正したりして、音楽を形づくっている要素を考えながら、よりよい音楽を創作しようと活動に取り組むことができたか。(活動の様子、振り返り)

14人の曲が入ったオリジナルのアルバムを作ろう！

① お互いのテーマや音楽を形づくっている要素を紹介しよう。

- ・ 低音をたくさん使って「危機が迫る」ような怖さを表現したい。
- ・ ○○さんの「嵐」が弱い風から強い風になる場面で、変化があるのがいい。
- ・ 「未知な世界」を表すために、複数の旋律を作りたい。

② テーマを表現するために必要な要素を選んで創作しよう。

- ・ 安心感を出すために、柔らかい音の楽器を使おう。
- ・ 夏らしいさわやかさが出るように、クラシックギターを使おう。
- ・ 波の音を入れるとってアドバイスもらったから今度やってみよう。

③ 話し合いで見つけた課題をもとに創作しよう。

- ・ ○○さんが言ってくれたようにテンポを速くしたら、激しさが出てきた。
- ・ ○○さんみたいに伴奏をつけたら、曲にまとまりが出てきた。
- ・ ○○さんにおアドバイスで旋律を増やしたら、イメージに近づいた。

④ 全員の曲のよい点や改善点を伝え合おう。

- ・ ○○さんの曲は、柔らかい音色がテーマにぴったりだね。
- ・ ○○さんの曲は、最後の音を延ばすと、終わった感じがするね。
- ・ 私も○○さんみたいに旋律を増やしたい。

⑤ 発表会に向けて曲を完成させよう。

- ・ ○○さんみたいに伴奏をつけたら、跳ねるような祭りっぽい曲を作れた。
- ・ 私も○○さんみたいに、「タララララン」ってつけよう。
- ・ 「応援歌」というテーマを表すために、打楽器を入れて仕上げよう。

⑥ 全員の曲のいいところを伝え合おう。

- ・ ○○さんの曲は、旋律が増えたり、低音をたくさん使ったりしていて、前よりも激しさが伝わってくるようになったね。
- ・ 友達のおアドバイスのおかげでいい曲が作れた。

自分の曲も友達も完成して、1年生オリジナルのアルバムが作れた！

オリジナルのアルバムに入れる曲を創作する過程

- ・ 黒鍵を使うだけで多様な曲を作ることができると理解できるよう、「恋」「上を向いて歩こう」「シェイクイットオフ」などの曲を用意する。
- ・ 具体的なイメージがもてるよう、教員が用意した様々なテーマの曲を用意する。

- ・ どんな要素を選択してイメージを表現する工夫をしたかを伝えやすくするため、ホワイトボードを活用する。
- ・ 創作活動を円滑に進めるため、音楽を形づくっている要素の種類を表にして具体的に示す。

①音色「高音、低音、楽器（ピアノ、トランペット）など」

②リズム「細かい、間、跳ねるなど」

③速度「急速、速い、遅いなど」

④旋律「明るい、暗い、なめらかなど」

⑤テクスチャ「伴奏+単旋律など」

⑥強弱「強い、弱い、だんだん強くなるなど」

- ・ 話し合いの流れをパターン化し、スムーズに交流できるようにする。

①テーマ・場面の説明

②視聴（1回流す）

③書く（何度も繰り返し流す）

（付箋…ピンク・よい点、水色・改善点）

④質問タイム（操作する）

- ・ 話し合いの際、友達の曲のよい点を自分の曲に取り入れるようにするため、真似したい点も書くよう伝える。

- ・ 生徒の創作の手助けになるよう、色々な曲集フォルダを用意し、自由に視聴または利用できるようにする。

「楽器フォルダ」

楽器の音色が確認できる（10種）

「伴奏フォルダ」

好きな伴奏が選べる（14種）

「曲集フォルダ」

色々な曲の曲が聴ける（15種）

2019 年度 第 4 回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業資料

1 日程

2019年9月30日

13:10～13:15 授業者説明

13:20～14:10 公開授業 社会科

14:25～15:30 研究協議

15:30～16:10 講評

*近隣の学校からの参加あり

2 研究授業資料 第3学年社会科

単元名 地方自治と私たち

目標

- ・自分たちが住む地域の政治に関心をもち、自分たちにできることを意欲的に考え、提案したり、政治参加の方法について考えたりしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・自分たちが住む地域の特色や課題について調べ、解決のための方法について話し合い、自分の考えを発言や提言などの形で表現している。(社会的に思考・判断・表現)
- ・地域の課題や地方財政の変化について、資料から読み取り適切に活用している。(資料活用の技能)
- ・地方自治の考え方と仕組み、地方財政の仕組みや課題について理解し、その知識を身に付けている。(社会的事象についての知識・理解)

単元について

(1) 生徒の実態(男子12名 女子5名 計17名)

さまざまな活動に対して積極的で、社会科の授業に対しても、教師の問いかけに対してすぐに反応し発言をしたり、自分が疑問に思ったことを質問したりと、意欲的に取り組んでいる。しかし、考えの深まりという点に関しては物足りなさを感じる。これは、学習内容に対して目的意識がなく主体性が薄いことに起因すると考えられる。そこで、積極的に発言し、交流ができる子どもたちだからこそ、単元を通して自分たちの住む地域の活性化案を作ること課題として設定し、目的意識をもって学習に取り組むことで、考えの深まりや自分にはない見方の獲得ができると考える。

(2) 教材について

本単元では地方政治について取り扱う。地方自治の仕組みを理解し、実際に何らかの形で地方自治に参加をするのが本単元の大きな目的である。生徒たちの住む設楽町は過疎化の進む地域であり、人口の増加を目指す政策が必要視されている。生徒たち自身も生徒数の減少から、人口減少を実感している。さらに議会の場で「こども議会」の話が上がるなど、中学生をはじめ若者の政治への参加が期待されている。

本単元では、設楽町活性化案を考えることを、単元を貫く課題として設定する。導入段階で

生徒たちの住む設楽町の議員の方をゲストティーチャーとして招き、設楽町の活性化案の提言を依頼してもらう。この依頼を受け、活性化案を考えることを課題とし、学習を展開したい。また、自分たちで活性化案を考える段階では、隣の校区で人口の増加を目指して様々な活動に取り組む方の話を聞く機会を設ける。その方から、活動内容や、取り組みによって人口が増加している地区の話を聞くことで、自分たちの活性化案を考えるための材料を手に入れるとともに、自分たちの活動が人口の増加につながる可能性があることに気づくだろう。これらの現状を生かし、地域の方との交流を通して、社会的な事象を自らの問題としてとらえ、主体的に課題に取り組む姿に期待をしたい。

また、本単元では設楽町活性化案を考えるという課題に対してグループで考える活動を積極的に設ける。単元の流れを理解させ、課題を明確にすることで、グループの中で活動の目的を共有し、話し合いが深まるようにしていく。また、役割を分担したり、アイデアを検討したりする活動を設定することで、考えの深まりを味わわせ、グループで活動をすることの良さを実感させる。これらの方略を通して、協同的に学習をする力を育てていきたい。

単元構想（9時間完了 本時 3/9）（次ページに掲載）

本時の指導

（1）目標

- ・地方公共団体の財政について、資料をもとに、その特徴を読み取ることができる。
- ・設楽町の財政状況の特徴を、名古屋市の財政状況と比較することで、考えることができる。

（2）準備

ワークシート 掲示資料 設楽町・名古屋市の予算資料

（3）展開

時刻	○学習内容	・生徒の意識	本時のめあて	教師支援
13:20	○単元の流れを確認する。			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の軌跡とこれからの予定を記載した単元マップを活用する ・めあてを立てるために、地方公共団体の課題を学習し、財政状況に目を向けさせる
	<ul style="list-style-type: none"> ・議員さんに依頼された設楽町活性化案を考えるのが今の学習の目的だったね ・今日は活性化案を考えるために設楽町の財政について学習するんだったね。 			
13:21	○日本の地方財政の現状を理解する			
	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の財政は苦しいところが多いんだって。 ・設楽町の財政はどんなのかな？ 			
13:26	○本時のめあてを確認する。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地方財政の歳入の内訳を理解し、設楽町の財政状況を名古屋市と比べて明らかにしよう。 </div>			

13:30	<p>○資料をもとに班ごとに設楽町と名古屋市の歳入についての資料を読み取る。</p> <table border="1" data-bbox="193 301 879 765"> <tr> <td data-bbox="193 301 532 765"> <p>設楽町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町税での収入が全体の約8%です。 ・歳入のうち自主財源が22.4%、依存財源が77.6%だね。 ・自主財源が少ないので財政は安定していないんじゃないかな。 ・国から配分される国庫支出金や地方交付税交付金が全体の55%を占めているね。 ・設楽町は借金が全体の17%もあるんだね。 </td> <td data-bbox="532 301 879 765"> <p>名古屋市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市税が47.6%あり、歳入の約半分を占めている。 ・自主財源が63.9%、依存財源が36.1%だね。 ・自主財源が多い方が安定しているって書いてあるから財政は安定しているね。 ・国庫支出金と地方交付税交付金の合計は21.7%だね。 ・借金である市債は7.2%になっているね。 </td> </tr> </table>	<p>設楽町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町税での収入が全体の約8%です。 ・歳入のうち自主財源が22.4%、依存財源が77.6%だね。 ・自主財源が少ないので財政は安定していないんじゃないかな。 ・国から配分される国庫支出金や地方交付税交付金が全体の55%を占めているね。 ・設楽町は借金が全体の17%もあるんだね。 	<p>名古屋市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市税が47.6%あり、歳入の約半分を占めている。 ・自主財源が63.9%、依存財源が36.1%だね。 ・自主財源が多い方が安定しているって書いてあるから財政は安定しているね。 ・国庫支出金と地方交付税交付金の合計は21.7%だね。 ・借金である市債は7.2%になっているね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設楽町と名古屋市について班で分担して資料を読み取る。 ・次の活動で2つの自治体を比べることを意識させることで調べる視点をもたせる。 ・わからない用語については、教科書等を活用して調べるように意識させる。
<p>設楽町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町税での収入が全体の約8%です。 ・歳入のうち自主財源が22.4%、依存財源が77.6%だね。 ・自主財源が少ないので財政は安定していないんじゃないかな。 ・国から配分される国庫支出金や地方交付税交付金が全体の55%を占めているね。 ・設楽町は借金が全体の17%もあるんだね。 	<p>名古屋市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市税が47.6%あり、歳入の約半分を占めている。 ・自主財源が63.9%、依存財源が36.1%だね。 ・自主財源が多い方が安定しているって書いてあるから財政は安定しているね。 ・国庫支出金と地方交付税交付金の合計は21.7%だね。 ・借金である市債は7.2%になっているね。 			
13:40	<p>○読み取った内容を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金額が大きく違うけど、比率で比べられるね。 ・自主財源や依存財源に大きな違いがあるね。 ・歳入の内訳も大きく違っているね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の一人ずつ集めてグループを作らせ、それぞれの班で読み取った内容を発表させる。 		
13:55	<p>○共有された情報を基に設楽町の財政の現状をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設楽町は名古屋市に比べて、自主財源が少なく、不安定な財政であることがわかりました。 ・税金による収入も少なく、国から配分されるお金が多くを占めていることがわかりました。 ・借金もあり、名古屋市と比べると割合が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを班に戻し、供された情報をもとに、設楽町の財政状況の特徴をまとめさせる。 ・予算の使い道について問いかけることで、設楽町の政策について目を向けさせる。 		
14:05	<p>○本時のふりかえりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設楽町の財政の様子が名古屋市と比べることで分かりました。財政的には不安定で、他の地方と同じように苦しいことがわかりました。 ・設楽町活性化案を考える際には、名古屋市のように多くの収入があるわけではないので、予算のかからない案にしなければ現実的ではないと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容から単元を貫く課題に生かせることを記述させることで、学習内容のつながりを意識させる。 		
14:10	<ul style="list-style-type: none"> ・設楽町の財政の様子に合った案を考えたいです。 			

(4) 評価<A基準>

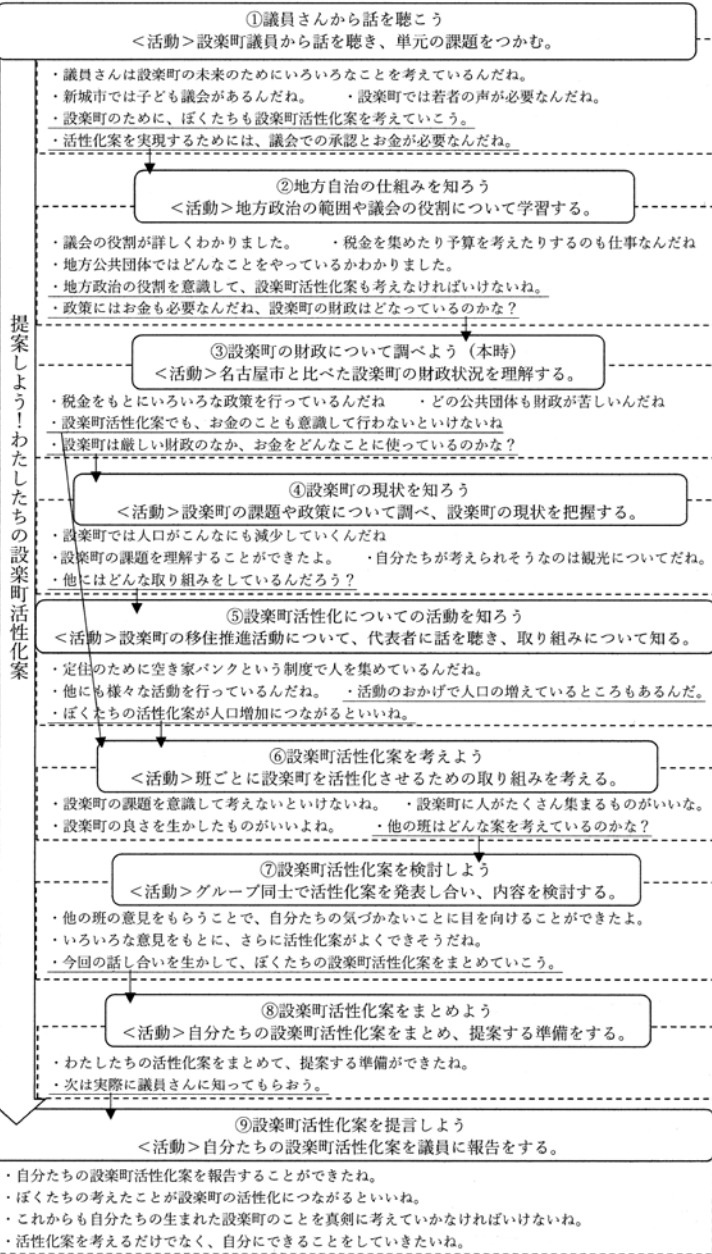
- ・地方公共団体の財政について、資料をもとに、用語の意味を正しく理解し、その特徴を具体的な数値をもとに読み取ることができた。
- ・設楽町の財政状況の様々な特徴を、名古屋市の財政状況と比較することで、見つけ出し、適切に表現することができた。

単元構想（9時間完了 本時3/9）

□ …中心となる発問や課題 ▭ …予想される生徒の思考

【課題をつなぐための手だて】

- ① 設楽町の活性化案の提言を依頼してもらったときに、設楽町活性化案を考える必要性を知るために、設楽町議員から設楽町の現状と近隣市町村の様子を話してもらおう。
- ② 振り返りに自分たちの活性化案に生かせることを記述させることで、単元の課題を意識させる。
- ③ 予算の使い方を問いかけることで、設楽町の政策に目を向けさせる。
- ④ 行政の提示している資料を読み取らせ、設楽町の現状を把握させることで、現在行われている活性化案に目を向けさせる。
- ⑤ 実際に地域活性化のために、取り組んでいる方の話を聴かせる。
- ⑤ 活性化案を考える活動を動機づけるために、豊田市での人口増加の成功例を提示する。
- ⑥ ふりかえりシートで学習履歴を確認させ、学習内容を生かせるようにする。
- ⑦ 様々な意見をもらい検討することの有効性意識させることで、目的意識をもって活動に取り組めるようにする。
- ⑧ 議員に実際に伝えることを意識させることで、次時につなげる。
- ⑨ 議員の方から実際に評価をもらうことで、地方自治への参加意識を高める。

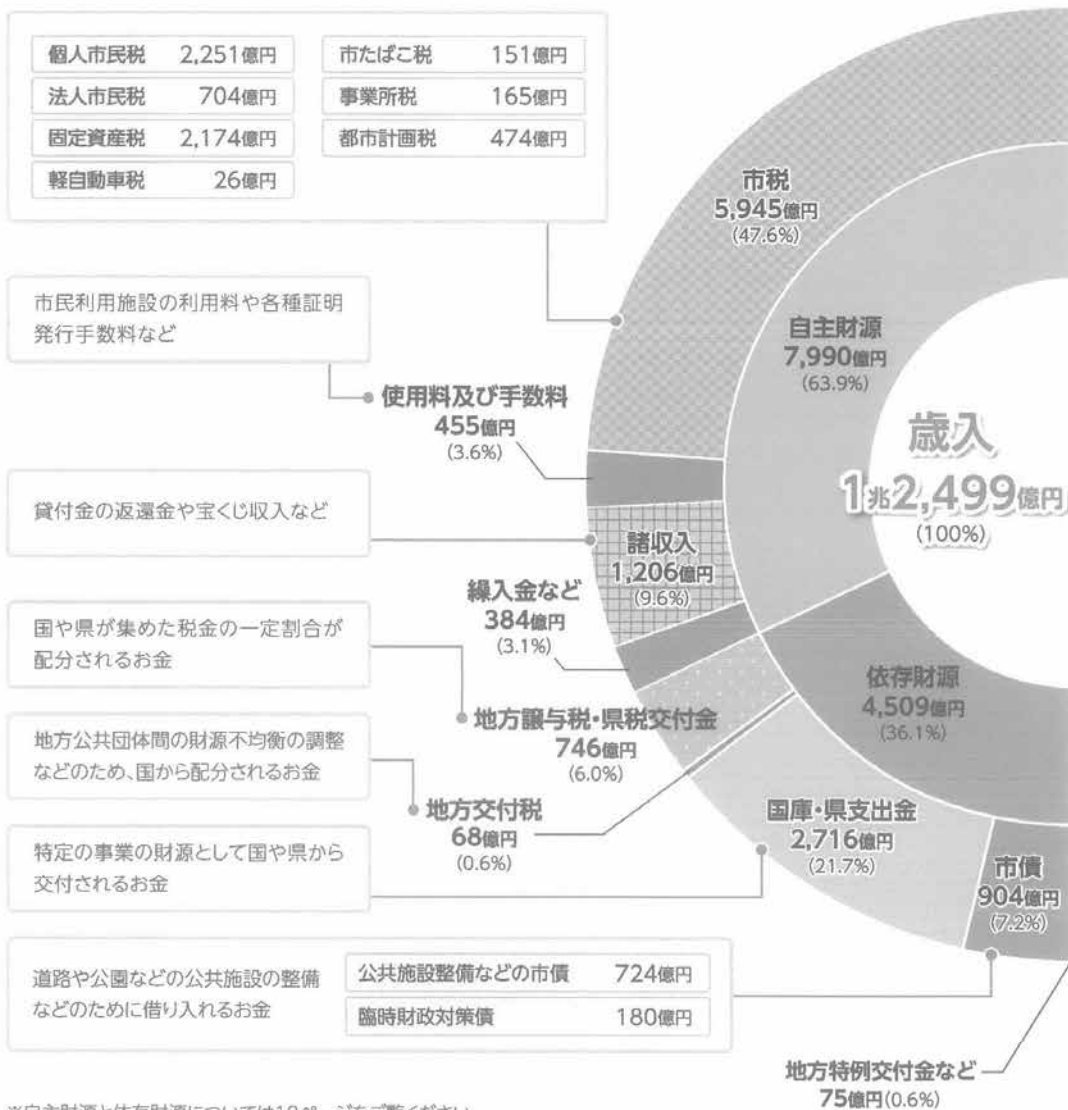


【自ら学ぶ手立て】

- ① 協力して学習に取り組みるように、学級として活性化案を提言することを意識させる。
- ③ 調べる内容について、班別で2つの自治体を調べさせることで、比較による話し合い活動が深まるようにする。
- ④ 資料をもとに班別で調べさせ、班同士で意見を発表し合う機会を設けることで、現状への理解を深められるようにする。
- ⑥ 個人で意見をもたせ、それを班の中で一つに絞らせることで、討論を行う目的をもたせる。
- ⑦ 意見を班同士で交流させることで、自分たちの活性化案についてより深く考えられるようにする。
- ⑧ 班の中の一人一人の役割を明確にすることで、責任をもって活動に取り組めるようにする。
- ⑨ 初めに個人で考えた案と班で練り上げた案を比べることで、協力して取り組むことのよさを実感させる。

一般会計の歳入と歳出

歳入の内訳



市民税減税

市民生活の支援、地域経済の活性化を図るとともに、将来の地域経済の発展に役立つよう、名古屋市では、市民税を減税しています。令和元年度では、減税額113億円を見込んでいます。

※法人の寄附促進を図るため、法人市民税減税については、平成31年4月1日以降に終了する事業年度分から企業寄附促進特例税制に組み替え、2年間の特例措置として、寄附額に応じて法人市民税を減免(上限:税額の2.5%)します。

詳しくはWebで [名古屋市 企業寄附促進特例税制](#)

2019 年度 第 5 回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業資料

1 日程

2019年10月21日

11:35～12:25 公開授業 国語科

13:20～14:00 研究協議

14:25～15:00 講評

2 研究授業 第3学年 国語科

単元名 気に入った俳句の魅力を伝えよう ～夏草―「おくのほそ道」から

目標

- ・作品に表現された世界や作者について関心をもち、原文の内容や俳句に込められた思いを明らかにしようと読んだり調べたりすることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・気に入った俳句について、句の意味と魅力が伝わる文章を書くことができる。(書くこと)
- ・語句の使い方や表現上の工夫に着目して、本文や俳句を読むことができる。(読むこと)
- ・現代語訳や脚注、資料集の記述を参考に、作者の生き方や思いを捉えることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

単元について

(1) 生徒の実態 (男子12名 女子5名 計17名)

本学級の生徒は、国語科の授業で、本文のどこが根拠となるのかを示しながら自分の考えを伝えている。小説で人物の心情について考えたときや、論説で筆者の主張をまとめたときには、本文中の様々な箇所が根拠として挙げられることで、考えが広がる意見交流ができています。

学級全体での意見交流では発言に消極的な生徒もいるが、ペアや小グループの活動では積極的に自分の気づきを伝えることができています。9月の学級活動の時間では、後期の目標について話し合ったときに、自分の意思を相手に伝えることと相手の意見を尊重することの2点を大切にしていきたいという意見が全グループから出された。他者との関わりを大切に学習を進めていきたいという意欲が高まっている。

6月に行った「論語」の学習では、読み慣れない古典の表現に戸惑いながらも、脚注を参考にして作成した訳文をグループ内で見比べて、章句の意味について理解することができた。7月に行った「俳句」の学習では、季語や定型といった俳句を構成する要素について理解し、それをもとに、自分の気に入った俳句の魅力を伝える文章を書くことができた。

(2) 教材について

本単元では、松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」を扱う。漢語が多く用いられた文体で書かれており、生徒にとって馴染みのない言葉が使われているため、難しいと感じる生徒が現れることが予想される。教科書に載せられた現代語訳や注釈、辞典や資料集を使って自分たちの理解できる言葉に置き換えることで、書かれている内容と作者の思いを捉えさせたい。

(1)の文章には、旅の出発に際して芭蕉が詠んだ俳句について書かれている。現代語訳と見比べることで、古文では省略されている箇所を補い、難解な語句の意味を理解しながら読むことができる。出発当時の芭蕉の年齢や、徒歩での移動が中心となる当時の時代背景を根拠として、芭蕉の旅にかける思いを捉えさせたい。(2)の文章には現代語訳が載せられていない。一

方で、脚注が豊富に載せられている。奥州藤原氏に関わる時代背景について、資料集を活用することで、脚注の内容を補足し、平泉で詠まれた俳句に芭蕉が込めた思いを捉える根拠とする。

俳句については、7月の授業で扱ったほか、テレビ番組で取り上げられていることもあり、生徒の関心は高い。気に入った俳句の魅力を伝え合う活動を、発展的活動として単元の終末に取り入れることで、様々な俳句に込められた思いを捉えようという意欲を高め、自分とは違った感性で俳句の魅力に迫ることができるようにしたい。

単元構想（次ページに掲載）

本時の指導

(1) 目標

- ・作品に表現された世界や作者について関心をもち、「草の戸も」の俳句に込められた思いを明らかにしようと読んだり調べたりすることができる。（関心・意欲・態度）
- ・現代語訳や脚注、資料集の記述を参考に、旅立ちに際した芭蕉の思いを捉えることができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

(2) 準備

単元マップが載った振り返りシート、古語辞典、国語辞典、ホワイトボード、マーカー。

(3) 展開

時刻	○学習内容 ・生徒の意識 本時のめあて	教師支援
11:35	○単元の流れを確認し、前時の学習を振り返る。 ・単元の最後に、俳句の魅力が伝え合えるように学習しよう。 ・松尾芭蕉は当時の平均寿命に近い歳で、2400キロもの長い旅に出していた。	・芭蕉の人物像や、「おくのほそ道」の旅の情報を俳句に込められた思いを捉える際に生かせるよう、前時の振り返りを紹介する。
11:38	○本時のめあてを確認する 「草の戸も住み替わる代ぞ雛の家」の俳句には、どんな思いが込められているのだろうか。 ○前時に書いた、「草の戸」の俳句に込められた思いについての自分の考えを確認する。	
11:40	○小グループに分かれて（1）に書かれている内容を捉える ・なぜ旅に出たのか→「古人も多く旅に死せるあり」古人とは尊敬される偉人で、李白や杜甫、西行や宗祇に憧れていた。「月日は」の部分は李白の詩が引用されている。 ・なぜ東北に向かったのか→「白河の関越えんと」「松島の月まづ心にかかりて」白河の関は歌枕として有名な土地である。芭蕉は関東や東海にはそれ以前に紀行文を書いている。 ・どんな準備をしたのか→「股引の破れをつづり…」150日を超える長旅になるので、着る物や笠の準備をしている。三里に灸するのは、長い距離を歩くので足を丈夫にするため。 ・住んでいる家はどうか→「住める方は人に譲りて」「雛の家」	・俳句に込められた思いを考えるために、原文の内容を全員が理解する必要性を伝える。 ・小グループでの役割を明確にするために、司会、記録、辞書、庶務の係を分担する。 ・小グループでの思考を視覚的に共有できるよう、ホワイトボードに出された

11:52	<p>長旅になるので、家族連れに売り渡した。当時としては高齢であり、人生をかけた旅になるため。</p> <p>○発表内容を参考に、「草の戸も」の俳句にはどんな思いが込められているか、自分の考えをもつ。</p>	意見を記録するよう指示する。
12:10	<p>・芭蕉は旅の中で詩を詠んだ先人にあこがれをもっていたから、ようやく旅に出られるという喜びが大きかったのでは。</p> <p>・高齢なのに過酷な旅に出ることに不安はあったと思う。自分の旅が明るいものになるようにという希望を込めたのでは。</p> <p>○「草の戸も」の俳句に込められた思いについての自分の考えを伝え合う。</p> <p>○「なるほど」と思えた友達の考えについて全体で交流する。</p>	<p>・多様な考えに触れさせるために、スクランブル方式で交流する。</p> <p>・新たな考えに気づく効率的な話し合いをするために「なるほど」と思った考えをメモするように指示する。</p>
12:20	<p>・過酷な旅に出ることに不安に思っているから、雛の家という言葉で明るい旅になるように願ったと考えていたが、あこがれていた先人のような旅ができることを喜び、期待をもっているという意見を聞いてなるほどと思った。</p> <p>○授業の中で新しく見つけた、芭蕉が俳句に込めた思いについて振り返りを書く。</p>	<p>・課題の達成度が分かるよう、前時に書いた文を見て振り返りを書くよう指示する。</p>
12:25	<p>・単に家に住む人が暮らすという意味だと思っていたが、過酷な旅が明るくなるよう願いが込められていると分かった</p>	

(4) 評価＜A 基準＞

・作品に表現された世界や作者について関心を持ち、「草の戸も」の俳句に込められた思いを明らかにしようと自ら教科書を読んだり、資料集で調べたり、他者に伝えたりすることができたか、授業中の様子から評価する。

・現代語訳や脚注、資料集の記述を参考に、芭蕉の旅への期待感や思いを多面的に捉えることができたか、授業中の発言や振り返りから評価する。

単元構想（4時間完了 本時2/4）

□…中心となる発問や課題

□…予想される生徒の思考

【意識をつなぐ手立て】

①単元を貫く課題を意識して学習に取り組めるよう、「気に入った俳句の魅力伝える」という単元の最後に取り組む課題を伝える。

①単元を貫く課題を常に意識できるよう、全4時間の単元マップを振り返り用紙に示し、各時間の初めに本時の位置付けを確認する

②前時の学習内容を読み取りに生かせるよう、授業の初めに前時の振り返りを聞く。

②「仲間と共にできた、分かった」と感じられるよう、前時の段階で考えた俳句に込められた思いを見ながら振り返りを書く。

③生徒が仲間に伝えたいと感じられるよう、教科書や資料集に載せられている俳句だけでなく、家庭学習で調べてきた俳句を選んでよいと、授業の最後に伝える。

④単元を貫く課題に向けての既習事項を意識できるよう、授業の初めに授業単元マップと振り返りを見る。

芭蕉が俳句に込めた思いを捉え、気に入った俳句の魅力伝えよう

①「草の戸」の俳句にはどんな思いが込められているのか、自分の考えをもつ

【単元を貫く課題を確認する】

- ・現代の俳句にも大きな影響を与えた芭蕉の句について学習していこう。
- 【原文の鑑読を聞き、「草の戸も」の俳句に込められた思いについての自分の考えをもつ】
- ・住んでいる家を人に譲っているから、長旅に向けて準備しようという思いがあったのでは。
- 【松尾芭蕉と「おくのほそ道」について、教科書や資料集を参考に情報をまとめる】

《松尾芭蕉について》

- ・芭蕉は江戸時代前期の俳人で、各地を旅して俳句を作っていた。
- ・29歳から江戸に住み、40歳の時に紀行文を書き始め、51歳で亡くなった。
- ・芭蕉は西行や宗祇、李白や杜甫といった詩人にあこがれを抱いていた。

《おくのほそ道について》

- ・江戸から東北地方をまわって北陸を下り、大垣までを歩く旅についての紀行文である。
- ・芭蕉は46歳のときに出発し、156日をかけて約2400キロを旅した。
- ・「おくのほそ道」以前にも、三重や茨城、愛知などを旅して紀行文を書いている。
- 【振り返り】芭蕉が書いた「おくのほそ道」はどんな作品なのかまとめる
- ・芭蕉が人生をかけて出発した長旅の中で作った俳句が書かれている紀行文である。

②「草の戸も」の俳句にはどんな思いが込められているのだろうか【本時】

【前時に書いた「草の戸も」の俳句に込められた思いと振り返りを確認する】

【4つの問を示し、教科書や資料集を参考に（1）の文章の内容を捉える】

- ・どうして旅に出たのか → 旅に生き、旅に死んだ故人へのあこがれがあったから
- ・どうして東北に向かったのか → 歌枕で有名な白河の関を越えたいと思ったから
- ・どんな準備をしたのか → 長旅に備え、股引や笠を直し、足のつばに灸をした
- ・住んでいる家はどうか → 長旅に出るので、人に譲って弟子の別荘に移った

【「草の戸も」の俳句にはどんな思いが込められているか、スクランブル方式で発表する】

- ・いよいよ念願の旅に出られるという喜びが込められているのでは。
- ・庵の柱に掛けられているから、家に住む人の華やかな生活を願っているのでは。
- ・「雛の家」というと雛祭りの楽しい感じがする。明るい旅になるように願っているのでは。
- 【振り返り】授業の中で新しく見つけた、芭蕉が俳句に込めた思いをまとめる
- ・念願の旅に出られる喜びや、楽しい旅になるようにという思いは、なるほどと思った。

③平泉での俳句には、どんな思いが込められているのだろうか

【（2）の原文を4つに分けて、小グループごとに担当を決め、原文の内容を捉える】

- ・「三大の榮耀」は、東北で栄え、滅びてしまった奥州藤原氏の栄華を指している。
- ・「義臣」は、平泉で最期を迎えた義経に付き従った家臣のことだ。
- ・「既に頗る空虚の草むらとなるべき」から、二堂が残っていることのすごさを述べている。
- ・俳句には、夏の季語が使われている。卯の花から白髪を連想している。

【3つの俳句にはどんな思いが込められているか、小グループで話し合い、発表する。】

- ・「夏草」の俳句は、奥州藤原氏や義経たちのほかない最期を思い起こしている。
- ・「卯の花」の俳句は、義経に付き従った老兵を思うから、卯の花が白髪に見えた。
- ・「五月雨」の俳句は、金色堂のすばらしさを感じ、残っていることの感謝を詠んでいる。

【振り返り】授業の中で新しく見つけた、平泉での俳句に込められた思いをまとめる

- ・最期まで付き従う義経と臣下の関係を通して、その最期を悲しんで詠んだとわかった。
- ・光堂のすばらしさに感動したから、五月雨が降り残したと詠んだとわかった。

④気に入った芭蕉の俳句を一句選び、その魅力を伝えよう

【教科書や資料集、自分で見つけた俳句の中から気に入った俳句を一句選ぶ】

- ・「閑かさや」の俳句は学習する前から知っているから、調べてみたい。
- ・辞世の句として伝わる「旅に病んで」の俳句について、調べてみたい。
- 【自分が選んだ俳句の魅力伝える文章を書く】
- ・「閑かさや」の俳句は、立石寺という特に静かな山寺で詠まれているおり、現在ではうるさく感じられるような蝉の声でも、岩にしみこんでいくように感じられるのが印象的な俳句だと思う。
- ・「旅に病んで」の俳句は、芭蕉の旅にかけた思いが死を前にしても変わっていないことがわかる。

【小グループ内で自分が選んだ俳句の魅力伝え合い、感想を交流する】

- ・「旅に病んで」の俳句は初めて知ったが、旅に出たいという思いが強く伝わってきてよいと思った。

【振り返り】単元を終えて、俳句のどんな点に魅力を感じたのかをまとめる

- ・昔の人が見えた情景を、現代の人が想像できることが魅力だと思った。
- ・さまざまな思いで俳句が作られていて、人によって違う感じ方ができるところが魅力だと思った。

【自ら学ぶ手立て】

①生徒が個人思考の材料とすることができるよう、教科書と資料集に記載があることを伝える。

①生徒が個人思考の意味を理解できるよう、次時以降の俳句の学習のために作者や作品について全員が理解する必要があることを伝える。

②生徒が授業の見通しをもてるよう、俳句に込められた思いを考えるために、原文の内容を全員が理解することの必要性を伝える。

②全員がグループで話し合いに参加できるように、司会者、記録者、発表者、辞典係の4つの役割を明示する。

②思考の深まりがみられる話し合いになるよう、なるほどと思った考えを発表するよう指示する。

③互いに高め合おうとする心が育つよう、（2）の部分には現代語訳がないため、俳句に込められた思いを理解するために全員が本文の内容を理解する必要があることを伝える。

④互いに高め合おうとする心が育つよう、自分とは違った視点で俳句の魅力を語る意見の価値について伝える。

2019 年度 第 6 回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業資料

1 日程

2019年11月18日

11:35～12:25 公開授業 国語科

13:20～14:00 研究協議

14:25～15:00 講評

2 研究授業 第1学年 理科

単元名 光にはどのような性質があるのか？

目標

- ・光による身近な現象に関心をもち、光の進み方について進んで調べようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・光の反射・屈折や凸レンズのはたらきについて規則性を見出し、自らの考えを導いたり、まとめたりして、表現している。
(思考・判断)
- ・実験装置を使い、光を正しく進ませたり、実験結果を正しく作図したりすることができる。
(技能)
- ・光の反射・屈折や凸レンズのはたらきについて規則性を理解することができる。(知識・理解)

単元について

(1) 生徒の実態 (男子9名 女子5名 計14名)

理科の授業に対する意欲が高く、積極的に参加する生徒が多い。単元「水溶液」の授業では、「水溶液の正体は何か。」という課題を設定し、観察・実験から結論を導き出す活動をした。生徒の多くが、リトマス紙の変化や蒸発した時の様子、においや見た目などの情報を実験・観察する活動を通して集めることができた。さらに、その情報から水溶液の中身を同定することができた。一方で、得た情報をもとの情報と比較し、どうしたら本物を見分けられるのかわからない生徒がいた。グループでの活動を設定したことでそういった生徒も友達と協力しながら解決することができた。ただ、それぞれの生徒で考える時間を設定していなかったことで、すべての生徒が自分の考えをもって話し合いに参加できず、関わりあって課題を解決しようとする姿が見られなかった。課題を具体的に設定し、考えるための手掛かりとなる資料と個人思考の時間を保証しながら意図的な関わり合いをさせることで生徒一人一人が活発に授業に参加し、生徒同士が協力しながら、一つの答えに辿り着けるようにしていきたいと思う。

(2) 教材について

単元「光の性質」では、光の直進・反射・屈折、凸レンズによる像のでき方について学習をする。どの学習においても光の進み方がどうなっているのかという観点から考えることで光の性質について理解することができる。光の現象に関わる実験を行い、結果をもとに光がどのように進んだのか法則性を考え、結論付ける形で授業を行う。

単元の最初に、それぞれの課題に関わる現象や資料を見せ、生徒に疑問をもたせる活動から単元を貫く課題を設定する。その後、単元マップを提示し、光の性質を理解するまでの見直し

をもたせる。

また、生徒が学習活動に積極的に参加できるよう個人思考とグループ学習の時間を設ける。グループ学習では、それぞれ役割分担を行い、司会係・記録係・発表係・準備係のいずれかを行うようにする。司会係を中心に話す順番を設定し、どの子もグループの中で話ができるように配慮する。

ふりかえりは単元マップや学習内容と一緒に用紙を用意し、どのような課題で取り組んだのか、何を学習したのかが一目でわかるようにしておく。そうすることで、学習に見通しをもち、授業の中で学習できたことがきちんと整理できるようにする。

単元構想（次々ページに掲載）

本時の指導

(1) 目標

スクリーンにできた像が大きくなったり、小さくなったりする理由を考えることができる。
(思考・判断)

(2) 準備

単元マップが載った振り返りシート ワークシート ホワイトボード マーカー、発表シート (図の説明ができるもの)

(3) 展開

時刻	○学習内容	生徒の意識	本時の課題	補助発問	教師支援
11:35	○単元の流れを確認し、本時の学習内容を確認する。				○単元マップを確認し授業内容に見通しをもたせる。 ○まっすぐ進んだ光は焦点に向かって進むこと、凸レンズの中心に向かって進む光は直進することを黒板に示し、学習の資料とする。
		前回、凸レンズと光源の距離を変えたとき、スクリーンにどのような像ができるか調べました。どうして像が大きくなったり小さくなったりするのかと疑問が出ましたね。			
		○本時の課題を確認する。			
		なぜ実像が大きくなったり、小さくなったりするのか？			
		○焦点距離の2倍の位置に光源を置いた場合、スクリーンに映る像が光源と同じ大きさになることを教師が作図して説明する。			
11:40		○教師の説明を参考にして、光源が焦点距離から3倍、1.5倍のとき、どのように光が凸レンズを通ったのか作図を行う。			○グループの中で、係分担を行い、責任をもって参加できるようにする。 司会…グループ学習の話し合いの進行 記録…グループの考えをホワイトボードなどへの記入 発表…グループの考えを他
		今の説明を元に、光源が焦点距離から3倍、1.5倍の位置にあるとき、どのように光が凸レンズを通ったのか作図をしましょう。このあと、どうして像が大きくなったり、小さくなったりするのか考えます。キーワードは、距離と角度です。作図しながら大きさが変わる理由を考えましょう			

<p>11 : 50</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 距離が遠くなると作図をしたときの像が小さくなる ・ 凸レンズの中心を通る光の角度によって像の大きさが変わる ・ 像を描いてみると、逆さまに像ができる理由が分かる <p>○グループで作図の仕方を確認する。 どうして実像が大きくなったり小さくなったりしたのか、グループで話し合い、説明を考える。 ○作図の方法と説明をホワイトボードにまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それではグループでかいた図が正しいか確認しましょう。その後、どうして実像が大きくなったり、小さくなったりするのか一人ずつ意見を伝え、グループで結論を1つホワイトボードにまとめよう。</p> </div>	<p>の班へ伝える 準備…学習に必要な道具等を準備する ○ワークシートに今日の学習の流れを示すことで、学習の見直しをもてるようにする。 ○補助発問で、個人学習・グループ学習の課題を示しみんなで課題を解決する意識がもてるようにする。 ○1人ずつ個人で考えたことを発表し、全員の学習の機会を保障する。 ○1つの班に発表をしてもらい、その説明に付け足す方式で発表を行う。発表へ取り組む姿勢を補助発問で行うことで、生徒の学習意欲を高める。 ○教師が机間巡視をして補足説明が必要な班から指定し、説明する。</p>
<p>12 : 05</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直進した光は凸レンズを通り、焦点を通って進む。 ・ 凸レンズの中心を通る光はそのまま進む。 ・ 2つの光が交わった位置に像ができる <p>○1つの班に発表してもらい、付け足し方式で、学級全体で意見を交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今からグループで考えた結論を交流します。1班の結論をよく聞いて、付け足しがあれば他の班から説明をしてください。みんなが、実像が大きくなったり、小さくなったりする理由が分かるように交流をしましょう。</p> </div>	<p>○振り返りでは、学習内容と今日の収穫の欄を書くことで、光の通り方の違いが像の大きさの違いとして現れることを抑えられるようにする。</p>
<p>12 : 15</p>	<p>○学んだことを今日の振り返りとして記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>作図の仕方や像の大きさについて収穫したことを書きましょう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 像が逆さまになる理由が作図をすることで分かった。像の大きさも光の進み方が違うからだということが分かった。 ・ 焦点からどんどん遠くなっていくこと、レンズの中心を通る光の角度が小さくなるので像が小さくなると分かった 	

(4) 評価<A 基準>

・ 凸レンズを通る光を作図し、描いた図からスクリーンにできる実像の大きさが変化する理由を説明することができた。

単元構想（8時間完了 本時6/8）

□ …中心となる発問や課題

□ …予想される生徒の思考

【意識をつなぐ手立て】

○単元を貫く課題を常に意識できるよう、全7時間の単元マップを振り返り用紙に示し、各時間の始めに本時の位置付けを確認する。

①資料をもとに、自分の疑問や分からないことを出し、単元を構想する。

②～④光は直進するという既習事項を元にしなが、反射・屈折の場合はどういう進み方を考えるのか法則を考えたこと意識をつなげるようにする。

⑤～⑦凸レンズの学習の際には、光がどのように進み像ができたのかを課題とすることで、前時までの学習と意識がつながるようにする。

⑧前時で行った実験からどのように実像ができたのか、作図しながら考えることで、光の性質を視覚的にとらえられるようにする。

⑨前々時で行った実験からどうして実像ができなかったのか作図しながら考えることで、光の性質を視覚的にとらえられるようにする。

⑩眼鏡や虹といった生活に関わる事柄も光の進み方が影響していることを伝え、意識をつなぐ。

①光はどのように進むのか？

【教科書や実物を資料とし、光に関わる現象に対して課題をもつ。】
 ・どうして光は直進するのに反射したり、曲がったりするのだろうか。
 ・凸レンズは遠くを見ようとすると逆さまに見えるのはなぜだろう。
 【光は直進することを確認する。】
 ・光は直進するのが、目に見えて分かった。

②光は反射するときどのように進むのか？

【反射した光はどのように進むか、入射角と反射角を測定し、考える。】
 ・入った光は同じように出ていくから何か法則があるんじゃないかな。
 ・入射角、反射角という考え方で反射するときの進み方を考えればいんだ。
 ・調べた結果、**入射角と反射角の値**が同じになることが分かった。
 ・光が反射すると、**入射角＝反射角の関係**になることが分かった。

③光がガラスや水を通るときどのように進むのか？（屈折の学習）

【ガラス棒が曲がった理由を知るため、光が水やガラスをどのように進むかの調べる。】
 ・光はまっすぐに進むのに本当に曲がるのかなあ。
 ・ガラスの中を、光を通すと折れ曲がった。屈折というんだ。
 ・今度は反射角ではなく、屈折だから屈折角なんだね。
 ・空気中からガラスへ入るとき**入射角のほうが大きい**ことが分かった。

④光がガラスや水を通るときどのように進むのか？（全反射の学習）

【ガラスや水から光を当てる角度を変えるとどのように進むか調べる。】
 ・ガラスから空気中に出るときは、入射角のほうが小さくなるはず。
 ・いろいろな角度で調べてみるとどうなるかな。
 ・ある角度から屈折せずに、反射したよ。
 ・**屈折せずに反射すること**を全反射っていうんだ。

⑤凸レンズに光を通すと、どのような像ができるのか？

【凸レンズの仕組みを理解するために、凸レンズがどのような像をつくるのか調べる。】
 ・凸レンズの像が大きくなったり、逆さになつたりするのはなぜかな？
 ・凸レンズの距離を変えると像ができる位置が変わるんだ。しかも逆さにできるぞ。
 ・**だんだん近づけていくと像ができなくなったぞ。**
 ・**だんだん遠ざけていくと像が小さくなったぞ。**

⑥なぜ実像が大きくなったり、小さくなったりするのか？（本時）

【凸レンズに像ができる理由を、作図して考える。】
 ・作図の仕方を見て、2つの像ができる理由を考えていこう。
 ・作図したことで像ができる位置が分かったぞ。
 ・**光の進み方が違うから像が大きくなったり、小さくなったりするんだ。**
 ・**凸レンズの中心を通る光の角度が違う**ことが分かったぞ。

⑦なぜ像ができないときがあるのか？

【凸レンズに像ができない理由を、作図して考える。】
 ・像ができないときはどうやって作図すればいいか考えよう。
 ・作図した結果、反対側に像ができたり、像ができなかったりする理由が分かったぞ。
 ・**光がスクリーンに集まらないから像ができないんだ。**
 ・**虚像は反対側で像が結ばれるから逆から見えるんだ。**

⑧くらしの中で感じる光には、どのようなものがあるのか？

【凹レンズやプリズムの仕組みから光の特徴を考える。】
 ・身の回りにも光に関わるものがあるんだ。
 ・虹のでき方がプリズムで分かれた光を見ることで分かったぞ。
 ・**凹レンズは眼鏡につかわれているんだ。**
 ・凹レンズは凸レンズとは逆で**光を散らす効果があるんだ。**

【自ら学が手立て】

○グループの中で役割分担をし、どの子も学習に積極的に参加できるようにする。

【役割】
 司会係・記録係
 発表係・準備係

○学習の際は、個人→グループ→全体交流という流れで行うことを基本とし、個人の考えをきちんともてるようにする。

①生徒が個人思考できる資料として、教科書の写真や実物を用意する。

②資料をもとに、自分の疑問や分からないことを出し、単元を構想する。

③反射した際の角度がどうなるのか考える際に、入射角、反射角というキーワードを提示することで、反射の法則を理解できるようにする。

④空気と物質との境界面で角度がどうなるのか考える際に、光が屈折する場合はどのようなときか具体的に例示することで、法則の理解につなげる。

⑤あらかじめ凸レンズの光の進み方を例示することで、光がどのように屈折するか理解できるようにする。

⑥⑦作図の仕方を例示し、キーワードとして距離・角度を示すことでどうしてそのような結果になったのか説明できるようにする。

⑧眼鏡、虹の光の進み方がどのようになっているかを示し、生活にどのように役立っているのか、考えられるようにする。

光はどのような性質があるのか？

光の性質 単元マップ

① 光はどのように進むのか？



② 光は反射するとどのようなに進むのか？



③ 光がガラスや水を通るときどのように進むのか？



④ 光がガラスや水を通るときどのように進むのか？



⑤ 凸レンズに光を通すと、どのような像ができるのか？



⑥ なぜ実像が大きくなったり、小さくなったりするのか？



⑦ なぜ像ができなときがあるのか？



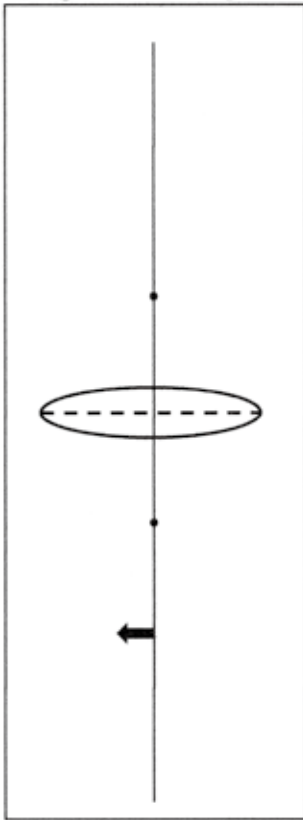
⑧ くらしの中で感じる光には、どのようなものがあるのか？

光にはどのような性質があるのか？

学習内容	今日の収穫	授業の評価
<ul style="list-style-type: none"> 太陽や電灯、ろうそくの炎のように自ら光を出しているものを_____という。 光がまっすぐに進むことを光の_____という。 		個人の達成度 班のがんばり度
<ul style="list-style-type: none"> 光が物体にあたってはね返ることを光の_____という。 反射する前の光を_____、反射した後の光を_____という。 垂直な線と入射光との間にできる角を_____、反射光との間にできる角を_____という。 _____ = _____という関係が成り立つ。_____の法則という。 空気とガラスや空気と水など異なる物質の境界面で光が折れ曲がって進む現象を光の_____という。 屈折した光を_____といい、物体の境界面に垂直な線と屈折光との間にできる角を_____という。 		個人の達成度 班のがんばり度
<ul style="list-style-type: none"> 空気中→ガラスや水の水のとき 入射角_____屈折角_____ ガラスや水→空気中のとき 入射角_____屈折角_____ 光が空気中に出ていけなくなり、水面ですべて反射してしまう現象を_____という。 		個人の達成度 班のがんばり度
<ul style="list-style-type: none"> 光が凸レンズを通ると1つに集まる。この点を_____という。 凸レンズの中心から焦点までの距離を_____という。 スクリーンに上下左右逆さにできる像を_____という。 物体の反対側から凸レンズをのぞくと物体より大きな像が見える。この像のことを_____という。 		個人の達成度 班のがんばり度
作図 光源が焦点距離の2倍の位置の時の実像 		個人の達成度 班のがんばり度
作図 光源が焦点距離の0.5倍の位置の時の虚像 		個人の達成度 班のがんばり度
くらしの中で感じる光 <ul style="list-style-type: none"> 眼鏡・・・_____を利用して焦点の位置を変えている。 虹・・・光の_____の違いから様々な色に分かれてみることができ。 		個人の達成度 班のがんばり度

課題：

課題①光源の位置が焦点距離の2倍のときの実像のでき方を作図する。



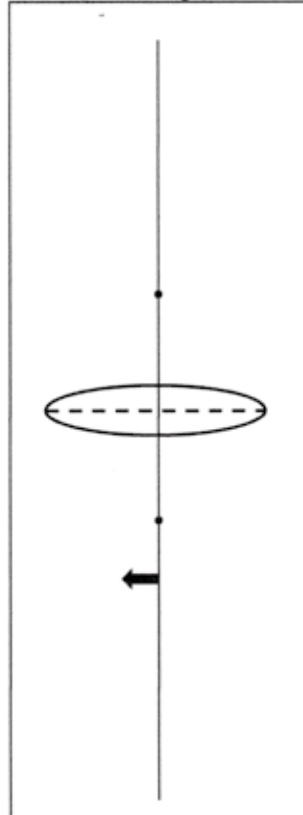
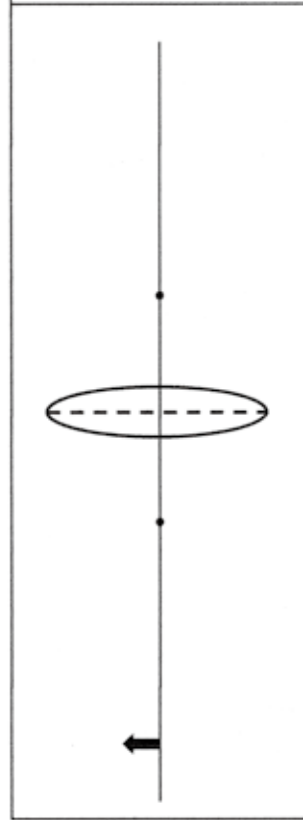
作図の仕方

①光源の先から平行に光を伸ばし、
凸レンズの中心まで伸ばす。

凸レンズの中心から焦点を通る直線
を引く。

②光源の先から凸レンズの中心に向かって
直線を引く。

課題② ①の作図の仕方参考にして、光源の位置が焦点距離の3倍のときと1.5倍のときの実像のでき方を作図する。



課題③なぜ実像が大きくなったり、小さくなったりするのか「角度」「距離」をキーワードにして考えよう。

個人の考え

グループの考え

2020年度 第1回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業資料

1 日程

2020年6月9日

10:30～11:00 研究仮説についての説明

11:10～11:20 授業者説明

11:30～12:20 授業参観

13:15～14:15 協議会

14:15～15:00 講評

2 研究授業 第2学年 理科

単元名 化学変化のきまりはどうなっているのか？

目標

- ・化学変化について興味をもち、実験や考察に積極的に参加することができる。
(関心・意欲・態度)
- ・物質の成り立ちを理解し、分解、化合、酸化還元がどのように行われているか考えることができる。
(思考・判断)
- ・分解、化合、酸化還元に関わる実験・観察において安全に留意し、適切な操作ができる。
(技能)
- ・原子・分子の考え方や化学変化を化学反応式に表して理解できる。
(知識・理解)

単元について

(1) 生徒の実態 (男子10名 女子5名 計15名)

理科の授業に対する意欲が高く、積極的に参加する生徒が多い。昨年度行った単元「水溶液」の授業では、「水溶液の正体は何か。」という課題を設定し、観察・実験から結論を導き出す活動をした。生徒の多くが、リトマス紙の変化や蒸発した時の様子、においや見た目などの情報を実験・観察する活動を通して集めることができた。さらに、その情報から水溶液の中身を同定することができた。一方で、得た情報をもとの情報と比較し、どうしたら本物を見分けられるのか分からない生徒がいた。グループでの活動を設定したことでそういった生徒も友達と協力しながら解決することができた。ただ、それぞれの生徒で考える時間を設定していなかったことで、すべての生徒が自分の考えをもって話し合いに参加でたわけではなく、関わり合って課題を解決しようとする姿が見られなかった。課題を具体的に設定し、考えるための手掛かりとなる資料と個人思考の時間を保証しながら意図的な関わり合いをさせることで、生徒一人一人が活発に授業に参加し、生徒同士が協力しながら一つの答えに辿り着けるようにしていきたい。

(2) 理科における協同学習について

授業の最初には、学習する内容を教科書であらかじめ確認する時間を設けることで、個人の考えの形成に役立て、本時の課題に知識をもった状態で取り組ませる。個人の考えをきちんともたせ、班で活動する際に、自分の意見を伝えられるようにする。

班ごとで一人一人に役割分担をもたせ、活躍できるよう配慮する。個人の考えをもたせると

ともに役割を明確にすることで、全員が自らの意思で学習に向かえるようにしていきたい。

課題の提示→課題に対する個人思考→グループ学習→全体での交流という流れを基本とし、活動を行い、全員が授業に参加できるようにしていく。

(3) 教材について

本単元では、化学変化及びそれに関わる規則や法則を学習する。物質を原子・分子レベルで捉える。学習が初めてとなる生徒たちにとって、目に見えないものを現象から理解することは難しい。

まず、すべての化学変化を学習する前に、物質の在り方について学習を行う。原子・分子という考え方を学び、粒子概念を形成する。そして、その知識を活用しながら化学変化を捉えることで論理的に現象を説明できるようにしていく。分解・化合・酸化還元の実験・考察を行いながら、化学変化の規則・法則を見つける学習を通して、化学変化の前後では、原子や質量は生徒の変わらないことを理解させたい。

単元構想（次々ページに掲載）

本時の指導

(1) 目標

分子という概念を理解し、原子がどのように集まってできているか説明できる。(思考・判断)

(2) 準備 単元マップ 学習マップ ワークシート ホワイトボード マーカー

前回作った原子モデル 発砲スチロール球マジック

(3) 展開

時刻	生徒の意識	本時の課題	補助発問	教師支援
11:30	化学変化にはどのようなきまりがあるのかを調べる知識得るために、今回は分子という物質の表し方を調べていきます。	分子とは何かをまとめ、説明できるようにしよう。		<ul style="list-style-type: none"> 単元マップを確認する 授業内容に見通しをもたせる。 原子という考え方をを使い、分子について班で説明できるようにするという本時の課題をおさえ、個人学習に取り組みさせる。
11:35	<p>前回、原子についての学習をしました。今回は原子の考え方をを使い、分子について学習をします。最終的に分子とは何かクラス全員が分かるよう班でまとめ、説明してもらいます。</p> <p>まず、教科書 P26～27 を見ながら分子について個人で学習し、学習マップに書きましょう。</p>	分子について個人学習した内容を班で共有し、他の班に分子とは何か具体的に説明できるように準備しましょう。前回作った原子モデルを使ったり、新しくモデルをしたりしてもいいです。分子とは？そして、分子にはどんなものがあるか？他の班のために詳しく説明できるようにしましょう		<ul style="list-style-type: none"> 責任をもって参加できるよう、グループの中で係分担任を行う。 司会…グループ学習の話合いの進行 記録…グループの考えをホワイトボードなどへの記入 発表…グループの考えを他

11 : 50	<ul style="list-style-type: none"> ・分子は物質の性質を示す最小単位だと分かったよ。 ・原子が結び付きできていることを、玉を使って説明しよう。 ・分子を作らず、多くの原子が決まった割合で集まってできているものもあるみたいだね。それも説明しよう。 	<p>の班へ伝える 準備…学習に必要な道具等を準備する</p>
	<p>それでは班ごとに分子についての説明をしていきます。説明する班は前のテーブルに移動し、発表係を中心に説明を行ってください。他の子はテーブルの近くに集まり、説明を真剣に聞きましょう。全ての班の説明の後、分からないことがあれば聞けるようにしておきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもたせるために、ワークシートに今日の学習の流れを示す。 ・学級全体で課題を解決する意識をもたせるために補助発問では、個人学習・グループ学習の課題を示す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・分子というのは、物質の性質を示す最小単位の粒子のことをいいます。 ・前回学習した原子を使い、このようにくっつけることで分子ができます。1個の原子そのままではなく、2個以上の原子が結び付いてできています。 ・物質によっては、たくさんの原子が決まった割合で集まってできている物質もあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の学習の機会を保証するため、司会を中心に、一人ずつ個人で考えたことを発表させる。 ・発表者が前のテーブルで発表を行う形式とする。聞く人は、分子が何かきちんと理解できるよう真剣に聞き、分からないことは質問できるようにしておくよう指示をする。
12 : 00	<p>それぞれのグループの説明を聞き、分からないことはありましたか。学級みんなが分子についてきちんと理解できるよう、あれば教えてください。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・分子のような粒子を作らず、多くの原子が集まるってというのはどういうことですか？ ・たくさんの原子が同じ割合でたくさん集まっているので、区切ることができないものです。だから最小単位で表します。 	
12 : 10	<p>分子とは何か？について今日、収穫したことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分子は原子が集まってできていることが分かった。分子は物質の性質を表す最小単位であることも分かった。 ・分子は原子がいくつか集まってできていることが原子モデルを使った説明から理解できたのでよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の成果についてそれぞれがまとめられるよう、振り返りでは分子とは何かに対して今日の収穫の欄を書かせる。

【学びのねらいをたせむ手立て】

①単元を貫く課題を設定するために、分解・化合・酸化還元に関わる演習実験をし、化学変化に対する疑問をもたせる。【仮説1-①】

①化学変化には、共通するきまりがあるので、生徒の疑問からきまりを探る課題を設定し、単元を貫く追究を行う。【仮説1-①】

①～⑱単元を貫く意識できるように、全17時間の単元マップを振り返り用紙に示し、各時の位置付けを確認する。【仮説1-②】

②～⑱化学変化のきまりを探るために必要知識を最初学習する流れを構想し、のちに学ぶ分解・化合・酸化・還元学習で、その学習できるようにする。【仮説1-②】

①～⑱課題に対し、授業から得られたものが文章で整理できるよう、「今日の収穫」という項目で学習から得られたものを書かせる。【仮説1-③】

物質が変わるとは？(実験を見てみよう！)①

- ・黒い粉が白くなった。水中には空気が出てきている。
- ・水が減って、空気が発生している。2か所にたまっている。
- ・鉄と黄色い粉が加熱すると真っ黒になった。くさい。
- ・いろいろな実験を見たけど、これって何が起きているのかな。
- ・物質がどのように変わっているか知りたいな。

この世にある物質はどのような形で存在するのか？原子②分子③本時化学式④

- ・この世にある物質は原子という粒なんだ。
- ・原子が集まって分子という形でできているんだ。
- ・分子の中身を化学式という形で考えることができるんだ。
- ・前見た実験では、どんな分子や原子が使われていたのかな。
- ・覚えた言葉を使って、前の実験について考えてみたい。

分解とはどのような現象か？酸化銀⑤炭酸水素ナトリウム⑥⑦水⑧⑨

- ・酸化銀の分解では、酸化銀が銀と酸素になるんだ。
- ・炭酸水素ナトリウムは、二酸化炭素、水、炭酸ナトリウムになることが分かった。
- ・電気でも分解できるんだ。水は酸素と水素になるんだ。
- ・分解は1つの物質が別の複数の物質になることだと分かった。

化合とはどのような現象か？硫化鉄⑩硫化銅⑪金属の燃焼⑫

- ・鉄と硫黄が反応すると硫化鉄になるんだ。
- ・銅と硫黄では、硫化銅になるね。加熱しなくても触れているだけで、硫化銅ができることが分かった。
- ・マグネシウムや鉄を燃やすのも、酸素が化合している。
- ・化合は2つ以上のものがくっつき、別の物質になることなんだ。

酸化・還元とはどのような現象か？酸化銅⑬

- ・今までと同じような反応だね。酸化銅が酸素と銅になったから分解だね。
- ・でも、炭素は酸素と結びついて、二酸化炭素になったよ。化合じゃないのかな。
- ・両方とも同時に起きているんだ。酸化・還元っていうんだ。

化学変化のきまりはどうなっているのか？質量保存の法則⑭比例関係⑮⑱

- ・様々な反応を勉強してきたね。きまりはどんなものがあるかな。
- ・反応の前後では、原子の種類が同じだね。
- ・原子の数も数えてみたら、同じだったよ。だから重さも変わらないね。
- ・反応する原子の数が同じだから、反応する比も一緒だね。

◎化学変化の前と後で①全体の質量は変わらない。

②分子を構成する原子の種類・数は変わらない。

◎化学変化する物質の質量の割合の比は、いつも一定である。

【自ら学ぶ手立て】

①生徒一人一人が化学変化に関する疑問がもてるよう、実際に学ぶ実験を最初に演習する。【仮説2-①】

②～④学んだことをそれぞれの実験で利用し、分子・原子レベルで化学変化を考えられるように、この世の物質がどのような形で存在するのかを最初に取り扱う。【仮説2-①】

②～⑱課題を解決するための見通しをもてるように単元マップを用意する。【仮説2-②】

②～⑱自ら進んで学ぶため、学習マップを示し、学ぶことや学ぶ順番を明確にする。【仮説2-②】

②～⑱責任をもって参加できるように、グループの中で係分担任を行う。【仮説3-①】

②～⑱話し合いの中で生徒の思考が深まるように説明する。関係づけるといった話し合いの着眼点を提示する。【仮説3-②】

学習マップ

化学変化のきまりはどうなっているのか？

この世にある物質の形

原子 P.21

表し方 P.24

元素記号 P.24

周期表 P.25

分子 P.26

表し方 P.28

化学式 P.28

単体 P.30

化合物 P.30

化学変化のきまりを求めて・・・

化学変化

分解 P.12

熱分解 P.12

酸化銀 P.12

炭酸水素ナトリウム P.12

電気分解 P.20

水 P.20

化合 P.34

硫化 P.36

鉄と硫黄 P.20

銅と硫黄 P.36

酸化 P.44

マグネシウム P.45

鉄 P.45

炭素 P.47

水素 P.47

還元 P.52

酸化銅と酸素 P.54

化学変化の学習から
見えてきたきまり
は・・・

化学変化のきまり

◎化学変化の前後の数の種類は変わらない。P.37

◎化学変化の前後は変わらない。P.60

() の法則)

◎化学変化の物質の比や の比は一定である。P.65

主体的に 学習に取り組む態度 授業づくりと評価の視点

杉江修治

学習評価の観点の移行



評価の意義

評価の主な機能

- ①教師の指導改善情報
- ②生徒の学習を方向づけるための情報

生徒の育ちの判定という視点で見ると、生徒一人ひとりに応じた学習支援を教師がどれだけできたかという視点で見ると

目標に準拠した評価

準拠すべき目標設定は可能か

主体的な学びの姿を見る指標は何か

3 観点への移行、とくに「主体的に学習 に取り組む態度」導入の意義

1989年の学習指導要領改訂時に示された「新しい学力」の姿が文科省自身にも明確になってきた結果だ

「学びに向かう力・人間性」という学校教育が目指す最終的なゴールと結びつける必要がある。

学校の中だけで完結する力を学力と考える時代ではない

4 観点で見られた評価手法の誤り

「関心・意欲・態度」は学習内容に対する関心、意欲、態度である

学習参加の形ではない

どのような指標を用いてきたかの振り返りが必要

文科省もこここの見直しは重要な力点としている

評価手段は「観察」と「生徒の自己評価」

「観察」

挙手や発言回数、前を向いている、宿題の提出の有無などの指標は態度評価の指標になりえるのか。

チェック項目の精選による教師の観察

例：教師の講義への傾聴／自発的にメモをとる行動／教科書と話題との照合を図る姿／自分から辞書辞典を引く姿／仲間の発言への傾聴の姿／仲間に伝えようとす発言の姿 等

従来の「学習規律」の再検討が必要である。

「自己評価」

毎時の振り返りの記述

ただし、振り返るべき内容的確な指示が必要

「感想」「振り返ろう」などは論外

学習内容の理解度／学習活動が好きか／学習内容への興味関心／自分に必要な家庭学習への気づき／仲間の意見の積極的な取入れ 等

主体的に取り組む態度の評価結果は 教師の指導改善への情報である

生徒の本性：成長意欲を必ず持っている

学びに意欲を示さないのは学習場面の問題ではないか

だれもが意欲的に取り組み場面づくりをししているか

「生徒の育ち」ということばは妥当性があるのか

生徒の意欲をどう引き出すかが教師の仕事

意欲を引き出す授業の工夫

- ① 学びの構えづくりの仕掛けをする
- ② 協同による意欲づけをする
- ③ 成功体験を重ねさせる（「できたーでできない」だけが成功の基準ではない）

学びの構えづくりの工夫

- ① 興味関心を引き起こす導入教材の工夫（知的不調和）
- ② 明確なゴール表示によって活動の方向づけをする
- ③ 学習活動の手順を報せ、学習ステップの意義が分りながら学習できるようにする
- ④ 教材を学ぶ意義（値打ち）を理解させる
- ⑤ 学習後に学習による成長を自覚するための振り返りを行う

協同による意欲づけ

- 協同の意義を誤解しないことが必要
- 協同とは、集団のメンバー全員の成長を目標にすること
- 協同の単位は学校ならば学級である。
- 学級のメンバー全員が互いに高め合う場面こそ意欲付けがなされる

主体的学びを促すいくつかの技法

挑戦のある学びを仕掛ける

練り上げる必要のあるグループ課題

よりどころの多い学習場面を作る

教科書などテキストを与えての読解の機会を増やす

スマートに終わらない授業を仕組む

教師のまともめは必須だろうか

本田由紀『教育は何を評価してきたのか』2020

秋吉和史の研究(2017)を引用。

1940年以降の戦中期になると、「態度」は観察・考察・測定・記録の対象となるだけでなく、「皇国民」育成のために「他律的に「模」られるべきものへと定義が転換される。・・・子どもに教え込まれ監視されるものとして「態度」が位置づけられていく。外面と内面の双方に関して、すべての子どもにも要求される「望ましい」あり方の焦点となってゆくのが、「態度」という言葉であった。

2020 年度 第 2 回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業 1 資料
- 3 研究授業 2 資料

1 日程

2020年6月18日

- 10:15～10:25 授業者説明
- 10:30～11:20 公開授業1(第3時限)
- 11:30～12:10 研究協議
- 12:10～12:25 講評
- 13:00～13:10 授業者説明
- 13:15～14:05 公開授業2(第5時限)
- 14:15～14:55 研究協議
- 14:55～15:15 講評

2 研究授業1 第1学年 保健体育科

単元名 全員で声をかけ合いボールをつなぐバレーボール

単元目標

- ・グループにおける自己の役割を自覚して話し合いに参加しようとする(態度)
- ・ルールや技術の名称、その行い方を理解し、試合やペア学習から自己やグループの課題を見つけ、運動の取り組み方を工夫する。(知識・思考・判断)
- ・仲間が操作しやすい位置にボールをつなぎ、相手コートに返球したり貞一に戻り、打球に備えた準備姿勢をとったりする。(技能)

単元について

(1) 生徒の実態(男子14名、女子8名、計22名)

事前アンケートでは、球技が得意、やや得意と答えた生徒は14人でやや苦手と答えた生徒は8人だった。生徒が苦手と答えたのは「ボールをうまく扱えない」、「チーム戦になると頭が混乱する」などの理由からだった。また、22人中16人がバレーボールをしたことがあると回答した。ただ他の6人はこれまでバレーボールに触れたことがない。このことを踏まえて初めてバレーボールに触れる生徒も技能を向上させることができるようにスモールステップで授業を進めていく。また、6月に学校が再開したばかりなので、生徒同士が交流する場を十分に設けることができていない。本単元で生徒同士の関わり合い、学び合いを通して生徒間の仲間意識を深めていきたい。

(2) 保健体育科における協同学習

保健体育科では他者との関わりの中で自他の課題を見つけ、合理的な解決に向け思考判断していく中で学びが生まれる。協同学習は一人一人が仲間の役に立つ、そして仲間の学びが自分の役に立つという考えのもとに学習に参加することが前提である。この考え方をもとに、仲間とともに解決することができる課題を設定し、解決に向け話し合いや学び合いの活動を通して一人一人が自他のために学習に参加できるようにする。また、話し合いの際、すべての生徒が

発言できるような雰囲気をつくりたい。そのために誰もが意見がもてるような資料を提示し、全員が意見を他者に伝えられるような授業を目指したい。

(3) 教材について

バレーボールは、ネットをはさんで相手からのボールを味方のコートに落とさず、自陣での3回以内のパスワークを経て、相手コートの空いた場所をねらって落とすネット型ゲームである。この特性を踏まえ、3年時では3段攻撃を取り入れてチームで作戦を立て相手コートの空いている場所をねらってボールを落とすことを目標とする。そのため、1、2年時では仲間と3回パスをつなぎラリーをより多く続け、ゲームの面白さや仲間と協力することの楽しさを学ぶことを目標とする。仲間とボールをつなぐためには、コートのどこに立つか、どこにボールを上げるか、ボールを持っていない時にどう動くかを全員が理解して取り組む必要がある。このことを達成するために要素に合ったミニゲームを取り入れたり、全員がやりがいをもって授業に取り組めるようにグループの人数を工夫したりして集団技能の向上を図りたい。

単元構想図（次々ページに掲載）

本時の指導

(1) 目標

ボールを持っていない人がどのように動くか、仲間の考えを理解し、自分の動きに組み込むことができる。

(2) 準備

(教師) 参考資料、ホワイトボード（生徒）振り返りシート、バインダー

(3) 展開

時刻	学習活動	教師支援
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目標・主発問</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">補助発問</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-left: 40px;">生徒の反応</div>	
10:30 10:40	<p>○スキルアップドリル</p> <p>前回の授業ではみんなでボールを回すために1打目をレシーブした人がどこにボールをまわせればよいのかについて学びました。ボールを持っていない人はどのように動けば2打目をうまくつなげ、3打目で返球できるようになるでしょうか。まず、資料のP8を見て下の空白に個人の考えを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ボールを持っていない人はどのように動けばいいだろう？ </div>	<p>・「単元マップ」で単元の流れを確認する。</p> <p>・ホワイトボードを活用し、授業の流れを確認する。</p> <p>・話し合いを効率よく進めるため授業の流れをパターン化する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ①個人で意見を考え、付箋に書く。 ②グループで意見を共有する。 ③共有した意見をもとに動きを実践する。 ④実践をもとに班で意見をまとめる </div> <p>・責任をもって参加できるようにグル</p>

	<p>(個人思考→グループ)【焦点化】</p> <p>個人の意見を全体で伝え合った後にそれを確かめるために試合で実践します。試合の中で見つけたことを班で伝え合ってください。</p> <p>・レシーブする人に近づく、後ろに回る。 ・レシーブする人におへそを向ける。</p>	<p>ープの中で係分担を行う。</p> <p>司会…グループの話し合いの進行。 記録…グループの考えをホワイトボードにまとめる。 発表…グループの意見をほかの班に伝える。 発表補佐…発表係を手助けする。 タイムキーパー…時間を確認しながら話し合いを進められるよう声かけをする。</p>
<p>10 : 47 11 : 07</p>	<p>○各班動きの確認→ミニゲーム (グループ→全体)</p>	
<p>11 : 17</p>	<p>全体でゲームをしてもう一度課題について意見を伝えます。伝え終わった後、付け足しや別の意見がある人は挙手してください。</p> <p>・近づきすぎるとカバーしづらいね。 ・レシーブする人の様子によってカバーに行かず前に走った方が3打目に返球しやすいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の意見がもてるように動き方の例が書いてある資料を提示する。 ・意見の共有を効率よく行うために一つの班が発表し、その後付け足しがあるかを問いかける。また、聞く姿勢をつくるため聞き手にも課題を与える。
<p>11 : 20</p>	<p>今日の振り返りをします。 今日の収穫には話し合いや仲間の意見から分かったことを記入してください。</p> <p>ボールを持っていない人はただボールを待っているのではなく、レシーバーの後ろに動いたらカバーができ、パスをまわしやすくなることに気付いた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の達成感を味わい、次時の意欲につなげられるように課題の達成度合いが分かる振り返りを活用する。 ・仲間との関わりからできたと感じられるように今日の収穫で仲間の意見や話し合いの中から分かったことを記入させる。

課題をつなげるための手立て

① バレーボールの技能を高める必要感を持つために単元の最後に校内バレーボール大会を設定する。

(仮説 1-①)

①単元の課題をつかむためにルールを簡易化した試し試合を行う。

(仮説 1-①)

②～⑫単元を貫く課題を生徒と共に設定し、その意識に沿った単元マップを作成して提示する。

(仮説 1-②)

②～⑫仲間とともにできた、分かったと達成感を得ながら学習に取り組めるよう課題の達成度合いが分かる振り返りを用いる。(仮説 1-③)

⑩～⑫練習の成果と課題を見つけられるように毎授業最後に班対抗戦を行う。

バレーボールを全員で楽しむためには?①

・みんなで力を合わせてパスをつなぐことができれば楽しいよね。
・ボールをつないで全員でバレーボールを楽しみたい。

基本的な個人技能のポイントを知ろう②

・オーバーハンドパスは落下地点にすばやく移動し、おでこの前で構えていたら安定してボールをキャッチできたよ。
・これなら仲間とパスをつなぐことができそうだ。

パスをつなぐためのチーム技能を身につけよう③

・パスをつなぐためにはボールの動きに合わせて体の向きを変えたり、次に誰がとるか声を掛け合ったりすればつながるね。
・ネットを挟んでもパスをつなぐことができそうだ。

自陣内でパスをつなぐためのポイントを見つけよう④⑤⑥ [本時]

④後衛側の方に人数を多く配置した方が仲間のミスをカバーしやすいね。

⑤レシーブした人はボールをコートの前で運ぶ意識が必要だ。

⑥ボールを持っていない人がカバーできるようにレシーバーに近づこう。

これまでの技能を使ってラリーが続けられるようになろう⑦⑧

⑦キャッチなしだとこれまで以上にボールを持っていない人の動きが重要だね。

⑧初めてフルコートで試合をしたけれどこれまで学習したことを意識すればパスをつなげられようだ。

練習試合を行い、自分たちの課題を見つけよう⑨

・僕たちの班は試合の時にあまり声がかけていないね。
・僕たちの班は自陣コートに空いたスペースが多くない?

班の課題に合った練習方法を選択し、レベルアップしよう⑩⑪⑫

・「次僕にボール上げて！」などの声かけを意識しながら 3 対 3 のミニゲームを行ったらラリーを長く続けることができた。
これまでのポイントを意識すればバレーボール大会も楽しめそう

バレーボール大会を楽しもう!⑬

・仲間と声をかけ合ったり、カバーし合ったりすることでラリーが長く続いて楽しかった。また、自分のミスも仲間がカバーしてくれるので仲間を信じて積極的にボールを触ることができた。

自ら学ぶ手立て

①～⑫授業の見

通しがもてるように練習方法やゲームの進め方を資料で提示する。(仮説 2-②)
・ボールに慣れるためやわかりやすいボールを使用する。(仮説 2-①)

②正しい構え方や動き方の手本となる写真を提示する。(仮説 2-①)

③～⑧責任をもって話し合いに参加できるように個人の役割を分担する。

(仮説 3-①)

③～⑫話し合いで生徒の思考を深めるため話し合いの着眼点を示す。(仮説 3-②)

⑨チームの課題を見つけやすくするために試合をタブレットで撮影し試合後に見せる。(仮説 2-①)

⑩～⑫課題ごとに練習方法を提示し、選択できるようにする。(仮説 2-①)

1年()名前

バレーボール 単元マップ

今日の取組	評価	
	個人	班
① バレーボール全員で楽しむためには？		
② ボールをまわすために個人技能を高めよう		
③ ボールをまわすためにチーム技能を高めよう		
④ 自陣内でボールをまわすための位置取りを決めよう		
⑤ ボールの流れに着目して自陣内でパスをつなげよう		
⑥ ボールを持っていない人に動きに着目してボールをまわそう		

みんなの声をかき合おう
協力や笑顔を大切に

ミニゲームの中で自陣内でボールをまわせるようになる

今日の取組	評価	
	個人	班
⑦ 3つの動きに気持ちを付けてキャッチなしでボールをつなげよう		
⑧ これまでの技能を使ってフルコートでパスをつなげよう		
⑨ これまでの技能を使って試合を試してみよう		
⑩ 前回の試合の課題をふまえて練習に取り組み、課題を克服しよう		
⑪ 前回の試合の課題をふまえて練習に取り組み、課題を克服しよう		
⑫ 前回の試合の課題をふまえて練習に取り組み、課題を克服しよう		

みんなの声をかき合おう
協力や笑顔を大切に

自分たちの課題を解決しレベルアップする

校内バレーボール大会

3 研究授業 2 第3学年 美術科

単元 今の自分らしさ全開な自画像

単元の目標

- ・自分自身を見つめ、意欲的に分析した結果をもとに自己の内面を作品に表そうとする。
(関心・意欲・態度)
- ・自己分析を基に作品のイメージを発想し、表現したい自分に近づけるためスケッチで完成像のイメージをもちながら独創的に構想を広げている。
(発想や構想の能力)
- ・構想から得たモチーフに対し、意図をもって構図・配色・人物の表情やポーズを工夫して表している。
(創造的な技能)
- ・作品から表現上のよさや美しさ、作者の心情について根拠をもって感じている。
(鑑賞の能力)

単元について

(1) 生徒の実態 (男子 12 名 女子 10 名 計 22 名)

これまで作品制作では、完成までの手順を示せば、完成時のイメージをもち、意欲的に制作に取り組む姿が見られた。また、制作時には互いの作品を見合う中で、活発に意見を伝え合う場面が見られる。昨年度、単元「ボックスアート」では、自己の内面を作品に表出させる活動をした。表現するモチーフが決まると円滑に作業を進めることができた。その一方、構想段階で心象風景を具体的に形で表すことが難しいモチーフをどのように表現するか悩んでいる生徒が見られた。そこで、多様な自画像の参考作品を生徒に提示すること、構想段階で生徒同士がスケッチを見せ合い新たな発想の獲得につながる場を設けることが、個人の表現したい作品に近づけるために必要であると感じた。

(2) 美術科における協同学習

美術科においては、鑑賞活動を通して作品のよさや美しさを生徒同士で共有し合い、多様な感じ方・考え方を獲得することで自己の表現の幅を広げられることが、学びの深まりであると考える。また、課題によっては複数の生徒で共に一つの作品を作ることで自分の役割を認識し、よい作品となるように責任をもって活動に参加できる。本単元は、個人で作品を制作することが中心である。自己を表現する活動も重視したいが、生徒は創造者であると同時に、各々が鑑賞者でもある。自身や他者、作品との対話を通して目的意識を共有した仲間と共に互いの作品をよりよくしようとする姿が期待できる。

(3) 教材について

「自画像」は、制作を通して自己を見つめ直し、将来の夢や目標、理想や現実を表現する活動である。進路選択を控えた中学3年生という多感な時期だからこそ、自分自身と向き合い、今しか描くことができない自分を明確にして表現する自画像の制作は、生徒自身を成長させる題材である。本単元では、自分自身と深く向き合うことができるよう作品を構想する時間を確保し、スケッチを重ねながら完成するまでの過程を大切にする。また、構想の段階で他者と意見を交換する場を設けることで、表現で悩んでいる点の解消や他者の視点から得られる新しい考え方によって表現の幅を広げ、自らの内面が表された作品に迫ることができるようにしたい。

【課題をつなぐ手だ
①今しか描けない自画像を描きたいという気持ちをもてるよう、制作年の異なるピカソの作品を複数枚提示する。(仮説1-①)

①～⑨課題の達成度合いを確かめられるよう、生徒用単元マップ上に振り返り欄を設ける。(仮説1-③)

②制作時に意識する視点をもつために、参考作品の鑑賞を行う。その上で、「制作で大事にしたいポイント」について意見を出し合う。(仮説1-②)

②③④各時間の課題のつながりが感じられるように、構想段階ではスケッチ、自己分析を一枚の紙にまとめる。

今の自分にしか表せない自画像を描く意識をもてるよう、制作年の異なるピカソの作品を鑑賞しよう①

・今の自分の気持ちが最大限に表せるように構想を練って、作品を作りたいな。

鑑賞を通して制作時に大事にしたいポイントを見つけよう。②

・配色や構図など制作時のポイントを考え、構想し、完成までの見通しをもつことができたよ。

自己分析をして、現在の自分をどのように表現するかスケッチをしながら構想しよう。③④

・今の自分は悩みが多いけど、そんな状況も楽しめている自分を表現してみたいな。
・表したいことは見えてきたけど、どうやって表そう。友達の見解も聞いてみたいな。

他者からもらった意見と自らの構想を整理し、作品の方向性を固めよう。(本時) ⑤

・Aさんの作品は、この作家のこの表現を取り入れるとより自分らしさが出ないかな。
・描きたい自画像が少しずつ見えてきたぞ。

作品の全体的な構図を固め、下描きを描こう。⑥

・画面全体の構図が大体決まったよ。
・完成像が見えてきたので制作を進めていこう。

画材や用具等の特性を生かしながら作品を制作しよう。⑦⑧⑨

・自分を表すために、絵の具を振り落としてみたよ。

友達の表現の工夫を鑑賞しよう(鑑賞会) ⑩

・自分らしさを表すために、造形的な表現のよさや面白さ、新しい発見があったよ。
・作品から普段とは違う友達の一面を知ることができたよ。

自己分析をし、作品の構想に時間を割いたことで自分らしさのイメージを明確にもつことができ、構想する時間の大切さを感じたよ。様々な作品を鑑賞したり、友達の見解も取り入れたりしたことで表現の幅を広げることにつながったよ。

【自ら学ぶ手だて】
①・④責任をもって話し合いに参加できるよう役割を分担する。(3-①)

①～⑨いつでも生徒の目に触れられるように、自画像の参考作品を美術室内に掲示する。(仮説2-①)

④構想スケッチを見せ合い、より描きたい自分の姿に作品が近づくよう、他者と意見交換会を設定する。(仮説3-②)

⑥⑦⑧表現の思考に幅をもてるようにするために、吹き流しやスパッタリングなど、モダンテクニックができるブースを設ける。(仮説2-①)

本時の指導

- (1) 目標 他者からもらった意見と自らの構想を整理し、構想シートを完成させる。
- (2) 準備 構想シート、鑑賞シート、シール、単元マップ、話し合いの手順を示す掲示物
- (3) 展開

時刻	目標・発問	補助発問	生徒の反応	教師支援
13:15	表したい自分が作品に表現できているかを友達と見合い、「自画像制作のポイント」から改善点を見つけて修正し、構想シートを完成させよう。			・単元マップを用いて、本時の位置づけと、本時の流れ・目標を示す。
13:17	全員のスケッチを順番に鑑賞します。構想シート（別添①）の「こんな自分が描きたい」と「スケッチ」を見比べ、直感的にイメージが伝わっているか、伝わっていないかを該当する欄にシールで貼ってください。		<p>・「夢見る明るい自分を描きたい」とあるけど、スケッチの背景の色が暗めで伝わりにくい。</p> <p>・「好きな物に囲まれて幸せな自分」という作者の意図が周りに描かれた楽器や人形からよく伝わったよ。</p>	・『自画像制作のポイント』として、単元の導入で生徒の言葉から生まれた【①構図、②配色、③表情、④背景、⑤人物以外の要素】の5つの視点を提示し、個人の意見がもてるようにする。
13:30	班に戻った後は次の手順で話し合いましょう。鑑賞シートに貼られたシールの数に注目し、「伝わっている」が多かったらどのような点がよかったのか、「伝わっていない」が多かったらどのような点が課題で改善点は何か、みんなでアイデアを出しましょう。その際は『自画像制作のポイント』に基づいて考えましょう。みんなのアイデアが出たら、構想シートを修正し、最終的なイメージを固めましょう。		<p>Aさんの作品は①構図があまり伝わっていないね。伝わっていないのは、目立ちたがりの自分を表したいのに人物の向きが真正面ではないから伝わりにくかったんじゃないかな。人物を正面から見た構図に変えるとより伝わるよ。</p>	<p>・後半の話し合いで使用することを伝え、多くの人から意見をもらうようにする。</p> <p>・個人の意見がもてるように話し合う前の一分程度、表を見る時間をとるように促す。</p>
14:00	友達との関わりを通して学んだこと、今日の時間で自分の作品がどのように変わったか振り返りましょう。		<p>・自分では思い浮かばなかった発想と出会い、より自分の表現したい自画像に近づけることができたよ。</p> <p>・悩んでいた点が解決し完成像がイメージできたよ。</p> <p>・友達から意見をもらうことのよさに気付いたよ。</p>	・グループでの話し合い活動を経て得た収穫を振り返り、本時における個々の表現の変容や次時に意識をつなげることができたかを書けるようにする。

(4) 評価 (A基準)

- ・他者からもらった意見と自らの構想を整理し、具体的な言葉やスケッチで構想シートを完成させる。

自画像 単元マップ		名前	
時数	今日の収穫	課題の達成度	
③		A・B・C・D	
④		A・B・C・D	
⑤		A・B・C・D	
⑥		A・B・C・D	
⑦		A・B・C・D	
⑧		A・B・C・D	
⑨		A・B・C・D	
⑩		A・B・C・D	

<p>①自画像作品を鑑賞し、「自画像制作のポイント」を見つけよう。</p> <p>②③④自己分析・スケッチをして、表したい自分を具体化しよう。</p> <p>⑤表したい自分が作品に表現できているかを友達と見合い、「自画像制作のポイント」から改善点を見つけて修正し、作品の最終的なイメージを固めよう。</p> <p>⑥本番用紙に下描きを完成させよう。</p> <p>⑦⑧塗り方の練習をしながら、完成に向けて制作を進めよう。</p> <p>⑨塗りきって作品を完成させよう。</p> <p>⑩鑑賞会で友達の表現の工夫を伝え合おう</p>

今の自分らしさを全開な自画像

2020 年度 第 3 回研修会

- 1 日程
- 2 研究授業 1 資料
- 3 研究授業 2 資料
- 4 研究授業 3 資料

1 日程

2020年7月17日

- 10:15～10:25 授業者説明
- 10:30～11:20 公開授業1(第3時限)
- 11:30～12:20 公開授業2(第4時限)
- 13:00～13:10 授業者説明
- 13:15～14:05 公開授業3(第5時限)
- 14:15～14:55 研究協議
- 14:55～15:15 講評

2 研究授業1 第2学年社会科

単元 「備えあれば憂いなし!みんなで備えろ!次世代パンデミック」(地理「世界から見た日本の姿」)

単元の目標

- ・世界的な感染症の流行と関連づけ、世界的視野から見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴を捉える学習に関心を持ち、意欲的に取り組む。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・学習活動を通して明らかになった日本の地域的特色をもとに、感染症の大流行との関連や、学習内容を生かした対策を考え適切に表現する。
(社会的な思考・判断・表現)
- ・日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から学習するために、各種地図・統計資料などの役割を理解し、適切に選択し比較して読み取る。
(資料活用の技能)
- ・世界的視野から見た日本の地域的特色と日本全体の視野から見た国内の諸地域の特徴を理解する。
(社会的事象についての知識・理解)

単元について

(1) 生徒の実態(男子10名、女子5名、計15名)

さまざまな活動に対して積極的で、社会科の授業に対しても、教師の問いかけに対してすぐに反応し発言をしたり、自分が疑問に思ったことを質問したりと、意欲的に取り組んでいる。しかし、話し合いになると、論点が定まらず考えの深まりという点に関しては物足りなさを感じる。本単元では、目的や視点を定め話し合い活動を行う。何を目的とした話し合いなのかを意識し、視点に基づいて内容を焦点化することで、積極的に発言し、交流ができる生徒たちの良さを生かし、社会的な見方の広がりや考え方の深まりに期待したい。

(2) 社会科における協同学習

本校研究では、「協同学習」の考えを取り入れ研究を行っている。協同学習とは、生徒全体が目的を理解して学びを共有し、全体が高まる学習である。この考えをもとに、社会科における協同学習を「生徒全体が学習の目的を共有し、学習によって得られた知識をもとにした話し合いを通して社会的事象を考察する学習、また、それらを他者に伝えることを意識して、分かり

やすくまとめて発表する学習」と定義する。この考えをもとに、本単元では、学級全体で達成する課題を設定し、グループでの話し合いを通して、学習内容をもとに出来事の背景を考えたり、自分たちの考察をもとに具体的な課題の解決方法を考えたりする活動を取り入れる。これらの活動を通して、協同的な学習を行うことで、学級全体の社会的な思考力や判断力、表現力を育成していきたい。

(3) 教材について

本単元では感染症の大流行を教材として取り扱う。生徒たちは、昨年度より始まった新型コロナウイルス感染症の大流行の影響を受け、休校が実施されたり、外出の自粛や身の回りの店舗の休業を目にすることがあったりと、大きな影響を実感しており、高い関心をもつ教材であると考えられる。身の回りで起きた感染症の流行による影響を導入として取り上げ、その出来事の背景を考察することで学習内容の深まりを目指したい。また、感染症の大流行の歴史に目を向けると、2014年にはエボラ出血熱、2009年には新型インフルエンザ、2004年には鳥インフルエンザと、定期的に世界的な流行が起こっており、生徒たちは将来再び世界的な大流行を経験することが想定される。こうしたことから、次世代の大流行を想定させ、その際の対策を考えることを単元を貫く課題として設定し、学習を目的意識をもって自分たちに意味のあるものとしてとらえさせ学習を展開したい。

単元構想図（次々ページに掲載）

本時の指導

(1) 目標

・日本の商業・サービス業の様子をもとに、日本の新型コロナウイルスに対する政策について、その理由を説明することができる。

(2) 準備 ワークシート、映像資料、統計資料、資料提示用パソコン、生徒用 WB。

(3) 展開

時刻	教師の発言・発問	生徒の意識	本時の課題	教師支援
10:30	単元マップを見て今日の学習を確認しましょう			
		<ul style="list-style-type: none"> ・次の大流行の対策を考えるために、今回の新型コロナと日本にどのような関係があるかを考えていくんだっとな。 ・今日は商業やサービス業について学習するんだっとな。 		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の軌跡とこれからの予定を記載した単元マップを活用する。
	新型コロナ関連の情報を確認しましょう。			
		<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ商業やサービス業には大きな影響があったのかな？ ・商業やサービス業に様々な経済損失がでたんだね。 ・どうして自粛をすぐにしなかったのかな？ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ニュース映像、企業の減益率、影響度の資料を提示する。

10:35	<p>本時の課題を設定しましょう</p> <p>どうして政府はすぐに営業自粛要請を出さなかったのだろうか？いろいろな角度で分析し理由を明らかにしよう</p> <p>本時の課題を考えるために、日本の商業・サービス業について、教科書を使って学習をしましょう</p> <p>・日本は第三次産業の就業者数が半数以上なんだな。 ・ショッピングセンターやコンビニが増えているんだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自粛の遅れに対する批判映像から課題を設定する。 ・話し合いの視点と個人の考えをもつための知識を獲得させる。 ・活動の見通しがもてるように、活動の流れを視覚的に提示する。
10:50	<p>今日学習した「第三次産業の特性」「商業の多様化」「近年のサービス業」の3つの視点をもとに課題について話し合いを行います。まずは、個人で考え、その後班の中で話し合い、WBにまとめます。個人では、3つの視点をそれぞれ分担し、担当する視点をもとに課題について分析をします。班での話し合いでは、課題を達成するために、<u>それぞれの個人で考えた内容をもとに分析した理由が社会的に正しいといえるかどうか検討してください。</u></p> <p>・「第三次産業の特性」の視点からはGDPのグラフから人と関わる第三次産業の国内総生産が多く影響が大きいから簡単に営業自粛が出せなかったんだね。 ・「商業の多様化」では日本は教科書の各店舗の店舗数の変化のグラフから大型スーパーが増えているから、自粛すると経済損失が大きいから出さなかったんだね。他にも閉店が増加している商店への影響も考慮したんじゃないかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの視点を意識できるように、板書に明示する。 ・役割を提示し、個人が責任をもって話し合いに参加できるようにする。 ・様々な資料を活用できるように資料集も活用させる。 ・「社会的な正しさ」については客観的な資料があるかどうかによらせる。
11:10	<p>・「第三次産業の特性」では、資料から国内総生産の多さを根拠にしているから、問題ないと考えられるね。 ・理由は説明できているけど、資料などの客観的な根拠がないから正しいかどうかは判断できないね。</p> <p>それではそれぞれの班の考えを見てみましょう。他の班の考えと自分の考えを比べましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班のWBを黒板に掲示し発表とする。 ・個人のWBを使い、共通点には下線を、相違点は追記をする。
11:15	<p>僕は「産業の種類」の視点で考えたけど、「商業の多様化」の視点からも説明ができるね。</p> <p>本時のふりかえりを行いましょう。単元を貫く課題、本時の課題についてふりかえりましょう</p> <p>・ただ自粛をするだけでなく、経済的な損失を出さないような対策を考えないといけないね。 ・次回は「貿易」視点から学習するよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元マップに触れ、次時の内容を確認することで、単元の見通しをもたせる。

(4) 評価<A 基準>

・日本の商業・サービス業の様子をもとに、日本の新型コロナウイルスに対する政策について、資料を用いて様々な視点から、その理由を説明することができる。

単元構想図 (11 時間完了 本時 6/11) □ …中心となる発問や課題 ▭ …予想される生徒の思考

<p>【仮説1 課題設定の手立て】</p> <p>① 今後も感染症の大流行が起こり対策の必要性があることに目が向くよう、大流行の歴史を取り上げる。</p> <p>② 産業別に追究できるように、国内の状況に目を向けさせ、単元マップに記載する。</p> <p>③ 課題がもてるよう、なぜ大流行が短期間で起こったのかを問いかける。</p> <p>④ 次の時の課題をもたせるために、国内の流行に目を向けさせる。</p> <p>⑤ 日本の農林水産業に目が向くよう、はじめに単元マップを提示する。</p> <p>⑥ 日本の工業に目が向くよう、はじめに単元マップを提示する。</p> <p>⑦ 日本の商業・サービス業に目が向くよう、はじめに単元マップを提示する。</p> <p>⑧ 貿易との関係に目を向けさせるために、単元マップに注目させる。</p> <p>⑨ 世界の資源分布に目が向くように、資源の輸入元に触れる。</p> <p>⑩ 学習内容を整理することの必要性を意識できるよう、単元マップを活用し、本時の課題を確認する。</p> <p>⑪ 目的を明確にし、必要感をもてるよう、単元マップを活用し課題を再確認させる。</p>	<p style="text-align: center;">① 新型コロナウイルス感染症による被害と感染症のパンデミックの歴史を知ろう <活動> 感染症の歴史を知り、学習の計画を立てる</p> <p>・日本でも休校になったり、連日ニュースになったりとぼくらの生活にも大きな影響がでたね ・世界的に何万人もなくなったり、お店が閉まったりと経済的にも大きな被害が起こっているね ・今回の大流行が収まっても、歴史的に見てまた起こる可能性は高いんだね ・どうして昔と違ってこんなに短期間で大流行になったのかな?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">② どうして世界的な大流行が起こったのだろうか? <活動> 世界の交通網の発達や国際的なつながりについて理解し、大流行の理由を考える</p> <p>・グローバル化によって国同士のつながりが強くなったため、世界的に広まったんだね ・世界的な大流行の理由は分かったけど、日本はどうなんだろう?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">③ 日本国内に広がった原因は何だろう? <活動> 日本の交通網の発達を理解し、感染症が広まった理由を考える</p> <p>・高速交通網など交通機関の発達によって、広まりやすくなっているんだね ・感染症の広がりは、日本国内にどのように影響したのかな?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">④ 感染症の大流行は日本の農林水産業にどのような影響を与えるのだろうか? <活動> 日本の農林水産業の状況を理解し、どのような影響があったか考える</p> <p>・食料の自給率が低いので、輸入が止まると食料品が高騰する可能性があるね ・農林水産業はわかったけど、工業的にはどのような影響があったのかな?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">⑤ 日本の工業にどのような影響があったのだろうか? <活動> 日本の工業の状況を理解し、どのような影響があったか考える</p> <p>・多国籍企業の多い日本は、感染症の流行により輸入が止まると工業生産や輸出が止まってしまうね ・農林水産業・工業だけでなくサービス業にはどんな影響があったのかな?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">⑥ なぜ政府はすぐに営業自粛要請を出さなかったのだろうか? <本時> <活動> 生活経験から商業・サービス業へどのような影響があったのかを考える</p> <p>・近年増加している郊外型のショッピングセンターは大打撃をうけるね ・貿易についてはどのような影響があったのかな?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">⑦ 感染症の大流行は日本の資源・エネルギー状況にどのように影響するのだろうか? <活動> 日本の資源の確保状況を理解し、今後どのような影響が出るのか考える</p> <p>・日本は火力発電が主で、発電のための資源自給率も低いので大流行で輸入が止まるとエネルギー不足の問題が出てくる可能性があるね ・日本はどこから資源を輸入しているのかな?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">⑧ 流行により今後日本の産業やエネルギーにどのように影響するのだろうか? <活動> 世界の産業の分布から輸出入が停止した際にどのような影響があるか考える</p> <p>・様々な資源を輸入に頼っているのだから、国同士のつながりがなくなると資源がなくなってしまうね ・各視点で分析ができたから、次の時間はまとめだね</p> <hr/> <p style="text-align: center;">⑨⑩ 大流行が与える影響について、各班でまとめよう <活動> 学習内容をもとに影響についてまとめる</p> <p>・まとめてみると今回の大流行の様子がわかったよ ・他の班はどのように考えたのかな?</p> <hr/> <p style="text-align: center;">⑪ みんなで備えろ! 次世代パンデミック <活動> 班でまとめたものをもとに、感染症の大流行の対策を考え、発表する</p> <p>・大流行は交通網の発達により起こっているから、外出や海外への渡航の禁止は必要だね ・打撃を受けた産業については、政府の支援が必要だね ・今後はエネルギー問題も起こってくる可能性があるから、自給率を上げる必要があるね</p>	<p>②～⑧ 新型コロナウイルス関連の映像資料や統計資料を提示する。【仮説2-①】</p> <p>②～⑧ 話し合いに活用できる知識を身に着くよう、話し合いを行う前に、教科書を使って各学習内容の概要を学習させる。【仮説2-①】</p> <p>②～⑩ 話し合いの際には、個人の役割が明確になるように、役割分担を黒板に提示する。【仮説3-①】</p> <p>②～⑧ 本時の話し合いの目的を明確にするために、授業の導入部で単元マップを用いる。【仮説3-②】</p> <p>②～⑧ 終末段階の話し合いで活用できるように、各授業の終わりに学習の成果として学習内容をまとめさせる。【仮説2-①】</p> <p>⑨⑩ これまでの学習内容のまとめを糸口として対策を考えさせる。【仮説2-①】</p>
---	--	--

時間	学習内容	課題
1	パンデミックの歴史を知ろう	
2		新型コロナウイルスはなぜ世界中に広がったのだろうか？
3		新型コロナウイルスはなぜ日本中に広がったのだろうか？
4	農林水産業について	
5	工業について	
6	商業・サービス業について	
7	貿易について	
8	貿易について②	
9		次世代パンデミックへの対策をみんなで考えよう
10		次世代パンデミックへの対策をみんなで考えよう②

新型
 コロナ
 ウイルス
 みんなで次世代パンデミックの対策をしよう！



新型コロナウイルスについて学ぼう
 彼を知り

日本と新型コロナウイルスとの関係を学ぼう
 己を知れば

対策を考えよう
 百戦して
 あやうからず

3 研究授業2 第1学年国語科

単元名 登場人物の心情の変化や表現に込めた作者の工夫に迫ろう。

～『星の花が降るころに』（光村図書・1）～

目標

- ・教材文に基づいて登場人物の心情を想像したり、作者の表現の工夫を理解したりしようと、作品を繰り返し読んだり意見交流をしたりする。 (関心・意欲・態度)
- ・教材文の描写を根拠として登場人物の心情とその変化を捉える。 (読むこと)
- ・自身や級友の生活経験と教材文の描写を関連付けて、登場人物の心情の変化について共感的に理解して読む。 (読むこと)
- ・文脈の中で言葉の意味を捉え、作者の表現の工夫について考える。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

単元について

(1) 生徒の実態 (男子12名 女子8名 計20名)

6月に行った物語『花曇りの向こう』の学習で、友達関係を築きにくい転校生の心情を、転校の経験がある2人が語った。授業の振り返りで、「私が考えていたこと以外でも、みんなの話を聞いて共感したことがたくさん出てきたので、みんなで話すことは大切なのだと思った。」という記述があった。それぞれの生活経験を生かして読み取ったことを交流することで多様な考えに気づき、物の見方・考え方を広げ、深めることのできる文学的文章の学習に価値を感じている。

(2) 国語科における協同学習

文学的文章を扱う単元では、登場人物の心情の変化を捉える活動において、各々の生活経験の違いに基づいた多様な考えをもたせることができる。自分とは異なる経験に基づいて語る級友の意見は、登場人物の心情に迫るための貴重な情報となる。中学1年の段階では「共感」という言葉を使うことで、登場人物の心情を多面的に捉えることができるようになる話し合いを成立させる。常に教材文の言葉を意識して考えを交流できるよう、話し合いの前には教材文の記述を根拠として示すように伝える。

(3) 教材について

本教材は、心の距離が開いてしまった親友と仲直りをすることに固執していた「私」が、ひたむきに部活に取り組む「戸部君」や葉を入れ替える「銀木犀」のを知り、前向きに生きていこうという思いをもつようになる作品である。友達関係の変化に悩む中学1年の生徒にとって、「私」の心情に共感しやすい作品であるといえる。そのため、心情の変化を捉える際には、「共感できる場所」という着眼点を示して学習をすすめる。

単元構想 (5時間完了 本時4/5)

□ …中心となる発問や課題 □ …予想される生徒の思考

【仮説1 課題設定の手だて】

① 単元全体の学

習内容を見通せるよう、授業のはじめに単元マップを配付し、各時間の目標を確認する。

(仮説1-①)

② 既習の事項を生かして授業を進めるため、「花曇りの向こう」で学習した、文学的文章の読み取り方に言及する。

(仮説1-①)

②③ 単元を貫く課題を意識させるため、導入で単元マップを開き、本時の学習の位置づけを確認する。

(仮説1-②)

④ 生徒が学んだことを生かせる授業にするため、単元マップやノートへの記述を参考にして自分の考えをもたせる。

(仮説1-①)

作品の大まかな内容をつかみ、学習の見通しをもとう①

みんなの課題を解決しながら、登場人物の心情の変化や表現に込めた作者の工夫に迫ろう。

【教師の範読を聞き、初発感想に加筆する】

・親友との関係がぎくしゃくして、仲直りをしたいけど声をかけづらい「私」の気持ちはわかる。

【登場人物と、視点を確認する】

【場面分けを伝え、時と場所を確認する】

【単元マップをもとに、学習の流れを確認する】

「共感」という言葉を使ってそれぞれの場面での「私」の心情を捉えよう②③

【単元マップを見て、「私」の心情の変化が小説の中心であることを確認する】

【共感できる「私」の心情を見つけ、その理由について自分の考えを書く】

【共感できる「私」の心情について、学級全体で交流する】

・親友と仲直りをするに頭がいっぱいで、戸部君と話すのを面倒に思う気持ちは共感できた。
・待っていたと思われずに話しかけるタイミングを作ろうと、掲示を眺める気持ちは共感できた。
・一生懸命な姿を見ていたら、自分の悩みが小さく思えた経験をしたことがあるから共感できた。

みんなで話し合ってみたいことを出し合い、次時の課題を決めよう④【本時】

【単元マップを見て学習を振り返り、次時に話し合う価値のある課題を話し合ってみよう】

・それまで夏実にこだわっていたのに、急に「大丈夫」と思えた理由を話し合ってみよう。
・作者はどうして銀木犀を作品に登場させたのか。

どうして「私」は、急に大丈夫と思えたのか or どうして作者は、「銀木犀」を使ったのか⑤

【前時に決めた課題について自分の考えをもつ】

【自分の考えを、根拠を明確にして伝え合う】

・帰り道で、銀木犀の葉が新しく生えているという話を聞いてから、前向きになっている。自分を守ってくれていた銀木犀と同じように変わろうと思えたのでは。

【単元の学習を終えた振り返りを書く】

【仮説2 個人思考・仮説3 話し合いの手だて】

① 生徒が作品を読み込み、自分の考えを構築して授業に参加できるように、単元に入る2か月前から教材文を読ませる。

(仮説2-③)

② ③ 個々の気づきを生かして生徒の思考が深まるよう、「共感」という着眼点を示して話し合いを行う。

(仮説3-③)

④ 生徒の思考が深まり、話し合う課題を見つけられるよう、その場で答えられる疑問について小グループで確認する活動を設定する。

(仮説3-①)

⑤ 生徒の思考が深まるよう、既習の事項や教材文の記述を根拠として発言するよう指示を出す。

本時の指導

(1) 目標

・描写を根拠に捉えた登場人物の心情とその変化を踏まえて、「私」の心情をさらに多面的な視点から想像したり、作者の表現の意図を考えて読んだりすることができる。(読むこと)

(2) 準備

単元マップ（生徒用） 教科書の拡大印刷物

国語科1年教科書（生徒） 国語科ノート（生徒） 国語科ファイル（生徒）

(3) 展開

時刻	○学習内容	・生徒の意識	本時のめあて	・教師支援
13:15	○単元マップを見て、本時の課題と、前後の授業との関係を確認する。			
13:18	みんなで話し合ってみたいことを出し合い、 <u>教材文を根拠に話し合える</u> 次時の課題を決めよう			
13:25	○既習事項を振り返り、今までの学習を終えて、まだ解決できていない課題を各自で考える。			・既習事項の振り返りを視覚的に支援するため、「共感」したところを書き込んだ、教材文の拡大印刷物を提示する。
	○考えた課題について3~4人の班で話し合う。出された課題について、解決できるものは他の班員がその場で答える。 ・「私」と夏実の間には何があったのか。 →「小さなすれ違いや誤解」とある。どんなすれ違いかは、想像するしかないと思う。 ・銀木屋の入ったビニール袋をなでたのはなぜか。 →夏実との思い出の証だから、夏実とのつながりを感じたいと思ってなでたのだと思う。			
13:40	○班の中で解決できなかった課題を発表し、その場で解決できるものはないかを話し合う。 ・銀木屋を土に落としたときの心情を考えたい。 ・最後に「大丈夫」と思えた理由を考えたい。 ・作者が銀木屋を使ったのはなぜか考えたい。			・より深い学びができる課題を選ぶ判断材料を増やすため、課題に対する考えが出されるたびに、納得できたかを、学級全体、もしくは課題を考えた班の生徒に問い返す。
14:57	○出された意見の中から、次時に話し合いたい課題について投票する。			
14:00	○決まった課題についての自分の考えをもつ。 ・銀木屋が新しい葉を生やしている話を聞いた後だから、自分			・次時への意欲を高めるため、授業の最後に家庭学習の見通し
14:05	も変わろうと思ったのでは。			を問う。

(4) 評価<A基準>

「私」の心情についてさらに多面的な視点から捉えたことや、作者の表現の意図について考えたことを、教材文の記述を根拠として示して級友に伝えることができる。

安東みきえ著 星の花が降るころに 単元マップ

一年()番名前()

みんなの課題を解決しながら、登場人物の心情の変化や表現に込めた作者の工夫に迫ろう。

次時までに
家庭学習で
取り組むこと

① 作品の大まかな内容をつかみ、学習の見通しをもとう

① ↓ ②

②③ 「共感」という言葉を使って、それぞれの場面での「私」の心情を捉えよう

② ↓ ③

振り返り②

振り返り③

③ ↓ ④

④ みんなで話し合ってみたいことを出し合い、次時の課題を決めよう

④ ↓ ⑤

⑤

自分の考え

4 研究授業3 第2学年 音楽科

単元名 曲想の変化のある曲を創作し、セカンドアルバムを作ろう！

単元の目標

- ・創作に関心をもち、イメージを音楽で表現する学習に主体的に取り組もうとする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・音色やリズムなどの音楽を形づくっている要素について理解し、イメージと関わらせながら曲想の変化をつけて表現する。
(音楽表現の創意工夫)
- ・音楽表現をするために必要な音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。(表現の技能)

単元について

(1) 生徒の実態 (男子10名 女子5名 計15名)

本学級の生徒は意欲的に授業に取り組む、仲間とともに協力して活動する意識をもっている。この意識をより高めることができるよう、全員の曲が入ったアルバムを作ることを目標とすることで、仲間と協力して一つの作品を創り上げる達成感をもたせたい。

2年生になってから行われた鑑賞の授業後は、「3曲目のような曲を作りたい」「鑑賞で学んだことを生かして創作したい」など、意欲的な思いをもった生徒が多く、来年も学級でアルバムを作ることを目標としている生徒もいる。この創作に対する意欲を持続させていきたい。

昨年度行った創作「14人の曲が入ったアルバムを作ろう！」の活動後、アンケートを行った。「楽譜が読めなくても曲を作れたから」や「初めてだったけれど、うまくできたから」という理由で、全員が「また創作をやりたい」と答えた。しかし、「前よりも創作が好きになったか」という問いに対し、「そう思わない(難しかったから)」と答えた生徒もいた。そこで、難しさを感じる活動こそ、平易なアプローチで達成できる指導を行い、音楽に親しむ生徒を育成したい。

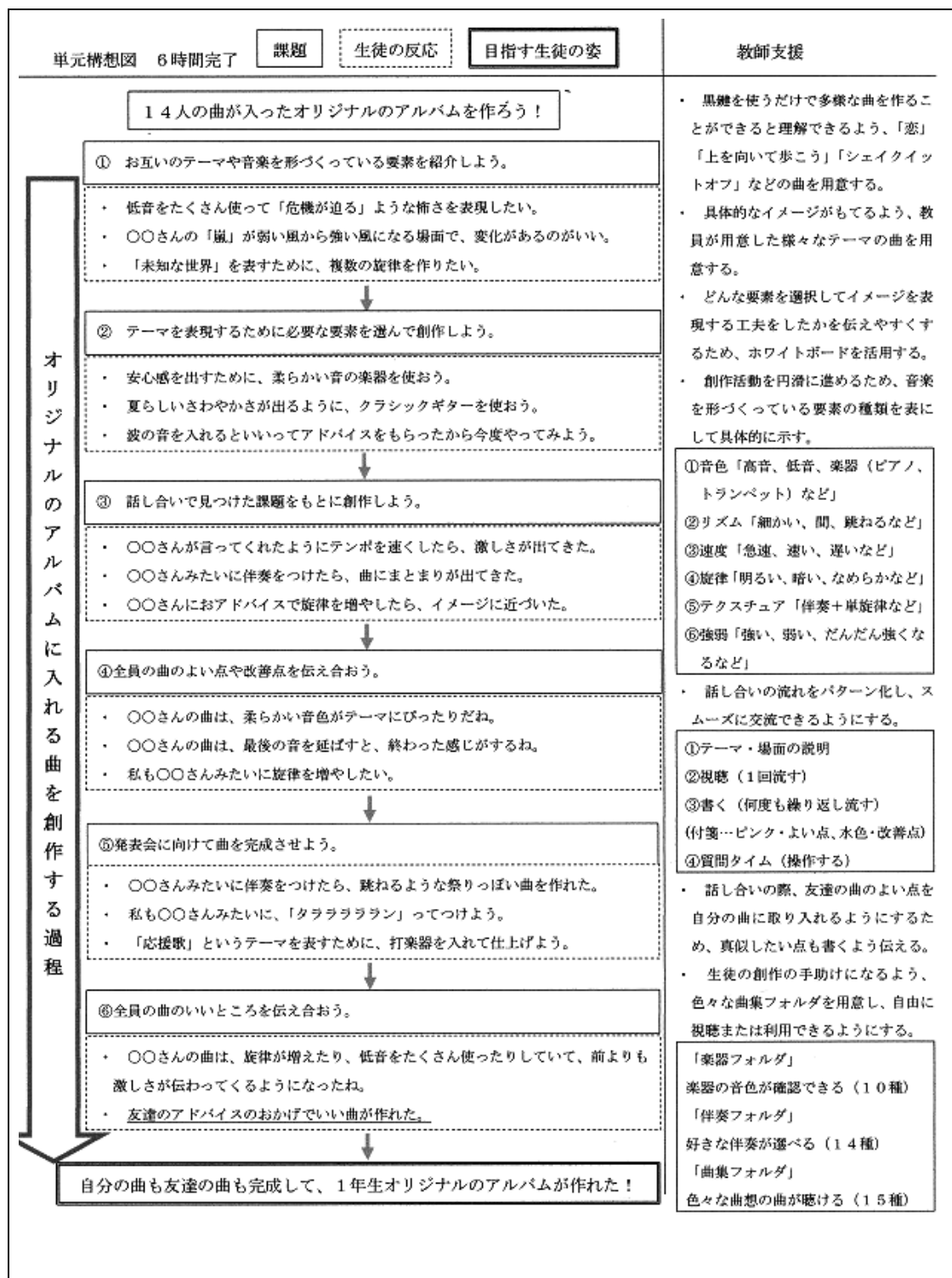
(2) 音楽科における協同学習

音楽科の活動では、音楽を表したいイメージに近づけていく過程で、互いの発想や見通しを伝え合ったり、互いの作品を確かめ合ったりすることで考えが深まっていく。意図的な話し合いの場を設定することで、他の生徒のよさを自分に取り入れたり、他の生徒の意見や作品から新しい課題を見つけたりし、表現を工夫して創作することができるようにする。取り組みやすい題材を扱い、創作に活用できる曲集や伴奏などの資料を用意することで、生徒が自分たちの力で創作活動を進めることができるようにする。そうすることで、仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒が育成できるだろう。

(3) 教材について

創作活動では、表したいイメージと関わらせながら、音色や音の重なり方、リズムなどの音楽を形づくっている要素の特徴を理解し、それらを生かして表現を工夫することが求められる。そのため、本単元は、イメージに合わせて音楽を形づくっている要素を使い分け、曲想の変化をつけることを目標とする。具体的なイメージをもち、そのイメージを表現するために音楽を形づくっている要素を選んで創作することで、イメージと関わらせて曲想の変化をつけた表現の工夫ができる生徒を育成したい。また、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に親しむことができるようにするため、既習事項である黒鍵の5つの音で構成されたメジャーペンタトニックスケールや、読譜が困難な生徒でも簡単に記譜できる「MuseScore」という楽譜作成ソフトを活用する。この活動を通じて、表現を工夫する力を身に付け、音楽活動を楽しむ生徒を育成したい。

単元構想図



本時の指導

(1) 目標

友達のよい点を真似したり、アドバイスしてもらった点を修正したりして、イメージを表現するために工夫することができる。

(2) 準備

(教師) 単元マップ、音楽を形づくっている要素一覧表

(生徒) 筆記用具、イメージマップ、楽譜、音楽ファイル、振り返りシート

(3) 展開

時刻	○学習活動	目 標・主 発	補 助 発	生徒の反応	・教師支援
10:30	○ 本時の目標と流れを確認する。				
11:35	話し合いで課題を見つけ、創作しよう。				<ul style="list-style-type: none"> 授業の見通しがもてるようにするため、単元の授業の始めに「単元マップ」と本時の流れを提示し、確認する。 全員が話し合いに参加できるようにするため、手順の詳細を提示する。
11:00	<p>【話し合い・評価する】話し合いを始めます。流れは前回と一緒にです。今日は、後半のイメージを表現できているかについて話し合います。自分の曲だけでなく、友達の曲もよくするために、修正試聴を繰り返し行い、意見を伝え合ひましょう。時間は一人5分です。それでは筆記用具、イメージマップ、楽譜を持って移動してください。</p> <p>・春らしい明るさを出すために、ヴァイオリンを使っている点がいいね。</p> <p>・この音をもっと延ばした方がいいかな。(視聴する)もう少し延ばした方がいいかも。</p> <p>【個人思考】創作を始めてください。話し合いのメモを生かして曲をよりよくしていきましょう。</p> <p>・○○さんが言ってくれたようにテンポを速くしたら、激しさが出てきた。</p> <p>・○○さんみたいに伴奏をつけたら、曲にまとまりが出てきた。</p> <p>・○○さんが言ってくれたように旋律を増やしたら、イメージに近づいた。</p>				<p>【グループ操作タイム】</p> <p>①「聴いてほしい部分」に対する意見を意識して試聴</p> <p>②「聴いてほしい部分」の修正</p> <p>③残りの時間は、他の意見をもとに、修正試聴する</p> <p>※聴いてほしい部分＝○○の要素を使い、○○のイメージを表現できているか</p> <p>※要素＝単元構想図の【要素一覧表】参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が参加する目的意識をもてるよう、聴き手全員が、発表者に必ず意見を伝えるよう促す。 話し合いで見つけた課題をその後の個人思考に生かせるようにするため、意見を自由にメモできる楽譜を用意する。 自分の力で創作できるよう、3つのフォルダ(楽器・曲集・伴奏)や要素一覧表、説明付きの資料を用意する。 アドバイスを受けた後に自分の曲を改善できるよう、話し合い後に個人思考の時間を設定する。
11:13	振り返りをします。今日の収穫には、「話し合いをしてできたこと・見つけた課題」を書きましょう。				<ul style="list-style-type: none"> 達成感を得ながら次時への意欲を高めるようにするため、課題の達成度合いが分かる振り返りを活用する。 考えが深まったことに気付けるよう、「話し合いをしてできたこと・見つけた課題」を振り返りの視点にする。 仲間と高め合えたことを共有するため、振り返りを伝える時間を設ける。

(4) 評価(A基準)

友達のよい点を真似したり、アドバイスしてもらった点を修正したりして、様々な要素とイメージを関連させながら表現を工夫することができたか。(活動の様子、振り返り)

曲想の変化をつけて創作し、 アルバムを完成させて給食時に流そう！

①お互いのイメージや音楽を
形づくっている要素を紹介しよう

「テーマ」と「要素」を決め、
イメージマップを記入する

②イメージを表現するために
必要な要素を選んで創作しよう

イメージマップをもとに、
創作する（前半と後半）

③④⑤話し合いで見つけた課題を
もとに創作しよう

・友達と作品を聴き合い、
よい点、アドバイスを伝える
・PCで曲を作る

③前半 ○○の要素を使って
④後半 ○○を表現できているか
⑤全て

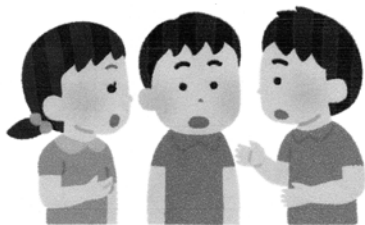
⑥発表会に向けて曲を完成させよう

曲を完成させる

⑦全員の曲のいいところを伝え合おう

☆発表会☆

アルバム完成→給食の時間に流す



Ⅲ 設楽中学校の取り組みについて

設楽中学校の2年間の成果と今後

杉江 修治

1 設楽中学校の印象

2020年度は、新型コロナの感染広がりによって、日常の生活が大いに乱されることとなった。2019年度から続けられてきた設楽中学校の授業研究も、全国で実施された学校の休校措置などによって計画は大きく変わらざるを得ないところがあったはずである。しかし、2020年10月29日の研究発表を迎え、生徒は実に落ちついた学びの姿を見せ、教師集団の意欲も高く、学校が払った努力には素晴らしいものがあったと感じている。

設楽中学校には、昨年5月の第1回研修会に初めてうかがって以来、10回の訪問をした。私は、年間50校ほど、全国の学校に伺っているのだが、各地、教育文化はそれぞれである。私の印象では、愛知県の教育実践は形にとらわれる傾向が強いのだが、設楽中学校の研修に関わって、それが当てはまらないことがすぐに明らかとなった。

まだ20代後半、ずいぶん若かったころの経験だが、滋賀県五個荘小学校の実践に、指導教官に付いて参加した折、教師同士の忌憚のない意見交換が活発になされていたのに出会い、教師たちの本当の姿を見たという感じをもったことがある。そこでは、若手教師がベテラン教師にわからないことはわからないときっぱり伝え、激しい議論が交わされていた。協同学習の神髄は「高め合い」であり、そのためには切磋琢磨も必要となる。率直な意見のやり取りは、教師としての互いの成長の意欲を信頼し合っていることだと感じた。

設楽中学校には若い教師が多い。かれらが研究協議の折、どのような姿を見せるかは、私の当初の関心事であった。すると、その研究協議では率直な意見が年代を越えてなされているのに出会えた。教師集団がそのように活発に動ける背景には、学校経営のあり方が大きく関係している。意欲をもった教師集団との出会いに加えて、管理職の懐の深さを同時に感じたのである。

設楽中学校での授業改善は早く進んだ。新学習指導要領が教育の本質に近づいてきており、合理的な教育が可能になってきたことも手伝い、子ども主体の協同的で深い学びを目指すことに迷いがなくなったことが背景要因として大きかったと思うが、2回目にして生徒の主体的な学びの動きを実現する授業が提案されるようになっていた。教師が格好をつけた授業ではなく、生徒が変われる授業をどうするかという、当たり前でありながら、なかなか今の教育現場では変わらない第一番目のハードルを、早々とクリアしたのである。生徒の成長を第一の課題とし、それに向かう一人ひとりの教師の力量発揮の場として学校経営がなされるのか、それとも従来の教育文化の枠内にとどまり、小さな修正で良しとするような無難を強いるのが分かれ道だと思う。

2 小規模校のメリット、デメリット

山間部の小規模な学校にはメリットとデメリットがある。研修会では、折々に近隣の他校教師も参加していた。協議の意見交換では、設楽中教員と一体となって熱心に議論していた姿が

印象に残っている。共有する課題があるために違いない。

小規模校のメリットと思われている、「指導が行き届くこと」はメリットだろうか。小規模校でこそ教師のやりがいが見つけられるという話を聞かないでもないが、それが、教師にとってのみのやりがいに基づいていなければいいと思う。指導が行き届くことは、教師の介入が増えるということであり、教師が満足するような関わり方では、子どもの自立の学びにつながらない可能性が高い。保護者との関係を良好に保つことも、大規模校に比べるとより可能になると思うが、教育、特に教科指導については素人の保護者に受け入れられる授業や対応が、本当に子どものためになっているかどうかの吟味は必要である。優しい、面倒見の良い教師は素人的には評判は良くなるだろうが、子どもの自立という、かれらの将来に向けた教育という観点からは必ずしも望ましいとは言えない。

小規模だからこそ、子どもに学びを促す仕掛けを作って子ども主体の授業への挑戦をすべきだ。子どもの活動を軸に授業が進めば、子どもに学びを任せている間は教師の手が空き、その時間を本当に困っている子どもに振り向けるという形で、個に応じた必要な働きかけができる。

また、教師が手をかけることは、子ども同士の交流を不要にしてしまうことにも気づくべきである。クラスの人数が少なく、多様な人間関係を築くに不利だという側面は否めない。しかし、協同学習が言う、信頼に支えられた人間関係づくりは、本物の人間関係の経験であり、人数の多寡は本来的な要因ではない。親身になって支え、支えられる経験は、社会に巣立っても貴重な経験となり、生きる上での自信の背景となる。小規模校だからということで、教師と子どもの絆が強調され過ぎると、人間関係の上での重要な学習機会を逃すことになる。

小学校からの人間関係が中学校でも固定されてしまっている、という話もよく聞く。中学生は、心理的に自立に向かう大きな自己改革の出発点である。子ども自身が模索しながら自分を発見していく時期である。自立への模索をしていく中で、かれらは互いの人間関係も調整し、互いの良さを発見し、小学校時代の単純な物差しでの序列を崩していくはずである。学校での勉強は、実は子どもにとっては大きな関心事であり、その重要な事柄を常に教師が取り回していたのでは、子どもの人間関係も変化しないのではないだろうか。

若い教師には、小規模校は、生徒に個別にたくさんかかわることができる、教師としての充実感が味わえる場所だというような、旧来の教育文化に安住することをかれらに経験させないほうがよい。もちろん、一人ひとりの子どもの実態が見えることはメリットだが、教師自身の満足が垣間見えるようなかわり方には気をつけておかななくてはならない。

主体的、協同的な学びを追究した設楽中学校の方向性は、小規模校の実践のあり方として、また若手教師の成長機会として、有意義であるように思う。

3 設楽中学校の研究について

10月29日の公開授業は、若手教師であるが故の緊張が見えたが、いかにも公開用に準備したものではなく、これまでの成果を素直に出し、参加者からの意見をもらって次につなごうという意図の見えるものだった。形にとらわれるところの少ないものだったと思う。

この発表会では、「設楽スタイル」を提案している。私は各校の実践に関わる時には、協同学習の研究者として参加するのだが、協同学習という名称を普及させたいという考えは毛頭持っていない。協同学習の理論と実践工夫には、役立つ視点、役立つ技法がたくさんあり、そ

れを一人ひとりの教師の「個人的学習指導論」を鍛えるのに使ってほしいというスタンスなのである。学校をあげての研究であれば、教師集団として納得した共通課題に向けて、協同学習の理論から得たものを応用、統合してもらえばいいのである。

設楽中学校では、協同学習の理論をとらえ返し、「設楽中スタイル」を提案している。こういう実践づくりの構えが望ましいと思う。〇〇方式を取り入れています、等というアプローチは感心しないのである。誰かが作った方式をなぞるのでは、教師一人ひとりが心からは納得しない。研究期間が終わればその間の経験が霧散してしまう。

「設楽中スタイル」では主体的な学びを促す工夫として合理的と考える事柄を一貫して提案している。

- ・単元マップによって生徒が自ら学びに向かって動ける。
- ・課題の明確化に努めている。学びの構えづくりの重要性を強調している。
- ・協同の本質を踏まえ、各教科でその原理がどう生きるかを考えた授業づくりとなっている。
- ・振り返りを、形式的ではなく、学びの定着、方向づけに使えるよう、その指示の仕方を工夫している。

その具体的な内容は提案資料に書かれているので参考にされたい。

新学習指導要領への対応で、今どの学校でも難しいのが「教師主導から生徒の自立」への転換である。子どもを次々に指名して発言させ、そこに教師が補足を施してストーリーを作っていく。「子どもの思考を紡ぐ」などという言葉があるようだが、紡いでいるのは教師だということに気づくべきである。「子どもが思考を紡ぐ」のでなくてはいけないのである。

これまでの教育論はほとんどが「教師論」だったことに気づくべきだ。大事なものは「学習論」である。設楽中が掲げた上の4点は、教師論から学習論への転換の有効な視点である。

設楽中学校には、今回の機会を出発点と位置付けてほしいことを強調したい。今回経験した新しい挑戦は、同時にこれからの当然の進め方なのだ。新しい方向づけができたということなのだ。

また、この研究発表会は北設楽地方各校の参加があった。共通課題を持つ地域の実践交流の意義は大きい。「学校間の協同」を図り、地区の子どもたちの成長支援にさらに挑戦いただければと思う。

監修者

村松 忠男 設楽町立設楽中学校校長
杉江 修治 中京大学名誉教授

研究同人

村松 忠男	伊藤 昭康	山本 亜矢子	佐々木英幸
大久保日出世	原田 義久	伊藤 勲	小川恵理子
石田千佳子	藤原 崇弘	鈴木 貴大	村松 健太
山本 成美	佐々木崇光	原田 慶佑	池端 凜悟
藤井 優香	長尾 俊也	中村 美琴	山口 智子
佐々木裕直	九澤 信子	氏原 厚子	西尾 美幸
大谷 旭人	シヨーンコリガン	堂地 志帆	

(前職員)

林 博	西谷 円	川村 紘也	山本 早紀
井上 翔太	村井 壽一		

仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成
—課題設定・個人思考・話し合いを重視した協同学習を通して—
(協同教育実践資料25)

2020年12月4日 第1刷発行

著者 設楽町立設楽中学校

監修者 村松忠男・杉江修治

発行 一粒書房

〒475-0837 愛知県半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

編集・印刷・製本(有) 一粒社出版部(代表 都築延男)

〒475-0837 半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

ISBN978-4-86431-960-7 C1337

協同教育実践資料 25

仲間と共に課題に向き合い、自ら学ぶ生徒の育成

ISBN978-4-86431-960-7
C1337

(非売品)

